

【西洋文化学系】

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
3100001	系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	前期	金5	河島 思朗		西洋文化学系1
3102001	系共通科目(西洋古典学)	講義	1-4	2	後期	金5	高橋 宏幸		西洋文化学系2
3202001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	前期	水5	中村 唯史		西洋文化学系3
3204001	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)	講義	1-4	2	後期	水5	中村 唯史		西洋文化学系4
3302001	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	前期	金2	松村 朋彦		西洋文化学系5
3304001	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)	講義	1-4	2	後期	金2	川島 隆		西洋文化学系6
3402001	系共通科目(英語学)	講義A	1-4	2	前期	水4	家入 葉子		西洋文化学系7
3404001	系共通科目(英語学)	講義B	1-4	2	後期	水4	家入 葉子		西洋文化学系8
3406001	系共通科目(英文学)	講義A	1-4	2	前期	金3	廣田 篤彦		西洋文化学系9
3408001	系共通科目(英文学)	講義B	1-4	2	後期	金3	佐々木 徹		西洋文化学系10
3502001	系共通科目(アメリカ文学)	講義A	1-4	2	前期	水5	小林 久美子		西洋文化学系11
3503001	系共通科目(アメリカ文学)	講義B	1-4	2	後期	水5	森 慎一郎		西洋文化学系12
3604001	系共通科目(フランス文学)	講義	1-4	2	前期	火2	永盛 克也		西洋文化学系13
3606001	系共通科目(フランス文学)	講義	1-4	2	後期	火2	村上 祐二		西洋文化学系14
3607001	系共通科目(フランス語学)	講義	2-4	2	前期	火3	小田 涼		西洋文化学系15
3608001	系共通科目(フランス語学)	講義	2-4	2	前期	月4	守田 貴弘		西洋文化学系16
3702001	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)	講義	1-4	2	前期	水2	村瀬 有司		西洋文化学系17
3703001	系共通科目(イタリア語学イタリア文学)	講義	1-4	2	後期	水2	村瀬 有司		西洋文化学系18
3902001	西洋文学入門	講義	1-2	2	前期	木5	佐々木,永盛,河島,村瀬,廣田,中村,川島,小林		西洋文化学系19
3130002	西洋古典学	特殊講義	3-4	4	前期	金3,金4	高橋 宏幸		西洋文化学系20
3131001	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	前期	木2	河島 思朗		西洋文化学系21
3131002	西洋古典学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	河島 思朗		西洋文化学系22
3141001	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	水3	高橋 宏幸		西洋文化学系23
3141002	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	金3	平山 晃司		西洋文化学系24
3141003	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	水3	高橋 宏幸		西洋文化学系25
3141004	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	水5	高橋 宏幸		西洋文化学系26
3141005	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	水5	高橋 宏幸		西洋文化学系27
3141006	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	月5	河島 思朗		西洋文化学系28
3141007	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	月5	河島 思朗		西洋文化学系29
3141008	西洋古典学	演習	3-4	2	前期	火3	早瀬 篤		西洋文化学系30
3141009	西洋古典学	演習	3-4	2	後期	火3	早瀬 篤		西洋文化学系31
3151001	西洋古典学	講読	2-4	2	前期	月3	河島 思朗		西洋文化学系32
3151002	西洋古典学	講読	2-4	2	後期	月3	河島 思朗		西洋文化学系33
3151003	西洋古典学	講読	2-4	2	前期	火2	山下 修一		西洋文化学系34
3151004	西洋古典学	講読	2-4	2	後期	火2	山下 修一		西洋文化学系35
9615001	西洋古典学	語学	2-4	8	通年	月1,木1	広川 直幸	学部共通科目	西洋文化学系36
9645001	西洋古典学	語学	2-4	8	通年	月2,金2	佐藤 義尚	学部共通科目	西洋文化学系37
9664001	西洋古典学	語学	2-4	2	前期	金3	西村 洋平	学部共通科目	西洋文化学系38
9665001	西洋古典学	語学	2-4	2	後期	金3	西村 洋平	学部共通科目	西洋文化学系39
9666001	西洋古典学	語学	2-4	2	前期	水1	勝又 泰洋	学部共通科目	西洋文化学系40
9667001	西洋古典学	語学	2-4	2	後期	水1	勝又 泰洋	学部共通科目	西洋文化学系41
3231001	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	前期	火4	堀口 大樹		西洋文化学系42
3231002	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	火4	堀口 大樹		西洋文化学系43
3231003	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	中村 唯史		西洋文化学系44
3231005	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	中村 唯史		西洋文化学系45
3231006	スラブ語学スラブ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	有宗 昌子		西洋文化学系46
3241001	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	月4	中野 悠希		西洋文化学系47
3241002	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	火2	中村 唯史		西洋文化学系48
3241003	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	後期	火2	中村 唯史		西洋文化学系49
3241004	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	木2	中村 唯史		西洋文化学系50
3241005	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	後期	木2	中村 唯史		西洋文化学系51
3241006	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	前期	金3	堀口 大樹		西洋文化学系52
3241007	スラブ語学スラブ文学	演習	3-4	2	後期	金3	堀口 大樹		西洋文化学系53
3251001	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	前期	火3	伊藤 順二	露書講読	西洋文化学系54
3251002	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	火3	伊藤 順二	露書講読	西洋文化学系55
3251003	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	前期	水3	中村 唯史		西洋文化学系56
3251004	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	水3	中村 唯史		西洋文化学系57
3251005	スラブ語学スラブ文学	講読	2-4	2	後期	金4	帯谷 知可		西洋文化学系58
3262001	スラブ語学スラブ文学	外国語実習	3-4	1	前期	木3	Svetlana, Vinogradova		西洋文化学系59
3262002	スラブ語学スラブ文学	外国語実習	3-4	1	後期	木3	Svetlana, Vinogradova		西洋文化学系60
9661001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系61
9662001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	木4	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系62
9642001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系63
9642002	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	木5	Bogna Sasaki	学部共通科目	西洋文化学系64
9646001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	後期	水2	中村 唯史	学部共通科目	西洋文化学系65
9647001	スラブ語学スラブ文学	語学	1-4	2	前期	水2	中村 唯史	学部共通科目	西洋文化学系66
3331001	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金4	川島 隆		西洋文化学系67
3331002	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	金4	松村 朋彦		西洋文化学系68
3331005	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金3	河崎 靖		西洋文化学系69
3331006	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	TRAUDEN, Dieter		西洋文化学系70
3331007	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	TRAUDEN, Dieter		西洋文化学系71
3331008	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	前期	火3	岡田 暁生		西洋文化学系72
3331009	ドイツ語学ドイツ文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	岡田 暁生		西洋文化学系73
3341001	ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	前期	水4	川島 隆		西洋文化学系74
3341002	ドイツ語学ドイツ文学	演習I	3-4	2	後期	水4	川島 隆		西洋文化学系75

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
3343001	ドイツ語学ドイツ文学	演習II	3-4	2	前期	火2	松村 朋彦		西洋文化学系76
3343002	ドイツ語学ドイツ文学	演習II	3-4	2	後期	火2	松村 朋彦		西洋文化学系77
3345001	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	3-4	2	前期	金5	松村 朋彦,川島 隆		西洋文化学系78
3345002	ドイツ語学ドイツ文学	演習III	3-4	2	後期	金5	松村 朋彦,川島 隆		西洋文化学系79
3351001	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	前期	木4	山口 知廣		西洋文化学系80
3351002	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	後期	月2	林 英哉		西洋文化学系81
3351003	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	前期	水5	飯島 雄太郎		西洋文化学系82
3351004	ドイツ語学ドイツ文学	講読	2-4	2	後期	水3	松村 朋彦		西洋文化学系83
3362001	ドイツ語学ドイツ文学	外国語実習	2-4	1	前期	月3	TRAUDEN, Dieter		西洋文化学系84
3362002	ドイツ語学ドイツ文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	TRAUDEN, Dieter		西洋文化学系85
3431002	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	廣田 篤彦		西洋文化学系86
3431003	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	佐々木 徹		西洋文化学系87
3431004	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	小林 久美子		西洋文化学系88
3431005	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	森 慎一郎		西洋文化学系89
3431006	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	水4	谷口 一美		西洋文化学系90
3431007	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	後期	水4	谷口 一美		西洋文化学系91
3431010	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	木5	西村 秀夫		西洋文化学系92
3431011	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	後期	木5	西村 秀夫		西洋文化学系93
3431012	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	出口 菜摘		西洋文化学系94
3431013	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	里内 克巳		西洋文化学系95
3431014	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	月1	メドロック 麻弥		西洋文化学系96
3431015	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉田 恭子		西洋文化学系97
3431016	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	木島 菜菜子		西洋文化学系98
3431017	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	木島 菜菜子		西洋文化学系99
3431018	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	Karin L. Swanson		西洋文化学系100
3431019	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	Karin L. Swanson		西洋文化学系101
3431020	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	南谷 奉良		西洋文化学系102
3431021	英語学英文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	越智 博美		西洋文化学系103
3431022	英語学英文学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	家入 葉子		西洋文化学系104
3441001	英語学英文学	演習I	2-4	2	前期	火3	家入 葉子		西洋文化学系105
3441002	英語学英文学	演習I	2-4	2	後期	火4	家入 葉子		西洋文化学系106
3441003	英語学英文学	演習I	3-4	2	前期	金2	廣田 篤彦		西洋文化学系107
3441004	英語学英文学	演習I	3-4	2	後期	金2	廣田 篤彦		西洋文化学系108
3441005	英語学英文学	演習I	3-4	2	前期	月2	小林 久美子		西洋文化学系109
3441006	英語学英文学	演習I	3-4	2	後期	水2	森 慎一郎		西洋文化学系110
3444001	英語学英文学	演習II	4	2	前期	水3	佐々木 徹		西洋文化学系111
3444002	英語学英文学	演習II	4	2	後期	水3	佐々木 徹		西洋文化学系112
3451001	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	火2	佐々木 徹		西洋文化学系113
3451002	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	木1	廣田 篤彦		西洋文化学系114
3451003	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	火4	森 慎一郎		西洋文化学系115
3451004	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	火4	小林 久美子		西洋文化学系116
3451005	英語学英文学	講読	2-4	2	前期	火3	桂山 康司		西洋文化学系117
3451006	英語学英文学	講読	2-4	2	後期	火3	桂山 康司		西洋文化学系118
3462001	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	前期	水1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系119
3462002	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	後期	火1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系120
3462003	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	前期	水3	Stephen Gill		西洋文化学系121
3462004	英語学英文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	Stephen Gill		西洋文化学系122
3531001	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月4	小林 久美子		西洋文化学系123
3531002	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月4	森 慎一郎		西洋文化学系124
3531004	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	木1	廣田 篤彦		西洋文化学系125
3531005	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	火3	佐々木 徹		西洋文化学系126
3531008	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	水4	谷口 一美		西洋文化学系127
3531009	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	後期	水4	谷口 一美		西洋文化学系128
3531010	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月3	出口 菜摘		西洋文化学系129
3531011	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	里内 克巳		西洋文化学系130
3531012	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	月1	メドロック 麻弥		西洋文化学系131
3531013	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	月5	吉田 恭子		西洋文化学系132
3531014	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	木5	西村 秀夫		西洋文化学系133
3531015	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	後期	木5	西村 秀夫		西洋文化学系134
3531016	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	木島 菜菜子		西洋文化学系135
3531017	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	木島 菜菜子		西洋文化学系136
3531018	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	金1	Karin L. Swanson		西洋文化学系137
3531019	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	後期	金1	Karin L. Swanson		西洋文化学系138
3531020	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	越智 博美		西洋文化学系139
3531021	アメリカ文学	特殊講義	3-4	2	前期	集中	南谷 奉良		西洋文化学系140
3531022	アメリカ文学	特殊講義	2-4	2	前期	集中	家入 葉子		西洋文化学系141
3541001	アメリカ文学	演習I	3-4	2	前期	月2	小林 久美子		西洋文化学系142
3541002	アメリカ文学	演習I	3-4	2	後期	水2	森 慎一郎		西洋文化学系143
3541003	アメリカ文学	演習I	2-4	2	前期	火3	家入 葉子		西洋文化学系144
3541004	アメリカ文学	演習I	2-4	2	後期	火4	家入 葉子		西洋文化学系145
3541005	アメリカ文学	演習I	3-4	2	前期	金2	廣田 篤彦		西洋文化学系146
3541006	アメリカ文学	演習I	3-4	2	後期	金2	廣田 篤彦		西洋文化学系147
3544001	アメリカ文学	演習II	4	2	前期	火5	森 慎一郎		西洋文化学系148
3544002	アメリカ文学	演習II	4	2	後期	火5	小林 久美子		西洋文化学系149
3551001	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	火4	森 慎一郎		西洋文化学系150
3551002	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	火4	小林 久美子		西洋文化学系151

講義コード	科目名		回生	単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態							
3551003	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	火2	佐々木 徹		西洋文化学系152
3551004	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	木1	廣田 篤彦		西洋文化学系153
3551005	アメリカ文学	講読	2-4	2	前期	火3	桂山 康司		西洋文化学系154
3551006	アメリカ文学	講読	2-4	2	後期	火3	桂山 康司		西洋文化学系155
3562001	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	前期	水1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系156
3562002	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	後期	火1	LUDVIK, Catherine		西洋文化学系157
3562003	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	前期	水3	Stephen Gill		西洋文化学系158
3562004	アメリカ文学	外国語実習	2-4	1	後期	月3	Stephen Gill		西洋文化学系159
3631001	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	木2	永盛 克也		西洋文化学系160
3631003	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	前期	木3	Raphaelle BRIN		西洋文化学系161
3631004	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	木3	Raphaelle BRIN		西洋文化学系162
3631005	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	金3	未定		西洋文化学系163
3631008	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	村上 祐二		西洋文化学系164
3631010	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	森本 淳生		西洋文化学系165
3631012	フランス語学フランス文学	特殊講義	3-4	2	後期	月3	伊藤 玄吾		西洋文化学系166
3645002	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	後期	金4	未定		西洋文化学系167
3645003	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	前期	木4	Raphaelle BRIN		西洋文化学系168
3645004	フランス語学フランス文学	演習	3-4	2	後期	木4	Raphaelle BRIN		西洋文化学系169
3648001	フランス語学フランス文学	演習I	3-4	2	前期	月2	永盛 克也		西洋文化学系170
3648002	フランス語学フランス文学	演習I	3-4	2	後期	月2	村上 祐二		西洋文化学系171
3647001	フランス語学フランス文学	演習II	4	2	前期	月4	永盛 克也,村上 祐二		西洋文化学系172
3647002	フランス語学フランス文学	演習II	4	2	後期	月4	永盛 克也,増田 眞,村上 祐二		西洋文化学系173
3651001	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	後期	月3	永盛 克也		西洋文化学系174
3651002	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	月3	村上 祐二		西洋文化学系175
3651003	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	木2	松原 冬二		西洋文化学系176
3651004	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	水3	多賀 茂		西洋文化学系177
3651005	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	前期	金4	中筋 朋		西洋文化学系178
3651006	フランス語学フランス文学	講読	2-4	2	後期	金4	中筋 朋		西洋文化学系179
3662001	フランス語学フランス文学	外国語実習	2-4	2	通年	火4	Raphaelle BRIN		西洋文化学系180
3731001	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	金2	菊池 正和		西洋文化学系181
3731002	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	月2	村瀬 有司		西洋文化学系182
3731003	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	月2	村瀬 有司		西洋文化学系183
3731004	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	水3	Ida Duretto		西洋文化学系184
3731005	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	水3	Ida Duretto		西洋文化学系185
3731006	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	前期	水5	Ida Duretto		西洋文化学系186
3731007	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	水5	Ida Duretto		西洋文化学系187
3731008	イタリア語学イタリア文学	特殊講義	3-4	2	後期	金2	菊池 正和		西洋文化学系188
3740001	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	4	通年	木1,木2	村瀬 有司,Ida Duretto		西洋文化学系189
3741001	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	前期	金3	村瀬 有司		西洋文化学系190
3741002	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	後期	金3	村瀬 有司		西洋文化学系191
3741003	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	前期	火4	河合 成雄		西洋文化学系192
3741004	イタリア語学イタリア文学	演習	3-4	2	後期	火4	河合 成雄		西洋文化学系193
3751001	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	前期	水4	村瀬 有司	伊書講読	西洋文化学系194
3751002	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	後期	水4	村瀬 有司	伊書講読	西洋文化学系195
3751003	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	前期	火2	村瀬 有司		西洋文化学系196
3751004	イタリア語学イタリア文学	講読	2-4	2	後期	火2	村瀬 有司		西洋文化学系197
3764001	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	3-4	1	前期	火3	Ida Duretto		西洋文化学系198
3764002	イタリア語学イタリア文学	外国語実習	3-4	1	後期	火3	Ida Duretto		西洋文化学系199
9675001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	4	前期	月2,木3	菅野 類	学部共通科目	西洋文化学系200
9676001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	4	後期	月2,木3	菅野 類	学部共通科目	西洋文化学系201
9663001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	西洋文化学系202
9663002	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火5	Ida Duretto	学部共通科目	西洋文化学系203
9673001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火4	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系204
9674001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火4	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系205
9668001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	前期	火5	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系206
9669001	イタリア語学イタリア文学	語学	2-4	2	後期	火5	小西 咲子	学部共通科目	西洋文化学系207

西洋文化学系1

科目ナンバリング		U-LET15 13100 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ギリシア文学史									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は古典ギリシア文学の基礎的な知識を修得することにある。ヨーロッパの文学はギリシア文学から始まったために、のちの文学活動に多大な影響を与えている。本講義ではそのようなギリシア文学のなかでも、とりわけ有名な文学作品をジャンルごとに概観するとともに、文学を理解するために必要な古代ギリシアの社会的・文化的背景を学ぶ。											
【到達目標】											
ギリシア文学史の要点を理解し、西洋古典学研究の基礎を修得する。具体的な全体の到達目標は以下の通り。 (1) ギリシア文学史の基礎知識を得ることができる。 (2) 古典文学作品を正確に読解することができる。 (3) 文学の社会的・文化的な意味を分析することができる。 (4) 古代の知識をもとに、現代について考えることができる。											
【授業計画と内容】											
おおむね以下のスケジュールにしたがって授業を進める。ただし授業内で提示された疑問や議論の方向性などによっては、順序や同一テーマの回数を変えることがある。 第1回 イン트로ダクション：西洋古典学とはなにか 第2・3回 ホメロス『イリアス』口承叙事詩 第4・5回 ホメロス『オデュッセイア』物語と主題 第6・7回 抒情詩、祝勝歌 第8・9回 ギリシア悲劇と民主政 第10・11回 ギリシア悲劇・喜劇 第12・13回 散文、文学と文化 第14回 全体のまとめ、確認テスト 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

- ・授業内で毎回課すコメントペーパーで授業の理解度を確認するとともに、自らの考えを表現する(40%)
- ・学期終盤に各主題の理解度を図る確認テスト(あるいはレポート)をおこなう(60%)

[教科書]

パワーポイント使用。プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業前に指定された参考文献や文学作品を読み、基礎知識を得ておく必要がある。また、授業後にコメントペーパーを課し、授業で扱った事柄についての考えをまとめる。また知識の体系化をはかるために、全体の復習を必要とする。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系2

科目ナンバリング		U-LET15 13102 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(西洋古典学)(講義) Greek and Latin Classics (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ウェルギリウス『アエネーイス』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>地中海世界に吹き荒れた長い内乱がアウグストゥス帝のもとで終息したとき、ローマ人は同胞同士が血で血を洗う戦争とそれによって荒廃した国土を嘆き、そこからそのような愚行を繰り返さない国が再興されることを願った。ウェルギリウス『アエネーイス』はそうしたローマ人の祈念を英雄叙事詩の形をとって表現する。作品の主題である「ローマ建国」に関わる様々な側面に目を配りつつ、ラテン文学黄金期を代表する詩作を鑑賞する。</p>											
【到達目標】											
<p>共和政末期から帝政初期のローマ人のものの見方に触れる。 「ローマ」および「ローマ人」が意味したものの理解を深める。 英雄叙事詩の文学伝統について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ウェルギリウス『アエネーイス』は全12歌に、トロイアの皇子アエネアースが陥落したトロイアを脱出したあと、長い放浪を経て運命に定められた土地であるイタリアに着き、のちのローマの礎石となるべき国を築こうとして、原住民の民との戦争となり、敵方大将トゥルヌスを倒すまでを描く。授業は作品の背景に触れたのち、ほぼ1回に1歌を読んでいく。</p>											
<p>第1回 イントロダクション：ウェルギリウスの時代 第2回 ローマ：「多様性」の国家 第3回 『アエネーイス』第1歌：「運命」「ピエタース」 第4回 『アエネーイス』第2歌：トロイア陥落「逃亡」 第5回 『アエネーイス』第3歌：「放浪」 第6回 『アエネーイス』第4歌：ディードーとの恋「仇敵の創出」 第7回 『アエネーイス』第5歌：死者への礼 第8回 『アエネーイス』第6歌：冥界降り「未来の啓示」 第9回 『アエネーイス』第7歌：戦争「遅延」「犠牲」 第10回 『アエネーイス』第8歌：戦争、盟友 第11回 『アエネーイス』第9歌：戦争、最初の犠牲 第12回 『アエネーイス』第10歌：戦争「敵味方区別のない犠牲」 第13回 『アエネーイス』第11歌：戦争、犠牲を顧みぬ続行 第14回 『アエネーイス』第12歌：「決着」 第15回 フィードバック</p>											
-----系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(西洋古典学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（40％）

学期末レポート（60％）

【教科書】

コピー配布。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

ホメーロスの叙事詩『イーリアス』と『オデュッセイア』を読んでいると格段に理解度が高くなる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系3

科目ナンバリング		U-LET16 13202 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、ロシアの文学や思想が、どのような文化伝統の中で形成され、どのような状況の中で発展してきたのかについては、必ずしも十分に理解されてきたわけではありません。</p> <p>主要な幾つかのトピックに重点を置いて、18世紀末の近代ロシア文学の形成から1880年頃までのロシア文学・思想・絵画の流れを、できるだけ体系的に概観していきます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 近代ロシアの文学・思想・絵画についての知識と理解を得る。</p> <p>2) 欧米文化共通の特徴である作品・ジャンル・国の枠を超えた交差を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回：はじめに											
第2 - 3回：近代以前のロシア文化の流れ 東方正教、コサック・古儀式派の発生、ペテルブルグ建設など											
第4 - 13回：以下の3つの系譜を軸に、時代を追って19世紀ロシア文学・思想を概観します。											
<p>1) 自己意識の鏡としてのペテルブルグ神話の系譜： プーシキン『青銅の騎士』、ゴーゴリ『外套』『鼻』、ドストエフスキーのペテルブルグほか</p> <p>2) ロシア文化における「他者」としてのコーカサス表象の系譜： プーシキン『コーカサスの虜』、レールモントフ『現代の英雄』他、トルストイ『コサック』ほか</p> <p>3) 「ロシア的自然」の系譜： プーシキン、レールモントフの詩、ツルゲーネフ『獵人日記』、トルストイ『戦争と平和』『アンナ・カレーニナ』、移動派の絵画ほか</p>											
第14回：農奴解放令以後の文学と社会状況											
第15回：まとめ											
<p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系4

科目ナンバリング		U-LET16 13204 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義) Slavic Languages and Literatures (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		近現代ロシア文化概説									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシアの文学・思想は、近代日本の文学や思想に多大な影響を与えてきました。チェーホフの戯曲の上演回数は、ロシア本国に次いで世界第二位であり、トルストイやドストエフスキーは大正から昭和にかけて、もっとも読まれた作家に属していました。その人気は現代にまで続いています。</p> <p>しかし、そのようなロシア文学への関心は、おおむね19世紀末までに留まり、20世紀の文学や文化がどのように展開してきたのかは、日本ではほとんど知られていないと言っても過言ではありません。</p> <p>この講義では、19世紀末から20世紀に入り、ソ連期を経て、その崩壊後の文化状況までを概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>1) 19世紀末から20世紀のロシア(ソ連)の文学・思想・映画・絵画についての知識と理解を深める。</p> <p>2) 芸術作品や文化現象を分析・考察するための枠組みと方法を身に付ける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：はじめに</p> <p>第2 - 5回：19世紀末から20世紀初頭の文学・絵画・思想 象徴主義(イヴァノフ、ソログープほか)、リアリズム文学(ゴーリキー、チェーホフほか)、近代ロシア絵画の展開(クインジー、レヴィタン、ヴルーベリ、シャガール、マレーヴィチほか)</p> <p>第6 - 8回：「ロシア・アヴァンギャルド」の季節 ロシア・フォルマリズム(「異化」とその通時的展開)、未来派の文学と絵画(超意味言語詩、無対象絵画)、建設や映画の展開(タトリン、エイゼンシュテイン、ジガ・ヴェルトフ、モンタージュほか)</p> <p>第9 - 13回：ソ連期の文学・思想・文化 文学：ザミャーチン、フルマノフ、バーベリ、ブルガーコフ、ベルゴリツほか 思想：全一性の詩学、規範としての社会主義リアリズムとその溶融 映画：タルコフスキー、シェンゲラーヤ、ゲルマンほか</p> <p>第14回：ソ連崩壊後の文化状況(ペレーヴィン、ソローキン、ウリツカヤほか)</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>授業の進度が予定と若干ずれる可能性があります。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
----- 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(スラブ語学スラブ文学)(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回配付する質問票への記入30%、期末レポート70%で評価します。

【教科書】

適宜プリントを配付します。

【参考書等】

(参考書)

開講時ほか授業中に適宜指示します。

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に紹介する本や論考を、できるだけ自分でも読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

ロシア語の知識はかならずしも必要としません。
後期からの履修も認めます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系5

科目ナンバリング		U-LET17 13302 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学入門									
【授業の概要・目的】											
この授業では、18世紀から20世紀へといたるドイツ文学の名作を毎回一篇ずつ紹介する。重要な場面を抜粋して読みながら、作品のテーマやさまざまな解釈の可能性について解説する。											
【到達目標】											
ドイツ文学の作家や作品にかんする知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
各回のテーマは次の通り。 1 はじめに 2 ゲーテ『若きヴェルターの悩み』 3 ノヴァーリス『青い花』 4 ゲーテ『ファウスト』 5 クライスト『チリの地震』 6 フーケー『ウンディーネ』 7 シャミッソー『影をなくした男』 8 ホフマン『砂男』 9 シュトルム『みずうみ』 10 シュティフター『水晶』 11 メーリケ『旅の日のモーツァルト』 12 リルケ『マルテの手記』 13 マン『ヴェニスに死す』 14 カフカ『訴訟』 15 おわりに											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価する。 期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
----- 系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系6

科目ナンバリング		U-LET17 13304 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義) German Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		ドイツ文学とその視覚化									
【授業の概要・目的】											
<p>文学は言語芸術であり、言語によって表現できるものの可能性を追求するという性格をもつ。しかし、文学作品にはしばしば挿絵が添えられる。視覚的な方面から読者の想像力を補うためである。これは、とりわけ年少の読者にとっては必要な措置であると考えられており、本を売るうえでも重要な役割を果たす。ところが、視覚化されたバージョンは一つの「解釈」であり、それが読者に押しつけられることによって読みの自由は制限されてしまう。このジレンマは、文学作品の映像化に際してはさらに大きくなる。このジレンマを抱えながらも繰り返される視覚化の試みが文学を豊かにするのは可能か、もし可能であるならばどのような局面においてかを、ドイツ文学を例に考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ文学史について基本的な知識を得る ・文学の視覚化にともなって生じる問題について、自分自身で考察を深められるようになる 											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 作者不詳『ニーベルンゲンの歌』 第3回 ゲーテ『若きウエルテルの悩み』 第4回 グリム『メルヘン』 第5回 ホフマン『砂男』 第6回 シュピーリ『ハイジ』 第7回 ボンゼルス『みつばちマーヤの冒険』 第8回 カフカ『変身』 第9回 カフカ『訴訟』 第10回 トーマス・マン『魔の山』 第11回 デーブリーン『ベルリン・アレクサンダー広場』 第12回 グラス『ブリキの太鼓』 第13回 エンデ『モモ』 第14回 イェリネク『光なし』 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
-----系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

[教科書]

畠山寛ほか『ドイツ文学をひらく（シリーズ：世界文学をひらく）』（ミネルヴァ書房，2021年刊行予定）（2021年4月刊行予定。受講者は教科書を購入してください。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系7

科目ナンバリング		U-LET18 13402 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義A) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史A									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史の変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語の背景について学びます。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： インド・ヨーロッパ語としての英語 第3回： 英語の外面史と内面史（導入） 第4回： 借用語（ラテン語を中心に） 第5回： 借用語（スカンディナヴィア語を中心に） 第6回： 借用語（フランス語を中心に） 第7回： 語形成、およびその歴史の変遷 第8回： 意味の歴史の変遷 第9回： ルーン文字とアルファベット、および綴り字の歴史の変遷 第10回： 発音の歴史の変遷 第11回： 人称代名詞の形態全般 第12回： 人称代名詞の数と格、およびその歴史の変遷 第13回： 指示代名詞の歴史の変遷 第14回： 関係代名詞の歴史の変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読（本年度は主に中英語）の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度（30%）およびレポート（70%）によって評価を行います。											
----- 系共通科目(英語学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(英語学)(講義A)(2)

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』(ひつじ書房)

苅部恒徳・ほか 『『原文対訳「カンタベリィ物語・総序」』』(松柏社) ISBN:4-88198-942-1

[参考書等]

(参考書)

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』(中央大学出版)

R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』(CUP)

寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』(中公新書)

<https://iyeyri.com/569>にも参考情報あります。

(関連URL)

<https://iyeyri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeyri.com/contact>からメールでご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系8

科目ナンバリング		U-LET18 13404 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英語学)(講義B) English Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英語史B									
【授業の概要・目的】											
<p>アングロ・サクソン人がブリテン島に移住してから現在に至るまでの英語の歴史的変遷を包括的に学びます。また、古英語・中英語の文献を講読し、過去の英語を具体的に体験しながら、国際共通語としての現代英語との実践的な比較を行います。</p>											
【到達目標】											
<p>英語の史的变化への一般的な理解を深め、時代の異なる英語を、翻訳等の助けを借りながら読む力を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回： 授業についての説明ほか 第2回： 語形変化の実際 第3回： 語順の歴史的変遷と前置詞の使用の拡大 第4回： 主節と従属節の歴史的変遷 第5回： 不規則変化動詞とその歴史的変遷 第6回： 直説法と仮定法の歴史的変遷 第7回： 非人称動詞および過去現在動詞の歴史的変遷 第8回： 法助動詞の歴史的変遷 第9回： be動詞の歴史的変遷 第10回： 進行形と受動態の歴史的変遷 第11回： 完了形の歴史的変遷 第12回： 不定詞と動名詞の歴史的変遷 第13回： 否定構文の歴史的変遷 第14回： 助動詞doの歴史的変遷 第15回： 総括、国際共通語としての英語の実態とその理解（言語の揺れを中心に）</p> <p>授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、授業の最初または終わりに、古英語・中英語の講読（本年度は主に中英語）の時間を取ります。また、授業の進行状況により、予定が多少変更になることがあります。</p>											
【履修要件】											
<p>内容が英語史Aの続きとなっていますので、できるだけ英語史Aを受講した上で、本講義を受講するようにしてください。やむを得ない事情で英語史Bからの受講になる場合は、『ベーシック英語史』の前半部分を自習してから受講してください。</p>											
----- 系共通科目(英語学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英語学)(講義B)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（30％）およびレポート（70％）によって評価を行います。

[教科書]

家入葉子 『ベーシック英語史』（ひつじ書房）
苅部恒徳・ほか 『『原文対訳「カンタベリイ物語・総序』』（松柏社）ISBN:4-88198-942-1
<https://iyeiri.com/569>にも参考情報があります。

[参考書等]

（参考書）

堀田隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解』（中央大学出版）
R. Hogg & D. Denison 『A History of the English Language』（CUP）
寺澤盾 『英語の歴史 過去から未来への物語』（中公新書）
<http://www.iyeiri.sakura.ne.jp/students/index.htm> にも参考情報あります。

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

指定された教科書に目を通しておいってください。授業中に指定する課題の担当となった人は、提示資料を準備してください。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系9

科目ナンバリング		U-LET18 13406 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義A) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(中世から18世紀の英詩の形式)									
【授業の概要・目的】											
<p>英文学史上の代表的な作品を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について包括的に考える。前期は中世から18世紀前半までを扱う。今学期は英詩の代表的な形式のいくつかを取り上げ、その流れを概観する。あわせて、詩から見えてくるこの時代の英文学全体、また、英国社会の一般的な状況を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>中世から18世紀の英詩を、代表的なテキストに即しながら概観することを通じて、以下についての理解が深まることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中世から18世紀の英文学に使われている様々な形式と英語表現の変遷 2. 形式と内容の関係 3. 中世から近代にいたる、イングランドの社会と文学との関係 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：英文学の範囲、特徴、歴史一般と文学史の関係についての解説 第2回：英詩の形式の解説1：Alliteration 講読（Beowulf） 第3回：同（William Langland, Piers Plowman） 第4回：英詩の形式の解説2：RhymeとHeroic Couplet 第5回：講読（Geoffrey Chaucer, The Canterbury Tales） 第6回：同（John Dryden, Astraea Redux） 第7回：同（Alexander Pope, The Rape of the Lock） 第8回：英詩の形式の解説3：Spenserian StanzaとBlank Verse 第9回：講読（Edmund Spenser, Faerie Queene） 第10回：同（William Shakespeare, Henry V） 第11回：同（John Milton, Paradise Lost） 第12回：英詩の形式の解説4：Sonnets 第13回：講読（Earl of Surrey, Sir Thomas Wyatt） 第14回：同（Spenser, Amoretti / Shakespeare, Sonnets） 第15回：全体のまとめ 定期試験は行わない（成績評価は中間レポートと期末レポートによる）。</p>											
-----系共通科目(英文学)(講義A)(2)へ続く-----											

系共通科目(英文学)(講義A)(2)

【履修要件】

後期に開講される英文学講義Bと今年度中に合わせて履修することが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

中間レポート(50%)と学期末レポート(50%)により評価する。両方のレポートを提出することが単位取得の条件。題目、提出期間等詳細については授業中に指示をする。

【教科書】

プリント配布

【参考書等】

(参考書)

Dinah Birch, Katy Hooper 『The Concise Oxford Companion to English Literature』 (Oxford UP) ISBN: 978-0199608218

喜志哲雄 『英米演劇入門』 (研究社) ISBN:978-4327375119

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で扱うプリント(英語)は予め配布するので、辞書を丹念に引いて内容を理解した上で授業に臨むこと。授業後は、扱われた作品の文学史における位置づけについて考察すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系10

科目ナンバリング		U-LET18 13408 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(英文学)(講義B) English Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		英文学史概説(小説・散文)									
【授業の概要・目的】											
英文学史上の有名な小説・散文を紹介しながら、英文学の歴史的変遷について考える。											
【到達目標】											
英国小説についての一般的な基礎知識を身につける。											
【授業計画と内容】											
通常、文学史は古いところから説き起こすのであるが、この講義では新しいところから遡る。少しでも馴染みのある世界から入ったほうがわかりやすいのではないかと、という発想に基づく配慮である。											
第1回 Kazuo Ishiguro 第2回 Salman Rushdie, Zadie Smith 第3回 第2次大戦後の作家たち 第4回 Graham Greene, Evelyn Waugh 第5回 George Orwell, E. M. Forster 第6回 James Joyce, Virginia Woolf 第7回 D. H. Lawrence, Joseph Conrad 第8回 Thomas Hardy, George Eliot 第9回 Charles Dickens 第10回 The Brontes 第11回 Jane Austen 第12回 ゴシック小説、歴史小説 第13回 Samuel Richardson, Henry Fielding 第14回 Daniel Defoe, Jonathan Swift 第15回 フィードバック (研究室にて授業内容に関連する質問に答える)											
【履修要件】											
前期の英文学講義と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、学期末に提出してもらったレポートによって評価する。											
----- 系共通科目(英文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(英文学)(講義B)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

Dinah Birch 『The Concise Oxford Companion to English Literature 4th Edition』 (OUP) ISBN:978-0199608218

[授業外学修(予習・復習)等]

予習の必要はないが、授業で紹介した作家について、知的好奇心をもって、自力でどんどん読み進めるように。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14 : 15 ~ 15 : 15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系11

科目ナンバリング		U-LET19 13502 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義A) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史 I									
【授業の概要・目的】											
植民地時代から19世紀末までのアメリカ文学の流れを振り返る。全15回の授業のうち、前半部はピューリタニズム・理神論・アメリカ啓蒙思想といった宗教・思想的話題が中心となる。後半部は、アメリカという歴史の浅い国において独自の「文学」を確立せんとさまざまな作家が苦闘した様子を追うことが主眼となる。本授業を通じて、アメリカ文学が近代性を獲得するまでの道程を包括的に把握することを目的とする。											
【到達目標】											
19世紀末までのアメリカ文学および思潮の流れを概覧し、文学における英文解釈法を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：序論--新大陸の発見</p> <p>第2回：Jonathan Edwards/ Anne Bradstreet--ピューリタニズムの文学</p> <p>第3回：Benjamin Franklin--アメリカ啓蒙主義と理神論</p> <p>第4回：Ralph Waldo Emerson--超越主義：思想編</p> <p>第5回：Henry David Thoreau--超越主義：実践編</p> <p>第6回：Nathaniel Hawthorne--ロマンスとノヴェル</p> <p>第7回：Herman Melville--小説と世界</p> <p>第8回：Edgar Allan Poe--象徴主義</p> <p>第9回：Walt Whitman--詩と民主主義</p> <p>第10回：Emily Dickinson--詩と観念</p> <p>第11回：奴隷制度と文学--Harriet Beecher Stoweを中心に</p> <p>第12回：アメリカ家庭小説の系譜</p> <p>第13回：Mark Twain--口承文学と小説</p> <p>第14回：Henry James--近代小説</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義B）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義A)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎授業の最後に行われるコメントシートの記入（30％）と期末試験（70％）により評価する。優れたコメントは次回の授業において紹介する。持ち込み不可の期末試験では、授業で触れた事項の理解度を確認する。

[教科書]

使用しない
資料はプリントにて配布する。

[参考書等]

（参考書）

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』（三修社）ISBN:9784384057485（初期から現代に至るまでの主要作家の紹介。各作家に付されている参考文献が有用。）

[授業外学修（予習・復習）等]

期末試験では授業内で取りあげたテキストから出題される。問題は講義内容を踏まえたものなので、試験対策として念入りな復習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系12

科目ナンバリング		U-LET19 13503 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(アメリカ文学)(講義B) American Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		アメリカ文学史									
【授業の概要・目的】											
19～20世紀転換期から現在にいたるまでのアメリカ文学史のおおまかな流れをたどる。各時代を代表する作家、作品を紹介するとともに、できるだけ具体的に個々の作家の文章に触れてもらうことを心がけたい。											
【到達目標】											
アメリカの文学ならびにその背景となる文化に関する包括的な知識を習得すること、文学的な英語表現に親しむこと、アメリカ文学を本格的に学んでいくための土台を築くことを目的とする。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自然主義（Crane, Norris, Dreiserなど）</p> <p>第3回：Wharton, Cather, Anderson</p> <p>第4回：モダニズムと詩（Pound, Eliot, Steinなど）</p> <p>第5回：Hemingwayと失われた世代</p> <p>第6回：Fitzgeraldと1920年代</p> <p>第7回：1930年代の文学（Wolfe, Steinbeck, Westなど）</p> <p>第8回：Faulknerと南部文学</p> <p>第9回：演劇（O'Neill, Williams, Millerなど）</p> <p>第10回：アフリカ系文学（Wright, Ellison, Morrisonなど）</p> <p>第11回：ユダヤ系文学（Bellow, Malamud, Rothなど）</p> <p>第12回：その他戦後文学（Nabokov, Updikeなど）</p> <p>第13回：ポストモダン（Barth, Pynchonなど）</p> <p>第14回：その後の文学</p> <p>第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
アメリカ文学（講義A）と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末試験（50％）とレポート（50％）により評価する。期末試験では、アメリカ文学・文化に関する基礎知識の習得度を評価する。レポートは、授業で紹介したアメリカ文学作品について自由に論じるというもので、読解力、思考力、論述力および読者としてのセンスを評価する。</p>											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)へ続く -----											

系共通科目(アメリカ文学)(講義B)(2)

[参考書等]

(参考書)

亀井俊介 『アメリカ文学史講義 1～3』 (南雲堂) ISBN:978-4523292432

諏訪部浩一・編 『アメリカ文学入門』 (三修社) ISBN:9784384057485

[授業外学修(予習・復習)等]

アメリカ文学の世界への導入を目的とした授業なので、予習、復習等は特に求めない(必要のある場合は授業中に指示する)。ただしその分の時間を使って、授業で紹介するアメリカ文学作品をなるべく多く読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系13

科目ナンバリング		U-LET21 13604 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス文学における「メランコリー」の系譜									
【授業の概要・目的】											
<p>西洋古代医学の「四体液説」に由来する「メランコリー」の概念は「憂鬱気質」の原因を意味するとともに、しばしば「天才」あるいは「狂気」の概念と結びつけられてきた。近代においてもこの語は「漠然とした悲しみ」を表したり、「うつ病」の意味でも用いられたりするなど多義性を保持している。</p> <p>この講義では、芸術創造の原動力であるとともに、その表象の特権的对象でもある「メランコリー」概念に注目することにより、フランス文学の代表的な作品とその時代背景をより深く理解することを目的とする。</p>											
【到達目標】											
フランス文学の代表的な作品を例にして作品分析の基本的な手法を修得することを目標とする。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいに対応して順序やテーマを変更することがある。											
<p>第1回 イントロダクション 「メランコリー」とは何か</p> <p>第2回 西洋文学における「メランコリー」の表象(1)</p> <p>第3回 西洋文学における「メランコリー」の表象(2)</p> <p>第4回 16世紀文学における「メランコリー」の表象：モンテーニュ</p> <p>第5回 17世紀文学における「メランコリー」の表象：モリエール</p> <p>第6回 17世紀文学における「メランコリー」の表象：ラシーヌ</p> <p>第7回 18世紀文学における「メランコリー」の表象：ルソー(1)</p> <p>第8回 18世紀文学における「メランコリー」の表象：ルソー(2)</p> <p>第9回 ロマン主義と「メランコリー」</p> <p>第10回 19世紀文学における「メランコリー」の表象：シャトーブリアン</p> <p>第11回 19世紀文学における「メランコリー」の表象：ミュッセ</p> <p>第12回 19世紀文学における「メランコリー」の表象：ボードレー</p> <p>第13回 20世紀文学における「メランコリー」の表象：サルトル</p> <p>第14回 21世紀文学における「メランコリー」の表象：ウェルベック</p> <p>第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(100%)

[教科書]

プリント等を配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で抜粋を読んだ作品を通して読んでみる。授業で紹介する関連図書を参照すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系14

科目ナンバリング		U-LET21 13606 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス文学)(講義) French Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		第一次世界大戦とフランス文学									
【授業の概要・目的】											
20世紀の起点となった第一次世界大戦(1914-1918)は、フランス文学史においてひとつの転換点をなしている。本講義ではこの戦争が、おもに兵士として前線に赴いた作家たちによって、どのようにして詩、小説、日記、回想録、戯曲、エッセイなどの多岐にわたる作品のなかで描かれているのかを、アポリネール、アンリ・バルビュス、ロマン・ロラン、セリーヌ、ジオノ、ドリウ・ラ・ロシエル、テイヤール・ド・シャルダン、アラン、ブルースト、シュルレアリストらの作品の抜粋を読みながら解説する。											
【到達目標】											
抜粋と翻訳を通して20世紀フランス文学の代表的作品群に直接触れるとともに、文学作品の批評的読解の基礎を身につける。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進み具合や受講者の理解の程度に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。											
第1回 イン트로ダクション(第一次世界大戦と西洋文化) 第2回～第3回 アポリネール『カリグラム』解説 第4回 アンリ・バルビュス『砲火』解説 第5回～第6回 戦争に魅せられた作家たち(ドリウ・ラ・ロシエル『シャルルロワの喜劇』、エルンスト・ユンガー『鋼鉄の嵐のなかで』、テイヤール・ド・シャルダン「前線の郷愁」) 第7回～第8回 ルイ＝フェルディナン・セリーヌ『夜の果てへの旅』解説 第9回 ジャン・ジオノ『大群』解説 第10回～第11回 平和主義の両義性(ロマン・ロラン、アラン、ジュリアン・バンダ) 第12回 ブルースト『見出された時』における戦争 第13回 シュルレアリスムとダダイスム 第14回 戦争と記憶(クロード・シモン『路面電車』、カミュ『最初の人間』) 第15回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験の代わりに期末レポート(100点満点、60点以上で合格)を課す。 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては高い点を与える。											
----- 系共通科目(フランス文学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス文学)(講義)(2)

[教科書]

プリントを使用する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系15

科目ナンバリング		U-LET21 23607 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小田 涼			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		フランス語学概論									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、フランス語の語彙や構文の分析方法を学び、言語学としてフランス語を研究するための入門的な知識を身につけることである。ときに日本語や英語と比較しながらフランス語のさまざまな表現の違いについて考え、フランス語を学問として研究するための基本的な知識を学ぶ。											
【到達目標】											
フランス語とはどういう言語であるか、語彙論、意味論、統語論、語用論などの観点からアプローチしてその全体像を把握できるようになる。フランス語学についての基礎的知識と分析方法を習得する。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし、講義の進み具合やその他の事情によりテーマの順序やテーマの一部を変更することがある。</p> <p>第1回：ソシュールと言語学の基本概念、言語学・フランス語学とは何か。</p> <p>第2回：「持つ(avoir)」的言語と「ある(etre)」的言語 (Have languageとBe language)</p> <p>第3回：フランス語の名詞の性は何のために存在するのか</p> <p>第4回：カテゴリー化 (= 範疇化) について</p> <p>第5回：冠詞と意味の切り分け (英語の可算名詞と非可算名詞の区別はフランス語ではどのように現れるのか)</p> <p>第6回：総称 (ものごと一般) をあらわす定冠詞単数・複数と不定冠詞単数</p> <p>第7回：名詞を修飾する形容詞の位置 「le petit Chaperon rouge (赤頭巾ちゃん) では形容詞rougeを名詞の後ろにおくのに、Blanche Neige (白雪姫) では形容詞blancheを名詞の前におくのはなぜか」</p> <p>第8回：さまざまな副詞：文副詞・様態副詞</p> <p>第9回：否定：分離的否定、否定の作用域</p> <p>第10回：叙法(mode)について (直説法、条件法、接続法、命令法)</p> <p>第11回：情報構造と語順「フランス語の補語人称代名詞はなぜ動詞の前に出るのか」</p> <p>第12回：代名動詞のさまざまな用法 (再帰用法・相互用法・受動的用法)</p> <p>第13回：語調緩和の半過去 「Je voulais vous demander un petit service.のような半過去になぜ語調を緩和する働きがあるのか」</p> <p>第14回：Benvenisteの人称論</p> <p>第15回：期末試験</p> <p>第16回：フィードバック</p>											
----- 系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く -----											

系共通科目(フランス語学)(講義)(2)

[履修要件]

フランス語初級を習得しているか、あるいは基本的なフランス語の文法知識があること。

[成績評価の方法・観点]

定期試験の成績（85％）や授業への参加度・平常点（15％）などを総合的に判断して評価を行う。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

常日頃から外国語や日本語のさまざまな現象を観察して、言葉に関する直感を磨くよう心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系16

科目ナンバリング		U-LET21 23608 LJ36									
授業科目名 <英訳>		系共通科目(フランス語学)(講義) French Language (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 守田 貴弘			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		言語機能論									
【授業の概要・目的】											
言語学の主要分野や理論的基礎を、さまざまな言語における言語現象を通して学ぶことを目的とする。例としては日本語、フランス語、英語が多くなるが、適宜、さまざまな言語における例を取りあげる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・言語学の主要分野である音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論・語用論に関する基礎的知識が身につく。 ・よく知っている言語であっても「なぜそのような規則になっているのか」を説明することは難しい。知っているものを客体化し、言語について言語で説明できるようになる。 ・よく知らない言語であってもどのような仕組みでその成り立ちとなっているのか、理論的に理解できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
授業では、言語学の主な分野について、具体的用例をもとに紹介する。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語の基本的性質 2. 音声学：言語音の性質 3. 音韻論：音を数える 4. 形態論1：語のレベルで言語を考える 5. 形態論2：派生と屈折 6. 形態論3：概念の包入 7. 統語論1：正しい文と正しくない文 8. 統語論2：文の規則 9. 統語論3：さまざまな統語現象 10. 意味論・語用論1：論理で意味を捉える 11. 意味論・語用論2：意図で意味を捉える 12. 意味論・語用論3：行為として意味を捉える 13. 類型論1：言語の系統 14. 類型論2：系統を超える類型 											
授業は14回、フィードバック1回とする。											
-----系共通科目(フランス語学)(講義)(2)へ続く-----											

系共通科目（フランス語学）(講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 平常点（60％）：授業内での小レポート・コメントペーパー
- ・ 期末レポート（40％）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

Fromkin, V. & R. Rodman. 2018. An Introduction to Language, 11th edition. Wadsworth Pub Co.

【授業外学修（予習・復習）等】

授業で取り扱ったテーマに関する身近な言語現象・類似現象について自身で考え、文献を調査するなど、無意識におこなっている言語使用を意識的に考えるようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

KULASISを確認のこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系17

科目ナンバリング		U-LET22 13702 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(前期)									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア文学は、中世から現代に至るまで多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリア半島のみならずヨーロッパ各地の文化に深甚な影響を及ぼしています。前期の講義では特に13世紀から14世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。あわせて宮廷風恋愛やアレゴリーといった西洋文化の重要概念についても言及する予定です。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>第2-14回：(1つの項目につき2-4回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語(俗語)の成立について ・イタリア文学の元祖、シチリア派の詩人たち ・ダンテと『神曲』について ・ペトラルカと『カンツォニエーレ』 ・ボッカッチョと『デカメロン』 <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
イタリア語の知識は必要ありません。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前に配布したプリントに目を通しておくこと。

授業で紹介した作品を読んでみること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系18

科目ナンバリング		U-LET22 13703 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講義) Italian Language and Literature (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目		イタリア文学史(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア文学は中世から現代に至るまで多数の傑作を生みだしています。特に13世紀から16世紀の俗語文学は、イタリアのみならずヨーロッパ諸地域の文化全般に影響を及ぼしています。後期の講義では15-16世紀の主要な詩人と作品を紹介しながら、イタリア語とイタリア文学の歴史を概観します。</p>											
【到達目標】											
<p>イタリア語とイタリア文学についての基礎的な知識を身につける。 西洋文学の重要概念について理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回：イントロダクション</p> <p>2回～14回：(1つの項目につき2・3回の授業を予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文主義について ・騎士物語(ボイアルドとアリオスト) ・16世紀の言語論争 ・マキアベリと『君主論』 ・インプレーザとメタファーについて ・創作理論の探求(トルクァート・タッツの詩論) <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の知識は必要ありません。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点(30%) 期末のレポート(70%)</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講義) (2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前に配布したプリントに目を通しておくこと。
授業で紹介した作品を読んでもらうこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系19

科目ナンバリング		U-LET42 13902 LJ36									
授業科目名 <英訳>	西洋文学入門(講義) Introduction to Western Literature (Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科	教授	佐々木	徹	
							文学研究科	教授	永盛	克也	
							准教授	河島	思朗		
							准教授	村瀬	有司		
							教授	廣田	篤彦		
							教授	中村	唯史		
							准教授	川島	隆		
							准教授	小林	久美子		
配当 学年	1・2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
題目	西洋文学入門										
[授業の概要・目的]											
西洋文化学系の専任教員7名によるリレー講義です。西洋古典文学、イタリア文学、ロシア文学、英文学、フランス文学、アメリカ文学、ドイツ文学の作品とその受容や語りの技法などをトピックとして、各担当者がその魅力を語ります。西洋文学に関する全般的な理解を深めることを目的としますが、それと同時に、さらに深く学びたい人を西洋文化の世界へといざなう起点となることも期待しています。											
[到達目標]											
西洋文学のさまざまな作家や作品にかんする知識と理解を深めるとともに、文学作品を読み解くための基本的な技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
西洋古典文学(河島)											
第1週 ギリシア文学のはじまり(ホメロス『イリアス』)											
第2週 ラテン文学における受容と変容(オウィディウス『変身物語』)											
イタリア文学(村瀬)											
第3週 ダンテ『神曲』のアレゴリー											
第4週 マキアヴェッリ『君主論』のリアリティー											
ロシア文学(中村)											
第5週 プーシキン『ベールキン物語』I:語り手のベールキンとはいったい誰か(序章「出版者より」考察)											
第6週 プーシキン『ベールキン物語』II:文学的なものとの闘争あるいは戯れ(短篇「吹雪」読解)											
英文学(廣田)											
第7週 シェイクスピア『ハムレット』概説											
第8週 『ハムレット』の冒頭を読む											
フランス文学(永盛)											
第9週 ラ・フォンテーヌ『寓話』											
第10週 ラシーヌ『フェードル』											
----- 西洋文学入門(講義)(2)へ続く -----											

西洋文学入門(講義)(2)

アメリカ文学(小林)

第11週 ホイットマンとディキンソンの詩を読む

第12週 フォークナー『響きと怒り』の冒頭部を読む

ドイツ文学(川島)

第13週 グリム童話(1) 『灰かぶり(シンデレラ)』

第14週 グリム童話(2) 『白雪姫』

第15週 まとめ・フィードバック(佐々木)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより、到達目標の達成度にもとづいて評価する。レポートについては授業中に指示をするのでそれに従うこと。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

ラ・フォンテーヌ『寓話』(岩波文庫)

ラシーヌ『フェードル』(岩波文庫)

その他、授業中にも紹介する。

授業で取り上げる作品の多くは、下記のサイトでも紹介されている。

(関連URL)

http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/210188/1/seiyobungaku_hyakunen.pdf#page=2(「西洋文学この百冊」)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業で取り上げた作品、紹介された本や論文を、できるだけ自分でも読んでみること。

(その他(オフィスアワー等))

特定の国や作家に偏るのではなく、未知の国や作家の文学にも触れ、西洋文学の多様性の一端を実感してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系20

科目ナンバリング		U-LET15 33130 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(特殊講義) Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シーリウス・イタリクス研究									
[授業の概要・目的]											
ラテン文学白銀期の叙事詩人シーリウス・イタリクスの詩作について考究する。本年度はPunica第7巻と第8巻を精読し、検討する。											
[到達目標]											
ラテン語原典の読解力を高める。 文献学的アプローチに習熟する。											
[授業計画と内容]											
シーリウス・イタリクスはこれまで広く読まれてきた作品とは言えない。しかし、そこには詩人が受け継いだ文学伝統を自身の表現に生かす創意工夫が見られる。唯一伝存する作品であるPunicaはリーウィウスの歴史書第21巻以降に記された第2次ポエニー戦争を題材としながら、神々の介入や運命の実現など作品の枠組み、また、個々の場面設定、表現手法など叙述全般においてウェルギリウス『アエネーイス』に多くを依拠している。こうした先行作品との比較に重きを置きながら、作品理解を試みる。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第7回 第7巻1-750行 第8回~第15回 第8巻1-675行											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得し、なんらか原典を読んだ経験があること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点50パーセント、期末レポート50パーセント。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系21

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。第1巻から読み始めるが、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系22

科目ナンバリング		U-LET15 33131 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学（特殊講義） Greek and Latin Classics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ホラーティウス『カルミナ』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人ホラーティウスの抒情詩『カルミナ』を精読する。ラテン語テキストの読解力を高めるとともに、ホラーティウスの詩作の工夫を読み解くことを目的とする。また関連する文献など受講者の関心に合わせて適宜講読する。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの社会・文化を理解する。</p> <p>作品の性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ホラーティウスの『カルミナ』はラテン文学における抒情詩を代表する作品のひとつである。ギリシアから受け継いだ韻律を用い、巧みなラテン語の技法を駆使して編まれた作品を読解する。授業では毎回数歌ずつ読み進め、履修者相互で議論しながらラテン詩の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『カルミナ』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
----- 西洋古典学（特殊講義）(2)へ続く -----											

西洋古典学（特殊講義）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系23

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ホメーロス『オデュッセイア』									
[授業の概要・目的]											
ホメーロスの英雄叙事詩を精読して、作品の結構、主題の展開を学び、表現とリズムを味わい、楽しむ。											
[到達目標]											
ギリシア語原典の読解力を身につける。 古典文学伝統の受容と継承についての感性を磨く。 ホメーロス特有の表現に慣れ親しむ。											
[授業計画と内容]											
『オデュッセイア』は英雄オデュッセウスの「帰国」を主題とし、神の怒りによって英雄がすべてを失ったあと、再び英雄に戻るまでを描く。口承伝統の中から生まれ、ギリシア文学の源流に位置しながら、そこにはすでにもう一つの英雄叙事詩『イーリアス』を意識して新しさを求める詩作態度が窺える。統一的主題とその展開に留意しながら、毎回70行前後を読み進む。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第15回 『オデュッセイア』第7巻、第8巻											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点および期末試験。											
[教科書]											
W. B. Stanford 『Homer Odyssey Books 1-12』(もとはMacmillanだが、リプリントが複数(Bristol Cl. Pr., Nelson Thornes)あり、いずれでもよいので、事前に入手しておくこと。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系24

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 大学院言語文化研究科 准教授 平山 晃司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アンティポーン弁論選									
[授業の概要・目的]											
<p>トゥーキューディデースが「当代随一の才人」と評し、「法廷や民会で争う人に対して有益な助言を与えることにかけて、彼の右に出る者はいなかった」と伝えるアンティポーン（前480頃～411）は、アッティカ十大弁論家の筆頭であり、おそらくは訴訟当事者のために弁論を代作し、それを公刊した最初の人であった。完全な形で伝わる六篇の作品はいずれも殺人事件を扱うが、そのうち三篇は法廷弁論、「四部作集」（原告と被告が交互に二度ずつ行う四つの弁論から成る）と呼ばれる他の三篇は架空の事件を題材として書かれた習作であり、特に後者は最初期のアッティカ散文の実例として興味深い。両者の語法や文体の違いに注意しつつ作品を精読する。</p>											
[到達目標]											
<p>ギリシア語の読解力を向上させる。 古典期アテナイの社会の様相や法制度に関する知識を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>毎回2～3ページずつ読み進める予定。</p> <p>第1回 導入（テキスト配布、注釈書の紹介など） 第2回～第15回 訳読</p>											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得済みであること。											
[成績評価の方法・観点]											
出席状況、訳読の出来の良否などを勘案し、平常点によって評価する。											
[教科書]											
<p>M. R. Dilts, D. J. Murphy 『Antiphontis et Andocidis orationes』（Oxford University Press, 2018）ISBN: 9780199605477 コピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>（参考書） M. Gagarin 『Antiphon: The Speeches』（Cambridge University Press, 1997）ISBN:9780521389310 コピーを配布する。</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
<p>毎回の授業に備えてテキストの指定された範囲を丁寧に読んでおくこと。</p> <p>（その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

西洋文化学系25

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ホメーロス『オデュッセイア』									
[授業の概要・目的]											
ホメーロスの英雄叙事詩を精読して、作品の結構、主題の展開を学び、表現とリズムを味わい、楽しむ。											
[到達目標]											
ギリシア語原典の読解力を身につける。 古典文学伝統の受容と継承についての感性を磨く。 ホメーロス特有の表現に慣れ親しむ。											
[授業計画と内容]											
『オデュッセイア』は英雄オデュッセウスの「帰国」を主題とし、神の怒りによって英雄がすべてを失ったあと、再び英雄に戻るまでを描く。口承伝統の中から生まれ、ギリシア文学の源流に位置しながら、そこにはすでにもう一つの英雄叙事詩『イーリアス』を意識して新しさを求める詩作態度が窺える。統一的主題とその展開に留意しながら、毎回70行前後を読み進む。											
第1回 全体のイントロダクション 第2回~第15回 『オデュッセイア』第9巻、第10巻											
[履修要件]											
ギリシア語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点および期末試験。											
[教科書]											
W. B. Stanford 『Homer Odyssey Books 1-12』（もとはMacmillanだが、リプリントが複数(Bristol Cl. Pr., Nelson Thornes)あり、いずれでもよいので、事前に入手しておくこと。)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の下調べの他、教科書に挙げた注釈書をよく読んで授業に臨むこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系26

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		セネカ『倫理書簡集』精読I									
[授業の概要・目的]											
<p>ローマを代表する文人セネカ晩年の著作『倫理書簡集』を精読して、「悪文」とも言われるセネカの文体に親しみながら、そこに提示される「よく生きる」ことの真髄を汲み取る。</p> <p>『倫理書簡集』は引退後のセネカが若い友人ルーキリウスに宛てて、哲学の道を勧める手紙という体裁をとり、124篇の書簡からなる。授業では、下に掲げる教科書に集められた書簡を順次読み進める。</p>											
[到達目標]											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>生の重みを言葉の重みに託した表現への感性を磨く。</p> <p>古典文学伝統の奥深さを再認識する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>下に掲げる教科書に添い、1回に3~5ページを読み進める。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回~14回：『倫理書簡集』を読む 第15回：フィードバック</p>											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
Summers, W. C. 『Select Letters of Seneca』 (Bristol Classical Press 1983) ISBN:9780862921200 事前に購入しておくことが望ましいが、入手が難しい場合はコピーを配布する											
[参考書等]											
(参考書)											
Edwards, C. 『Seneca: Selected Letters』 (Cambridge Greek and Latin Classics 2019) ISBN: 9780521465830											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教科書の注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系27

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 高橋 宏幸			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		セネカ『倫理書簡集』精読II									
[授業の概要・目的]											
<p>ローマを代表する文人セネカ晩年の著作『倫理書簡集』を精読して、「悪文」とも言われるセネカの文体に親しみながら、そこに提示される「よく生きる」ことの真髄を汲み取る。 『倫理書簡集』は引退後のセネカが若い友人ルーキリウスに宛てて、哲学の道を勧める手紙という体裁をとり、124篇の書簡からなる。授業では、下に掲げる教科書に集められた書簡を順次読み進める。</p>											
[到達目標]											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。 生の重みを言葉の重みに託した表現への感性を磨く。 古典文学伝統の奥深さを再認識する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>前期のセネカ『倫理書簡集』精読Iに引き続いて、毎回教科書を3~5ページ読み進める。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～14回：『倫理書簡集』を読む 第15回：フィードバック</p>											
[履修要件]											
ラテン語文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点で評価する。											
[教科書]											
<p>Summers, W. C. 『Select Letters of Seneca』 (Bristol Classical Press 1983) ISBN:9780862921200 事前に購入しておくことが望ましいが、入手が難しい場合はコピーを配布する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) Edwards, C. 『Seneca: Selected Letters』 (Cambridge Greek and Latin Classics 2019) ISBN: 9780521465830</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
教科書の注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系28

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読I									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』第10巻を中心に精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。第10巻から読み始めるが、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。該当箇所を読み終わった場合には、別の巻を扱う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系29

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		オウィディウス『変身物語』精読II									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』第10巻を中心に精読し、ラテン語読解能力を高めるとともに、神話や古代ローマの文化の理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業では、毎週担当を決めてテキストの精読をおこなう。その該当箇所についてコメントリーなどを参考にしながら、履修者全員で議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>ラテン語原典の読解力を身につける。</p> <p>古代ローマの文化や神話を理解する。</p> <p>叙事詩という性質を理解し、作品の意図を考察できるようになる。</p> <p>テキストの内容について議論する能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>オウィディウスは恋愛詩人として活躍していたが、叙事詩『変身物語』を創作した。この作品は、様々な神話を内包する叙事詩である。授業では毎回数節ずつ読み進め、履修者相互で議論しながら文学意図や物語の理解を深める。したがって、議論の発展次第で進路は予定より早くまたは遅くなる可能性がある。前期の続きから読み始めるため、具体的な講読箇所は最初の授業で指示する。該当箇所を読み終わった場合には、別の巻を扱う。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回～13回：『変身物語』精読 第14回：全体のまとめ 第15回：フィードバック フィードバックの方法については授業中に指示する。</p>											
【履修要件】											
ラテン語文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業の前には、テキストや注釈を熟読すること。
また授業後には、授業中に出された議論を整理し、疑問点について解決をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系30

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(3)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に取り上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所（通常15行ほど）をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』 416a7-417b5の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』 417b6-418d3の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』 418d4-419e1の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』 419e1-421b1の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』 421b1-422c6の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』 422c7-423d6の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』 423d7-425a5の講読・検討</p> <p>第9回 『クラテュロス』 425a5-426d3の講読・検討</p> <p>第10回 『クラテュロス』 426d3-428a5の講読・検討</p> <p>第11回 『クラテュロス』 428a6-429c6の講読・検討</p> <p>第12回 『クラテュロス』 429c7-430d7の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

- 第13回 『クラテュロス』 430d8-432a4の講読・検討
第14回 『クラテュロス』 432a5-433b11の講読・検討
第15回 まとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系31

科目ナンバリング		U-LET15 33141 SJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(演習) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』を読む(4)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『クラテュロス』の原典を精読します。しばしば言語学や言語哲学の先駆けと見做されるこの対話篇は「名前の正しさ」を主題とします。登場人物のクラテュロスは、名前の正しさは自然本性的に決まっていると主張するのに対して、ヘルモゲネスは、それは人々の同意や慣習で決まると考えます。二人の調停を依頼されたソクラテスは、この問題を詳しく究明することになるのですが、対話篇の大部分は、神の名前や哲学的に重要な言葉についての語源分析に当てられます。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『クラテュロス』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページ程度講読を進めます。各参加者は、指名された箇所（通常15行ほど）をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。</p> <p>順当に進んだ場合、第7回目の授業で『クラテュロス』を読了するため、残りの授業は5世紀に書かれたプロクロスの『クラテュロス注解』のはじめの部分を読みます。</p> <p>最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p>											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 『クラテュロス』433b12-434d1の講読・検討</p> <p>第3回 『クラテュロス』434d2-435e5の講読・検討</p> <p>第4回 『クラテュロス』435e6-437b2の講読・検討</p> <p>第5回 『クラテュロス』437b2-438b3 (VERSIO B)の講読・検討</p> <p>第6回 『クラテュロス』438b8-439d2の講読・検討</p> <p>第7回 『クラテュロス』439d3-440e7の講読・検討</p> <p>第8回 『クラテュロス』のまとめ</p> <p>第9回 プロクロス『クラテュロス注解』1-2の講読・検討</p>											
----- 西洋古典学(演習) (2)へ続く -----											

西洋古典学(演習) (2)

- 第10回 プロクロス 『クラテュロス注解』 3-4の講読・検討
第11回 プロクロス 『クラテュロス注解』 5-6の講読・検討
第12回 プロクロス 『クラテュロス注解』 7-8の講読・検討
第13回 プロクロス 『クラテュロス注解』 9-10の講読・検討
第14回 プロクロス 『クラテュロス注解』 11-12の講読・検討
第15回 全体のまとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

Duke, E. A. et al. 『/Platonis Opera/ Tomus I (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1995.)

Pasquali, Georgio 『Proclus Diadochus /In Platonis Cratylum Commentaria/ 』 (Stuttgart and Leipzig: B. G. Teubner, 1994.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Francesco, Ademollo. 『/The Cratylus of Plato/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2011.)

Sedley, David. 『/Plato 's Cratylus/. 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 2003.)

Duvick, Brian 『/Proclus: On Plato Cratylus/ 』 (London and New York: Bloomsbury Academic, 2014.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系32

科目ナンバリング	U-LET15 23151 LJ36										
授業科目名 <英訳>	西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 河島 思朗				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	ラテン語中級講読										
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落とししやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。毎回、数章を読み進める。 第1回 イン트로ダクション 第2回～第13回 第1巻第1章～ 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
配布する注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系33

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 河島 思朗			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ラテン語中級講読									
[授業の概要・目的]											
ラテン語初級文法を終えた人を対象に、カエサル『ガリア戦記』を教材として、ラテン語の基礎力を養う機会を提供する。											
[到達目標]											
ラテン語の基本的な感覚を身につける。 語彙力を高める。 複雑な構文にも対処しうる読解力を養う。											
[授業計画と内容]											
初級文法のおさらいを行なう一方、初級者が見落とししやすい意味の区別、よく使われる言い回し、構文の特徴などに注意を喚起しながら、原文を読む。毎回、数章を読み進める。 第1回 インTRODクシヨN 第2回～第13回 第1巻、前期授業からの続き。 第14回 全体のまとめ 第15回 フィードバック											
[履修要件]											
ラテン語初級文法を既習得であること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
注釈を熟読すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系34

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、クセノポン『アナバシス』の精読を通して、古典ギリシア語の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
クセノポンの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
E. C. Marchant (ed.) 『Xenophontis Opera Omnia, Expeditio Cyri』 (Oxford University Press) ISBN: 9780198145547 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Maurice W. Mather, Joseph Hewitt 『Xenophon's Anabasis: Book 1-4』 (University of Oklahoma Press) ISBN:9780806113470 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系35

科目ナンバリング		U-LET15 23151 LJ36									
授業科目名 <英訳>		西洋古典学(講読) Greek and Latin Classics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山下 修一			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語中級講読									
[授業の概要・目的]											
古典ギリシア語の初級文法を学習した者を対象に、ヘーロドトスの『歴史』の精読を通して、古典ギリシア語読解の基礎力を養成する。											
[到達目標]											
既習のギリシア語文法を確認しながら、辞書・文法書・注釈書を用いて、平易なギリシア語散文を読む力を養う。											
[授業計画と内容]											
ヘーロドトスの平明な散文を読むことで、今後の原典講読に必要とされる古典ギリシア語の読解力を養成することを目指す。そのために、テキストに沿って文法事項の復習をおこなう一方、辞書・文法書・注釈書の活用法の習得と語彙の増強を図りながら、原文を精読する。 授業は、出席者に訳読をしてもらう形式で進める。毎回2～3ページを読み進める予定である。参加者には、予習はもちろん、毎回の授業の復習が求められる。 初回の授業では、授業の進め方や履修にあたっての注意点を説明する。また、テキストや注釈書の使用方法を説明する。第2回の授業から読解を進めていく。											
第1回 インTRODクシヨン 第2回～第14回 読解 第15回 フィードバック(まとめ)											
[履修要件]											
古典ギリシア語の初級文法を既習のこと。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。(必要に応じて学期末テストを行う予定である。)											
[教科書]											
N. G. Wilson (ed.) 『Herodoti Historiae - 』 (Oxford University Press) ISBN:9780199560707 (テキスト) コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) Asheri, David, Alan Lloyd, and Aldo Corcella. 『A commentary on Herodotus』 (Oxford University Press) ISBN:9780199639366 コピーを配布する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
毎回の授業には、指定された範囲を予習した上で受講すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系36

科目ナンバリング		U-LET49 29615 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ギリシア語 (4時間コース) (語学) Greek(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 広川 直幸			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月1,木1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ギリシア語 (4時間コース)									
[授業の概要・目的]											
<p>ギリシア語 (正確にはギリシャ語) はヨーロッパで最も歴史の長い言語である。線文字B文書を別にすれば、紀元前8世紀後半から現在に至るまで文献が残っている。その長い歴史の中で便宜上「古典ギリシア語」と呼ばれる期間のギリシア語の基礎を習得するのがこの授業の目的である。教科書では紀元前5～4世紀頃のアッティカ方言を中心に学ぶ。アッティカ方言は、標準語を持たなかった古典ギリシア語の中で最も豊富に文献を残しており、比較的良好に実態が解明されている方言である。それゆえ、アッティカ方言の学習は、同時代の他の方言で書かれた文献を読むためにも、またそれ以前の文献 (例えばホメロス) やそれ以後の文献 (例えば『新約聖書』) を読むためにも必須である。この授業では、教科書により基礎的文法と最小限の語彙を習得することを目指すのはもちろんのこと、教科書終了後、平易なテキストを講読することにより、教科書で得られる知識と本格的な原典講読のために必要な知識との間にある非常に大きな隔たりをできるだけ小さくするところまでを目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語アッティカ方言の基礎を習得することにより、辞書、文法書等を活用して各自が望むあるいは必要とするギリシア語原典 (紀元前8世紀の叙事詩から紀元後4世紀頃の擬古文まで) の読解に取りかかることができるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>まずは全36課の教科書を原則として一回に一課ずつ学習する。授業は教科書の構成に添って進めるが、それだけでは習得に必要な反復練習や知識のネットワーク化ができないので、必要に応じて何度でも既習事項の確認・復習や関連付けを行いながら進める。特に文法に関して、何よりもまず習得すべきは屈折 (いわゆる語形変化) なので、毎回授業開始時に前回学習した屈折を覚えているかを確認し、さらに教科書の練習問題を解いてもらう度にランダムに屈折の口頭練習を行うことにより知識の早期定着を図る。</p> <p>教科書終了後は、できるだけ受講者の希望を考慮に入れてテキストを決定し講読を行う。</p> <p>前期 第1回 イントロダクション、第1課「文字と発音」の解説 第2回 第1課の練習問題、第2課「アクセント」の解説 第3回 第1課と第2課の復習 第4回 第3課の解説 第5回 第3課の屈折表の暗記の確認および練習問題、第4課の解説 第6回～第30回 第5回と同様に授業の前半に前回指定した屈折表の暗記の確認と練習問題を行い、後半に次の課の解説を行う。</p> <p>後期 第31回～第38回 前期と同様に教科書の続きを学ぶ。</p>											
----- ギリシア語 (4時間コース) (語学)(2)へ続く -----											

ギリシア語（４時間コース）(語学)(2)

第 3 9 回 ~ 第 6 0 回 平易なテキストを講読する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（課題遂行状況、積極的な授業参加）に基づいて評価する。必要な場合、年度末に試験を行う。

出席数が全授業数の 4 分の 3 に満たない者には、理由の如何を問わず、単位を認定しない。

【教科書】

水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）ISBN:4000008293

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、十分に復習と予習をしたうえで出席すること。他人から入手した練習問題の解答を写すことは手直しを加えていようと予習ではない。必ず自分の力で予習を行わなければならない。予習・復習の具体的な方法は、授業中に詳しく指示する。

（その他（オフィスアワー等））

分からないことについては、遠慮をせずに積極的に質問すること。
授業の初めに前回学習したパラダイムの暗記の確認を行うので遅刻をしないこと。
遅刻は 3 回につき欠席 1 回とみなす。また、30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系37

科目ナンバリング		U-LET49 29645 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ラテン語(4時間コース)(語学) Latin(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 佐藤 義尚			
配当 学年	2回生以上	単位数	8	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	月2,金2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語(4時間コース)									
【授業の概要・目的】											
<p>ラテン語の初歩を学ぶことを目的とする。一年間、週に二回の授業を行う。 古代ローマから近世にいたるまで哲学、文学は言うに及ばず、法律、自然科学の書物もラテン語で書かれている。ラテン語は長期にわたって西欧文化の表現手段であった。西欧の諸言語、文化はラテン語という母胎から産み落とされてきたという事実はもう少し知られてもいいだろう。ラテン語を知らずして西欧の理解はありえない。</p>											
【到達目標】											
<p>古代、中世、近世にラテン語で書かれた文献が読解できるようになることを目標とする。 フランス語、イタリア語などの近代語を生み出した言語を学ぶことで、これらの言語の仕組みがより深く理解できるようになることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は教科書にそってすすむ。各課の文法事項を説明し、ラテン語和訳の練習問題を読む。動詞、名詞、形容詞の語形変化はプリントを配布して詳述する。一回の授業で二課ぐらいの進度ですすむ。ラテン語は単語の変化がすべてとも言える言語なので、変化の練習を繰り返し行い習熟を目指す。前期は文字、発音、アクセントから始まって、動詞、名詞の基本的な変化を中心に学び、後期は分詞、接続法などを学習する。後期のなかばで教科書を終え、簡単なラテン語を読んでいく。</p> <p>前期 第1回；ラテン語の仕組み。関連ウェブサイトの紹介。 第2回～第29回；一回に二課ぐらいの進度ですすむ。 第30回；学習到達度の評価</p> <p>後期 第1回～第15回；教科書を二課ずつすすみ、学習し終える。 第16回～第30回；平易なラテン語作品を文法事項を確認しながら読む。 後期定期試験。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点60点、試験40点で評価する。											
【教科書】											
<p>松平千秋・国原吉之助 『新ラテン文法』(東洋出版) ISBN:4-8096-4301-8 教科書だけではわかりにくいので、解説資料を配布する。</p>											
----- ラテン語(4時間コース)(語学)(2)へ続く -----											

ラテン語（4時間コース）(語学)(2)

教科書巻末に語彙集がついているので、最初の段階では辞書不要。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で次回にやる練習問題を指示するのでそれを予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

ギリシア語既習であればラテン語学習はかなり容易。逆にラテン語を勉強すれば将来のギリシア語学習は容易になる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系38

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級I）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ギリシア語（初級II）（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
----- ギリシア語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ギリシア語（初級II）（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系40

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級I）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「ラテン語（初級II）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級I）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級I）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系41

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		ラテン語（初級II）（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水1	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「ラテン語（初級I）」とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- ラテン語（初級II）（語学）(2)へ続く -----											

ラテン語（初級Ⅱ）（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系42

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語文体論									
【授業の概要・目的】											
ロシア語学の一分野としてのロシア語文体論の基本的な概念について学ぶ。											
【到達目標】											
ロシア語学の概論について体系的な知識を得るほか、ことばの文体について考える。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的には講義形式である。随時視聴覚教材などのマスメディアを用い、ロシア語の活きた具体例を示す。授業で得た知識をもとに、具体例を出してもらったり、練習問題を解いてもらうこともある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 文体の分類 3. 文体と語彙 4. 文体と語彙 5. 文体と借用語 6. 文体と音・文字 7. 文体と形態論 8. 文体と形態論 9. 文体と語形成論 10. 文体と語形成論 11. 文体と統語論 12. 文体と統語論 13. 文体的修辞法 14. 文体的修辞法 15. まとめ <p>授業回数は15回とする。</p>											
【履修要件】											
「ロシア語IIA, IIB」を履修済、あるいは同程度のロシア語の知識があること。											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価については、平常点（70%）・学期末レポート（30%）に基づくものとする。平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
教員の作成の資料を用いる。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
各自露和辞典を入手しておくこと。その他の文献は授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

ロシア語運用能力の向上に日々務めたい。
また日常の「ことば」に関心を持ち、言語学が関連する文学、社会学、歴史学などの他領域にもアンテナを張っておいてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系43

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア語形態論・統語論									
【授業の概要・目的】											
ロシア語形態論および統語論に関するロシア語テキストを輪読し、これまでの先行研究を整理するとともに、最新の知見を得る。											
【到達目標】											
先行研究の論点を整理し、批判的に読み取る力を養う。 ロシア語の学术论文の読解力を向上させる。 自身のロシア語学および言語学における研究テーマや研究手法を見直す。											
【授業計画と内容】											
ロシア語統語論に関してロシア語で書かれたテキストを輪読する。 テキストは、ロシア語母語話者向けの教科書のような平易なものから、また統語論に関する学术论文や学術書まで扱う。 各テキストを3-5回で読む。 Paducheva, E.V., O semantike sintaksisa. Materialy k transformacionnoj gramatike russkogo jazyka, Moskva: URSS, 2016. Solganik, G. Ja., Russkij jazyk i kul'tura rechi, Moskva: Aspekt-Press, 2016. Zolotova, G.A., Kommunikativnye aspekty russkogo jazyka, Moskva: URSS, 2010. その他2 - 3回を用い、受講者の関心に応じロシア語以外の言語における形態論・統語論の問題を扱うテキストを随時輪読する。											
【履修要件】											
ロシア語のテキストを辞書を用いて読むため、最低でもロシア語IIを履修していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（70%）と期末レポート（30%）で総合的に評価する。なお、平常点は各授業への積極的な参加や課題への取り組みで評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
講読する箇所を授業時に配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

翌週の授業で扱うテキストの該当部分をあらかじめ予習しておくこと。
またテキストで扱われている事象の具体例を、(ロシア語または他の言語で)収集してきてもらうこともある。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系44

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トルストイ『アンナ・カレーナ』読解									
[授業の概要・目的]											
<p>レフ・トルストイの代表作『アンナ・カレーナ』の場面を選んで、読解していきます。トルストイの小説は、極めて論理的な文体で書かれている一方で、感覚的な喚起力に満ちています。ロシア語を適切な日本語に翻訳していくとともに、作品の考察や分析を試み、時代背景についての知識も深めます。</p>											
[到達目標]											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 インTRODクシヨ トルストイという作家、および『アンナ・カレーナ』の概要について説明します。</p> <p>第2回～第14回 『アンナ・カレーナ』の重要な場面を読んでいきます。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に適宜紹介します。</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

西洋文化学系45

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トルストイ『戦争と平和』読解									
[授業の概要・目的]											
19世紀ロシア文学の最高峰とも言われるレフ・トルストイの長篇小説『戦争と平和』の場面を選んで、読解していきます。トルストイの小説は、極めて論理的な文体で書かれている一方で、感覚的な喚起力に満ちています。ロシア語を適切な日本語に翻訳していくとともに、作品の考察や分析を試み、時代背景についての知識も深めます。											
[到達目標]											
1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN トルストイという作家、および『戦争と平和』の概要について説明します。											
第2回～第14回 『戦争と平和』の重要な場面を読んでいきます。											
第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。 フィードバックについては授業中に指示します。											
[履修要件]											
ロシア語文法を習得していること。独習でも構いません。											
[成績評価の方法・観点]											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
[教科書]											
テキストはプリントを配付します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に適宜紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回に授業で読む箇所に事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系46

科目ナンバリング		U-LET16 33231 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(特殊講義) Slavic Languages and Literatures (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 有宗 昌子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		聖人伝を読む ロシア教会史に関する文献の講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この講義の目的は、聖人伝とロシア教会史に関する文献の講読を通じて、ロシアのキリスト教文化とロシア社会に関する知識と理解を深めることにある。</p> <p>ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどの正教圏で列聖された様々な時代の聖人のうち、特に崇敬を集める聖人を取り扱う。関連するイコンなども参照する。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア語の基本的な読解力と、宗教的文献のジャンルの一つである聖人伝の読解力の向上を目指します。</p> <p>2) ロシア教会史と社会背景に関する知識と理解を深めます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 はじめに 授業の概略と進め方を説明し、文献の紹介を行います。</p> <p>第2回～第14回 講読： 一人の人物の聖人伝を1回ないし数回に分けて読み進める。</p> <p>第15回 まとめ フィードバックの方法は授業の中で指示します。</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の基本文法を理解していること（未修事項は適宜補います）。</p> <p>辞書を使って読めること。独習でもかまいません。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点60%、期末レポート40%で評価します。</p>											
-----スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント、データを配付します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する本や論考、映像などをできるだけ自分でも参照してみてください。

(その他(オフィスアワー等))

第1回授業の際に相談します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系47

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 中野 悠希			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア語作文									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、これまでに身に付けたロシア語の語彙や文法の知識を活用してロシア語で文章を書く力を養う。特に、構文を構文に訳すという練習に重点を置く。ロシア語と日本語とでは文法構造も文化的背景も大きく異なるため、当然ロシア語特有の言い回し、日本語特有の言い回しというものがある。このため、単語ごとに訳していくだけでは、ロシア語として通じなかったり、ぎこちなくなったりすることがままある。単語を単語に置き換える技術は語彙力の伸長とともに自ずと身に付くが、構文を構文に置き換えるには慣れが必要で、相応の訓練を要する。構文ごとの訳し方の典型的なパターンを知り、練習を積み重ねることで、ロシア語の運用能力を一段と高めることが授業の狙いである。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) ロシア語でよく使われる表現を知り、日本語の表現との対応関係を把握する。 (2) 学んだ表現を活用・応用してロシア語で自己表現をする能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 時の表現(「～する時」など) 第3回 時の表現(「～する前に」「～してから」など) 第4回 条件の表し方1(「～なら」など) 第5回 条件の表し方2(「たとえ～でも」など) 第6回 原因・理由の表し方 第7回 結果の表し方 第8回 疑問詞の構文 第9回 否定小詞 第10回 比喻・様式の表し方 第11回 程度の表し方 第12回 主語的な名詞節の表し方 第13回 補語的な名詞節の表し方 第14回 関係節 第15回 まとめ											
【履修要件】											
中級程度のロシア語の知識があることが望ましい。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席・毎回の作文課題）30%、期末レポート（和文露訳）70%

[教科書]

磯谷孝 『ロシア語作文教程』（三省堂、1973年）

適宜プリントを配布するため、教科書を各自で入手する必要はない。

[参考書等]

（参考書）

米川哲夫、佐藤純一、中村喜和、栗原成郎 『ロシア語作文の基礎（第二版）』（白水社、1980年）
授業中に適宜紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

母語であれ外国語であれ、文章力は、能動的・実践的な試行錯誤を経なくては涵養されない。したがって授業時までには教科書の指定箇所を熟読し、作文課題に取り組んでおくことが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業時間内および授業後の休憩時間に受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系48

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、数名の詩人・作家の項目を講読します。											
第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は順次、司会や対論者を担当します。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

講読のテキストはコピーを配付します。
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系49

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
平易なロシア文学史の論文の講読と、ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する学部生による研究報告											
【到達目標】											
1) 文学に関するロシア語論文の読解法を習得する。 2) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 3) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン 各自の関心に応じて研究発表のテーマ、及びその対論者を決め、だいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～9回 現代のロシア文学者I・スヒフの著作『すべての人のためのロシア文学』から、数名の詩人・作家の項目を講読します。											
第10～15回 学部生が順次、研究報告と質疑応答を行います。 大学院生は順次、司会や対論者を担当します。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
ロシア語の基礎的な知識が必要です。 スラブ語学スラブ文学専修の学部生・修士課程・博士課程生は必ず履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
講読のテキストはコピーを配付します。 報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。

[授業外学修(予習・復習)等]

講読の際には、事前に準備をしておくこと。
報告準備の過程では、事前に必ず教員の助言を受けること。

(その他(オフィスアワー等))

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系50

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -1									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨ 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、前期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

（その他（オフィスアワー等））

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系51

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ロシア・スラブ文化演習 -2									
【授業の概要・目的】											
ロシアないしスラブの文学・文化・言語・思想に関する、大学院生による研究報告											
【到達目標】											
1) 論文やテキスト、文化現象等を分析、考察する方法を身につける。 2) 研究発表と論文執筆の方法を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨ 各自の関心に応じて研究発表のテーマを決め、後期のだいたいのスケジュールを確定します。報告発表とレポート執筆の方法を確認します。											
第2回～14回 大学院生が、順次、研究報告と質疑応答を行います。 学部生は、質疑応答に積極的に参加することが求められます。											
第15回 各報告の補足と、演習の総括を行います。 フィードバックの方法は授業の中で指示します。											
【履修要件】											
スラブ語学スラブ文学専修の修士課程・博士課程生は必ず履修すること。 同じく学部生も履修することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
報告と期末レポート50%、質疑応答への取り組み50%で評価します。											
【教科書】											
報告資料は各自準備すること。報告の前々日までに配付することが望ましい。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に適宜紹介・アドヴァイスします。											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

報告準備の過程で、事前に必ず教員の助言を受けること。

（その他（オフィスアワー等））

質疑応答に積極的・主体的に参加してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系52

科目ナンバリング	U-LET16 33241 SJ36										
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	バルト・スラヴ比較・対照言語学										
【授業の概要・目的】											
「バルト・スラヴ比較・対照言語学」と題し、主にバルト諸語のラトビア語をもとに、スラヴ語（主にロシア語）と比較・対照しながら、言語学の様々な側面概説する。											
【到達目標】											
ラトビア語の音声、語彙、文法に関する概説を通して、自分が研究しているスラヴ諸語やその他の言語との対照を行い、ことばのしくみの共通点と相違点を理解する。											
【授業計画と内容】											
1. イントロダクション 2. 音と文字 3. 語彙 4. 固有名詞 5. 形態論 名詞・形容詞・副詞 6. 形態論 動詞 7. アスペクト 8. 語形成論 9. 主観的評価 10. 借用 11. 統語論 12. 言語とアイデンティティ 13. 方言 14. 予備 15. フィードバック											
【履修要件】											
ヨーロッパの言語、とりわけスラヴ語の履修歴があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（各回の授業に関するコメント）：60% 期末レポート：40%											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

堀口大樹 『ニューエクスプレスプラス ラトヴィア語』(白水社、2018年)

櫻井映子 『ニューエクスプレスプラス リトアニア語』(白水社、2019年)

三谷恵子 『比較で読み解くスラヴ語のしくみ』(白水社、2016年)

[授業外学修(予習・復習)等]

学修、研究している言語に常日頃から真摯に取り組むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系53

科目ナンバリング		U-LET16 33241 SJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(演習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 堀口 大樹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		スラブ語入門									
【授業の概要・目的】											
「スラブ語入門」と題し、ロシア語を中心としたスラブ諸語の文法の基本的な仕組みについて、ロシア語で書かれた平易なテキストを読みながら理解する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア語を中心としたスラブ諸語の構造や仕組み、歴史について理解を深める。 ・辞書を用いてロシア語のテキストを読む力を高める。 											
【授業計画と内容】											
<p>本授業では、スラブ諸語の概要についてそれぞれ3回で概観する。 また受講者の関心に応じて、下記以外のスラブ語を取り上げる場合もある。</p> <p>1-3 ロシア語 4-6 ウクライナ語 7-9 ベラルーシ語 10-12 ポーランド語 13-15 ブルガリア語</p>											
【履修要件】											
<p>ロシア語の初級文法の知識があること。 また、言語学の基礎知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>成績評価については、毎回読むテキストの予習や課題（60%）、学期末レポート（40%）に基づくものとする。</p>											
【教科書】											
<p>『スラブ語入門』(三省堂、2011年) ほか『比較で読み解くスラブ語のしくみ』(白水社、2019年) 『Academia』(Academia、2005年)</p> <p>毎回の授業で読むテキストの箇所は、授業で配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 三谷恵子 『スラブ語入門』(三省堂、2011年) 三谷恵子 『比較で読み解くスラブ語のしくみ』(白水社、2019年)</p>											
----- スラブ語学スラブ文学(演習)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(演習)(2)

河野六郎ほか 『言語学大辞典』 (三省堂)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎回の授業で読むテキストの予習をすること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系54

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36										
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 伊藤 順二				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	露書講読 1										
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下の文書をテキストとする予定である。											
											(1859) [ゲル
ツェン「ロシアとポーランド」]											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション											
第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系55

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		露書講読 1									
[授業の概要・目的]											
19世紀の思想家の文章の読解を通じて、ロシア語の一般的能力、および歴史的・批評的文書に対する読解力を向上させる。											
[到達目標]											
ロシア語で書かれた現代の研究論文、および19世紀の一般的な文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。											
[授業計画と内容]											
以下をテキストとする予定である。											
<p style="text-align: center;">. (1857)</p>											
ただし、受講者の希望によってテキストを変更する可能性もある。											
第1回：イントロダクション 第2回～第15回：講読(日本語訳、文法的説明、背景説明)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末テストはおこなわない。 毎回の講読における平常点(予習の精度)によって評価する。											
[教科書]											
使用しない プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習として自分でテキストを訳しておくことが必須となる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーは、火曜4限とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系56

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		20世紀ロシア文学を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ユーリー・トリーフォノフ『茸の秋のこと』、ユーリー・カザコフ『12月の二人』などの短編を読んでいます。20世紀後半のロシア文学を代表する彼らの文体は、簡潔かつ明晰で論理的です。語彙は平易かつ豊富です。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODakション 20世紀後半のロシア/ソ連文学の概要とその研究の基本文献について説明します。</p> <p>第2回～第8回 トリーフォノフの短編『茸の秋のこと』を精読し、語彙、視覚イメージ、文体、作品の構造、時代的・思想的背景、文学的系譜なども考慮に入れつつ、テキストを分析します。</p> <p>第9～14回 カザコフの短編『12月の二人』について、上記と同じことをします。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
-----スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く-----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはプリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系57

科目ナンバリング		U-LET16 23251 LJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代ロシア文学講読									
【授業の概要・目的】											
<p>ロシア語の初級文法を習得した、あるいはそれ以上の語学力を持つ学生を対象として、ソ連崩壊後の1990年代を代表する作家ヴィクトル・ペレ ヴィンの短編を講読します。ペレ ヴィンの世界は奇抜で幻想的である一方、平易で明晰な文体で書かれています。ロシア語の文法事項を確認しつつ、ロシア語を適切な日本語に翻訳していく訓練を行います。また文学作品の考察や分析を行い、時代背景についての知識も深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>1) ロシア文学を読解する語学力と方法と知識を習得する。 2) ロシア語文学テキストを日本語に翻訳するコツを身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODakション ペレ ヴィンという作家、および講読作品の概要について説明します。</p> <p>第2回～第8回 『青い火影』中の1編『天上界のタンバリン』を講読します。</p> <p>第9回～第14回 『虫の生活』中の1編『パラダイス』を講読します。</p> <p>第15回 本授業中で読んだ内容をまとめ、議論します。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示します。</p>											
【履修要件】											
ロシア語の初級文法を修めていること。独習でも構いません。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への取り組み80%、期末レポート20%で評価します。											
----- スラブ語学スラブ文学(講読)(2)へ続く -----											

スラブ語学スラブ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはプリントを配付します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に適宜紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

次回に授業で読む箇所事前に自分で目を通し、知らない単語を調べ、テキストが描いている情景や登場人物の心理を想像してみてください。また、理解できない部分については、何が分からないかを整理しておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

詳細は最初の授業のときに話し合ったうえで指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系58

科目ナンバリング	U-LET16 23251 LJ36											
授業科目名 <英訳>	スラブ語学スラブ文学(講読) Slavic Languages and Literatures (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語	
題目	ロシア語論文講読											
[授業の概要・目的]												
ロシア語の読解・運用能力を向上させ、合わせてロシア語による論文の作法・スタイル・表現などに習熟する目的で、人文社会系分野のロシア語学術論文の講読を行う。												
[到達目標]												
ロシア語の人文社会系分野の学術論文を辞書・参考書などを利用しながら読み、その内容を理解し、重要なポイントをまとめられるようになる。												
[授業計画と内容]												
各回とも授業担当教員の指定する論文につき、パートごとに担当者を決め、輪読する形式とする。												
第1回～第5回 ロシア文化に関する論文を講読する 第6回～第10回 歴史学関連の論文を講読する 第11回～第15回 民族学・文化人類学関連の論文を講読する												
[履修要件]												
ロシア語の基本文法を習得済みであること。												
[成績評価の方法・観点]												
平常点50%、期末レポート50%で評価する。												
[教科書]												
使用しない 教材となる論文をプリントで配布する。												
[参考書等]												
(参考書) 各自必要な辞書等を持参・利用すること。												
[授業外学修(予習・復習)等]												
当該回に読み進めるパートについて、あらかじめ辞書等を用いて一通り目を通し、内容を理解し、翻訳ができるようにしておくこと。												
(その他(オフィスアワー等))												
連絡先 obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

西洋文化学系59

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana , Vinogradova			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 日常的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 日常生活に必要な書かれた文章をすばやく理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。それぞれのテーマはロシアにおける実際の生活の場を想定したテキストとそれを発展させる対話、さらに練習問題からなります。一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につけます。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につけます。 第5回～第15回 日常の生活におけるコミュニケーション能力を身につけます。日常の生活を題材とする書かれたテキストを読んで理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、またテキストの内容を要約するといった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。											
【教科書】											
授業時にプリントの形で配付します。											
【参考書等】											
(参考書) 必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。											
スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で出される課題をきちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET16 33262 PJ36									
授業科目名 <英訳>		スラブ語学スラブ文学(外国語実習) Slavic Languages and Literatures (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Svetlana , Vinogradova			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	実習	使用 言語	ロシア語
題目		ロシア語実習									
【授業の概要・目的】											
話すこと、書くことの両面にわたって現代ロシア語の確実な知識の習得を目指します。基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につけ、実際に使いこなせるようになることを目標とします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の正しい発音を身につけ、またその聴き取り能力を身につける。2) 基本的な日常表現から始めて、よく使われる語彙、熟語、文法形式を身につける。3) 知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につける。4) 複雑な、また知的な内容の文章を理解し、自分でも作成する能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
文法の授業で習ったことを、ロシア語を母語とする教員との対話によってひとつひとつ確認し、確実にロシア語の力を身につけていくことを目指します。出席者の興味に応じて具体的なテーマを設定し、それによって授業を進めます。教材とするテキストは、それぞれの学生が興味を持つ分野を考慮にいれ、たとえば文学作品、文化に関するもの、ロシアの歴史に関するものといった形で選びます。日常的会話の場面だけでなく、知的な対話の場面を想定した訓練や一定のテーマによって文章を書く訓練も行います。											
第1回～第2回 ロシア語の正しい発音を身につける。 第3回～第4回 ロシア語の聴き取りの能力を身につける。 第5回～第14回 学術的・知的な対話の場面でのコミュニケーション能力を身につけます。知的な内容の書かれたテキストを材料に、それを自由に理解し、また自分でそのような文章を書く訓練をします。その際、テキストの内容について質疑応答をし、テキストの内容を要約する、といった訓練を通して、ロシア語の力を確実に身につけることを目指します。また文法の知識を復習し、複雑な構文を実際に使いこなせるように身につけます。 第15回 試験。 第16回 フィードバック。											
【履修要件】											
ロシア語初級文法を習得していることが望ましい。前期の授業から継続して出席することが望ましいが、絶対的条件とはしません。											
スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)へ続く											

スラブ語学スラブ文学(外国語実習)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況20%、課題の提出状況30%、学期末の試験50%で評価します。

[教科書]

授業時にプリントの形で配付します。

[参考書等]

(参考書)

必要に応じて映像資料、音声資料、ロシアで発行されている雑誌等を補助教材として用います。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で与えられる課題を、きちんと行ってください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系61

科目ナンバリング		U-LET49 19661 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級 I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>前期では、名詞と動詞の活用を学ぶとともに、ポーランド語になれていきます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、前期ではその前半分を学習します。</p> <p>期末に映画も鑑賞し、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . ポーランド語の基礎知識 (文字、アクセント、語尾変化、発音など) 【1週】 2 . 基本的な構文、格の基礎知識、名詞の主格、挨拶や自己紹介に関する語彙【1週】 3 . 基本動詞bycの変化、名詞の性の見極め方と性による形容詞の変化【1週】 4 . ここまでの内容の確認と練習【1週】 5 . 名詞と形容詞の単数複数造格、日本語の「～である」に相当する主格と造格の使い分け【1週】 6 . 名詞の単数生格、panとpaniの用法【1週】 7 . 名詞と形容詞の複数主格、「あなたがた、皆さん」の言い方【1週】 8 . ここまでの総復習、基本的な構文や語彙の確認【1週】 9 . 名詞の単数複数対格、動詞の第1変化 (-m,-sz型) 【1週】 10 . 動詞の第2変化 (-e,-isz型)、名詞の単数複数与格、「知っている」に当たる表現【1週】 11 . 動詞の第3変化 (-e,-esz型)、現在形の動詞変化のまとめ、名詞の単数複数前置格【1週】 12 . sie動詞、ktoとcoの格変化、名詞の複数生格、数量を表す言葉【1週】 13 . 前期の総復習、格の使い分けや、基本的な構文の確認、語彙の復習【1週】 14 . 映画を鑑賞し、ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス+ ポーランド語』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系62

科目ナンバリング		U-LET49 19662 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (初級I) Polish (Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語初級I									
【授業の概要・目的】											
ポーランド語の初級文法を習得する。											
【到達目標】											
<p>ポーランド語を初めて学ぶ受講生は、前期と後期を合わせて一年間の学習を終えてから、辞書を使って簡単な文章が読めるように、この言語の構造や基本的な文法を身につけます。</p> <p>後期では、動詞の時制や、ポーランド語における様々な構文を学びます。一年間で『ニューエクスプレス ポーランド語+』一冊をおおよそやり通す学習内容としますが、後期ではその後半分を学習します。</p> <p>期末に映画の鑑賞などをして、ポーランドの文化に触れます。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 . 否定生格という現象、呼格、基本的な助動詞の使い方【1週】 2 . 動詞の過去形、非人称文の過去時制、人称代名詞と再帰代名詞の格変化【1週】 3 . 動詞bycと一般動詞の合成未来形、時刻に関する表現、非人称文の未来時制、nie maの過去形と未来形【1週】 4 . 動詞のアスペクト、命令法、数詞と名詞の総合規則【1週】 5 . 命令法の続き、仮定法、miecの助動詞的な用法【1週】 6 . 移動の動詞isc/chodzic, jechac/jezdzicの用法、場所と移動の起点を表す前置詞【1週】 7 . 関係代名詞ktoryの用法【1週】 8 . ここまでの総復習、動詞の時制などの学習内容の確認【1週】 9 . 仮定法の用法の続き、関係副詞による複文の作り方、能動形容分詞、非人称動詞【1週】 10 . sieによる非人称構文、形容詞と副詞の比較変化【1週】 11 . 副分詞の作り方と用法、受動形容分詞と受動構文【1週】 12 . 非人称能動過去形と完了体動詞の副分詞、年月日の言い方【1週】 13 . 一年間の総復習、分かりにくかった点などを確認する【1週】 14 . ポーランドの文化に触れる【1週】 15 . 定期試験【1週】 16 . フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
前期のポーランド語 (初級I) の受講など、ポーランド語の基礎知識が要求されます。											
----- ポーランド語 (初級I) (2)へ続く -----											

ポーランド語（初級I）(2)

[成績評価の方法・観点]

教科書の内容に基づいた定期試験（筆記）の成績で評価します。

[教科書]

石井哲士朗・三井レナータ・阿部優子 『ニューエクスプレス ポーランド語+』（白水社）ISBN: 978-4-560-08849-4

2019年に新しく出版された『ニューエクスプレス+（プラス）ポーランド語』を使いたいと思いますが、その前の『ニューエクスプレス ポーランド語』をすでに手に入れている受講生は、『ニューエクスプレス ポーランド語』を使っても問題ありません。

授業中にプリントも配布します。

[参考書等]

（参考書）

木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系63

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語(中級II)(語学) Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級II									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験(筆記)(90%)での評価となります。授業へのぞむ姿勢(10%)も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
(参考書)											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正[編]『ポーランド語辞典』(白水社)ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語(中級II)(語学)(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系64

科目ナンバリング		U-LET49 19642 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ポーランド語 (中級II) (語学) Polish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Bogna Sasaki			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ポーランド語中級									
【授業の概要・目的】											
初級レベルよりやや高度な文法を学びつつ、語彙力を伸ばします。											
【到達目標】											
この授業を通して、より複雑な文章構造を理解する力、自分の意見などをある程度伝え表現する力を身につけていきます。											
【授業計画と内容】											
受講生の興味や要求を聞き、詳しい授業形態を決めます。特に希望がなければ受講生のレベルに応じたテキストを読み、翻訳や文章構造の説明、文法的な解説などを行いたいと思います。テキストの詳細については出席者と相談のうえで決めます。ポーランドの文化に関連した、易しい文章を使う予定です。											
授業計画：											
1．ポーランド語の知識の確認、教材の相談、短い記事の解説【1週】											
2．テキストI-翻訳と解説【3週間】											
3．テキストII-翻訳と解説【3週間】											
4．テキストIII-翻訳と解説【3週間】											
5．テキストIV-翻訳と解説【3週間】											
6．総復習とまとめ【1週】											
7．定期試験【1週】											
8．フィードバック【1週】											
【履修要件】											
ポーランド語の文法の基礎知識、1年間以上の学習歴が要求されます。											
【成績評価の方法・観点】											
基本的に定期試験（筆記）（90%）での評価となります。授業へのぞむ姿勢（10%）も考慮します。定期試験の具体的な内容は、教材を決めてから判断します。											
【教科書】											
授業中に受講生と話し合っ決めて決めた資料を用意し配布します。											
【参考書等】											
（参考書）											
木村彰一・工藤幸雄・吉上昭三・小原雅俊・塚本桂子・石井哲士朗・関口時正 [編] 『ポーランド語辞典』（白水社）ISBN:978-4-560-00095-3											
----- ポーランド語 (中級II) (語学)(2)へ続く -----											

ポーランド語（中級Ⅱ）(語学)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系65

科目ナンバリング		U-LET49 19646 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語(初級)(語学) Russian I				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語やロシア文化に関心のある学生を対象として、ロシア語を一から勉強していきます。日本ではあまりなじみのない文字の書き方と発音から始めて、意外に日本語との類推が利く基本的な文法と構文、語彙を学習していきます。											
【到達目標】											
1) ロシア語で使用されているキリル文字とその発音を習得する。 2) ロシア語の基礎的な文法を習得する。											
【授業計画と内容】											
授業は配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。 序：文字と発音 第1課 「これはナターシャです」：平叙文 第2課 「私はナターシャではありません」：人称代名詞・疑問文・否定文 第3課 「これは私のスーツケースです」：所有代名詞・指示代名詞 第4課 「あそこに古い写真があります」：形容詞と名詞の性 第5課 「雑誌を読んでいます」：動詞現在形第1変化 第6課 「日本語を話します」：動詞現在形第2変化・複数形 第7課 「彼女はどこに住んでいるのですか」：不規則動詞と前置格 第8課 「電話を持っていますか」：所有の表現・命令形 第9課 「音楽を聴いているのですか」：不規則動詞と対格 第10課 「小包を送りたい」：運動の動詞と行先の表現 第11課 「日本文学を勉強していました」：動詞の過去形 第12課 「家にいました」：様々な過去時制 第13課 「今晚はお客様が来ます」：動詞の未来形・不規則動詞 第14課 「カサがありません」：生格の用法											
フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
【教科書】											
プリントを配付します。											
----- ロシア語(初級)(語学)(2)へ続く -----											

ロシア語（初級）(語学)(2)

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET49 19647 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ロシア語（中級） Russian II				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中村 唯史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ロシア語の基礎									
【授業の概要・目的】											
ロシア語の初級を前年度に履修したか、それと同程度の基礎運用能力を習得している学生を対象として、ロシア語の基本文法の完成をめざします。											
【到達目標】											
1) ロシア語の基礎文法を完成させる。 2) 辞書を引けば、平易なロシア語を読めるようになる。											
【授業計画と内容】											
授業は、前年度初級に引き続き、配付プリントに沿って進みます。各単元の例文と文法事項はおおむね以下の通りです。（第1回～第6回） 第15課 「夫にプレゼントを買いたいのです」：与格の表現 第16課 「紅茶は普通ミルクを入れて飲みます」：造格の表現 第17課 「日本料理店でアントンを見かけました」：活動体名詞の対格・形容詞の格変化 第18課 「それがアントンでないとどうして分かるのですか？」：動詞の完了体と不完了体 第19課 「捨てるのなら手伝います」：時制のまとめ・助動詞的用法 第20課 「もし私が鳥だったら」：仮定法 その後、ロシア語の文章を読むのに必要な文法事項をさらに学びます。（第7回～12回） ・関係詞 ・副動詞 ・形動詞 ・被動相 文法事項の確認を兼ねて、平易なロシア語の文章を読みます。（第13回～第14回） 第15回 まとめ フィードバックについては授業中に指示します。											
【履修要件】											
ロシア語（初級）を前年度に履修したか、それと同程度のロシア語能力を有していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、試験70%で評価します。											
----- ロシア語（中級）(2)へ続く -----											

ロシア語（中級）(2)

[教科書]

プリントを配付します。

[参考書等]

（参考書）

開講時および授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

配付されたプリントを事前に下見して、授業後は単語や構文をしっかり復習してマスターしてください。

（その他（オフィスアワー等））

詳細は開講時に指示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系67

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「病気」で読むドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
<p>文学においては、さまざまな形で「病気」が描かれる。それは往々にして、スーザン・ソントグの言う意味での「隠喩としての病」であり、現実に存在する病気と同一視してはならない。現実に存在する病気の名を冠した文学上のモチーフは、たとえば宗教的・道徳的・政治的なレベルでの価値づけをその病気のイメージに追加することにより、ある種の暴力性を実社会において発揮するからである。この授業では、ドイツ文学に描かれた「病気」のモチーフを追い、それがどのような暴力性を帯びているかを確認したうえで、その描写にどのような生産的な意義があるのかを考えていく。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文学に描かれる「病気」と現実の病気との違いを認識できるようになる 2. 文学に「病気」が描かれることの意義とは何かについて、自分自身の考えを持てるようになる 											
【授業計画と内容】											
<p>前半は講義形式で授業を進める。「病気」のモチーフが重要な役割を果たしているいくつかのテキストを取り上げ、精読を実演する。後半は受講者に同様の手順で自分の好きなテキストについて発表してもらう。</p> <p>第1回 イントロダクション 文学に描かれた「病気」 第2回 ハルトマン『哀れなハインリヒ』 キリスト教的な意味における「隠喩としての病」 第3回 ビューヒナー『ヴォイツェック』 精神疾患のモチーフ 第4回 シュピーリ『ハイジ』 ストレスと病気 第5回 トーマス・マン『ヴェニスに死す』 伝染病のイメージ 第6回 カフカ『田舎医者』 医師の役割 第7回 デーブリン『ベルリン・アレクサンダー広場』 境界例としての文学 第8～14回 受講者による発表 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱ったものに限らず、できるだけ多くの文学作品を実際に手に取って読んでみてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		神話とドイツ文学									
【授業の概要・目的】											
この授業では、神話や伝説のモチーフが、ドイツ文学のなかでどのような役割をはたしてきたかを考察する。前半ではギリシア・ローマ神話を、後半ではそれ以外の神話や伝説を取り上げる。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ文学の作家や作品にかんする知識と理解を深める。 ・神話や伝説にかんする知識と理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>各回のテーマは次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 プロメテウス 3 パンドラ 4 ピグマリオン 5 オルフェウス 6 セイレン 7 前半のまとめ 8 水の精 9 ユーディトとサロメ 10 放蕩息子 11 トリスタンとイゾルデ 12 タンホイザー 13 ファウスト 14 ドン・ファン 15 後半のまとめ 											
【履修要件】											
ドイツ語の知識は必要としない。											
【成績評価の方法・観点】											
授業時のコメントペーパー（50％）と期末レポート（50％）によって評価する。期末レポートについては、到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
-----ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く-----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げる作品を、できるだけ自分で読んでみることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系69

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		言語学入門									
[授業の概要・目的]											
研究発表（ゼミ形式）による。ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。											
[到達目標]											
今日の言語学の手法と併せて、言語の史的考察による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題について考究する力が身に付くようにする。個別言語にとどまらず、言語一般の体系性が把握できることを目指す。											
[授業計画と内容]											
言語学の諸分野（音論・形態論・統語論・意味論などの領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく考究を進める。言語の理論的アプローチによる種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。											
第1回～第10回 研究発表（ゼミ形式）院生による。 第11回～第13回 研究発表（ゼミ形式）学部生による。 第14回～第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
主に発表の形式をとる。発表など平常点を主に成績評価を行う。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 河崎 靖 『ゲルマン語学への誘い』（現代書館） 河崎 靖 『ゲルマン語基礎語彙集』（大学書林）											
[授業外学修（予習・復習）等]											
こちらで用意する教材に関し、授業の前後（予習・復習）に課題を課し、授業時に発表できる準備をしてもらう。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系70

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Einführung in die deutsche Lyrik (I)									
【授業の概要・目的】											
Der Kurs bietet eine allgemeine Einführung in Methoden der Formanalyse und inhaltlichen Interpretation (auch hinsichtlich der Performanz) deutscher Gedichte. Zudem werden anhand ausgewählter Texte vom Mittelalter bis zum 18. Jahrhundert typische Themenkreise und Stilmerkmale der Lyrik verschiedener Literaturepochen vorgestellt.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen die Eigenheiten der lyrischen Stile unterschiedlicher Zeiten und ihre Bedeutung kennen lernen und damit in die Lage versetzt werden, einen Text selbständig einer bestimmten Stilrichtung und Zeit zuzuordnen zu können und ihn auf dieser Grundlage zu interpretieren.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Gedichte wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Formanalyse. 3.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Gedichtsbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系71

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	ドイツ語
題目		Einführung in die deutsche Lyrik (II)									
【授業の概要・目的】											
Der Kurs bietet eine allgemeine Einführung in Methoden der Formanalyse und inhaltlichen Interpretation (auch hinsichtlich der Performanz) deutscher Gedichte. Zudem werden anhand ausgewählter Texte des 19. und 20. Jahrhunderts typische Themenkreise und Stilmerkmale der Lyrik verschiedener Literaturepochen vorgestellt.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen die Eigenheiten der lyrischen Stile unterschiedlicher Zeiten und ihre Bedeutung kennen lernen und damit in die Lage versetzt werden, einen Text selbständig einer bestimmten Stilrichtung und Zeit zuzuordnen zu können und ihn auf dieser Grundlage zu interpretieren.											
【授業計画と内容】											
Jede Woche werden Gedichte wichtiger Autoren einer Epoche vorgestellt und vor dem historischen und kulturellen Hintergrund der Zeit interpretiert. Der Lehrer gibt die notwendigen Informationen, mit deren Hilfe die Studenten die Interpretation selbst vornehmen können. 1.-2. Woche: Einführung in die Formanalyse. 3.-15. Woche: Vorstellung und Interpretation typischer Gedichtsbeispiele verschiedener literarischer Epochen (auch nach Absprache mit den Studenten). 16. Woche: "Feedback" -- Zusammenfassung des in diesem Semester Erlernenen.											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen ausreichende Kenntnisse in der deutschen Sprache, um auch komplexere Texte lesen und verstehen zu können. Es wird erwartet, dass sie die jeweils zu besprechenden Texte gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (100 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen, im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen und literaturgeschichtliche Werke zu Rate ziehen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系72

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズムの哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>リズムは音楽の根源である。リズムを欠いた音楽は音楽ではない。しかしリズムは、例えば労働やスポーツや演劇、さらには絵画（例えば印象派における「タッチ」）など、人間のあらゆる活動の基底でもある。この授業ではヨーロッパの音楽ならびに音楽思想を通して、リズムとは何かを問う。</p>											
【到達目標】											
<p>音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一回～第三回：生の哲学のリズム論（ベルグソン、クラークス、エルンスト・クルトのリズム哲学を扱う） 第四回～第六回：リズムとビート（パルス）の違い（定量記譜法、小節線の誕生、時計の進歩、そしてニュートンの時間などを参照しつつ、西洋音楽のデジタル性＝離散性について考える） 第七～第八回：木村敏の時間論とリズム 第九回～第十回：リオタールの非人間の哲学とリズム 第十一～第十二回：レヴィ＝ストロースのボレロ論 第十三回～第十五回：「音楽の散文」の概念史（ワーグナーおよびシェーンベルクの著作に即し、スクエアに分節された時間からの音楽の解放の歴史をたどる）</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系73

科目ナンバリング		U-LET17 33331 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		リズム史としての西洋音楽史									
【授業の概要・目的】											
人間がどう時間を感じていたか それは音楽の中に如実にあらわれる。この授業ではネウマ譜に代わって定量記譜法が登場した中世、小節線が引かれるようになったバロック、そして小節線のスクエアな時間からの解放を探究した20世紀を中心として、時間意識の変化としての西洋音楽史を辿る。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
第一回から第三回：リズムとビートは違う（ウィーン古典派で確立された拍節リズム、ロマン派の時代に出てきた音楽の散文の概念、モダン・ジャズにおけるポリリズム、1970年代の西ドイツにおけるクラウトロックを検討する）											
第四回～第六回：時間計測としての音楽史（ネウマ譜からの定量記譜法の誕生、小節線の誕生、拍節リズムの誕生を扱う）											
第七回～第八回：時間を逆行させる夢（マショー、アルバン・ベルクと十二音技法、メシアンの逆行不能のリズムを扱う）											
第九回～第十一回：シュトックハウゼンの音楽論（トータルセリーの危機、点の音楽、群の音楽、時間と空間の同一性を論じる）											
第十二回～第十三回：クセナキスと確率論											
第十四回～第十五回：ジョン・ケージ（プリペアドピアノにおける極度に管理された時間から4分33秒における無分節の時間への移行および近藤譲の「線の音楽」について）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』 (中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系74

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		世界文学とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
<p>ゲーテが提唱した「世界文学」の概念は、これまで文学という制度を成り立たせるうえで重要な役割を担ってきた。この概念は近年、再びアクチュアリティを獲得している。国民国家の枠内では完結しない、文化と文化の越境的な相互作用の重要性が、ますます注目されるようになってきているからである。この授業では、この「世界文学」の概念からドイツ文学がどのように捉え直されるのかという問題意識にもとづき、関連する研究文献を読んでいく。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文を読む予定であるが、必要に応じて個々の文学作品も視野に入れる。授業の進行予定は以下のとおり。</p> <p>第1回 授業テーマの解説 第2～14回 テキストの輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系75

科目ナンバリング		U-LET17 33341 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅰ) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		世界文学とドイツ文学									
[授業の概要・目的]											
<p>ゲーテが提唱した「世界文学」の概念は、これまで文学という制度を成り立たせるうえで重要な役割を担ってきた。この概念は近年、再びアクチュアリティを獲得している。国民国家の枠内では完結しない、文化と文化の越境的な相互作用の重要性が、ますます注目されるようになってきているからである。この授業では、この「世界文学」の概念からドイツ文学がどのように捉え直されるのかという問題意識にもとづき、関連する研究文献を読んでいく。</p>											
[到達目標]											
ドイツ語で学術論文を読むことに慣れ、当該分野の研究動向とその問題点を的確に把握することができるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>前期に引き続き、基本的に輪読形式でドイツ語の研究論文または作品を読む。 取り上げるテーマとテキストについては、受講者の希望を考慮しつつ決定する。</p> <p>第1回 前期の復習と今期の課題の設定 第2～14回 テキスト輪読と討論 第15回 まとめ</p>											
[履修要件]											
中級以上のドイツ語の読解能力があること											
[成績評価の方法・観点]											
平常点のみで評価。欠席5回で不可とする。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
次回読む範囲を、ドイツ語辞書を用いて予め読んでおくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系76

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Hermann Hesse: Demian (1)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ヘルマン・ヘッセの小説『デーミアン』（1919）を読む。この作品は、主人公エーミル・ジンクレールが、謎めいた友人デーミアンに導かれて精神的成長をとげてゆくさまを描き出した、中期のヘッセの名作である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。 ・ヘッセの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： ヘッセの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2回～第14回 テキスト講読： 作品の前半部を精読する。</p> <p>第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系77

科目ナンバリング		U-LET17 33343 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習II) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Hermann Hesse: Demian (2)									
[授業の概要・目的]											
この授業では、ヘルマン・ヘッセの小説『デーミアン』（1919）を読む。この作品は、主人公エーミール・ジンクレールが、謎めいた友人デーミアンに導かれて精神的成長をとげてゆくさまを描き出した、中期のヘッセの名作である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた文学作品の読解力を身につける。 ・ヘッセの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
第1回～第14回 テクスト講読： 作品の後半部を精読する。 第15回：まとめ： これまでの授業内容を総括する。											
[履修要件]											
ドイツ語中級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系78

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(1)									
【授業の概要・目的】											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
【授業計画と内容】											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回 はじめに： 研究発表の要領を説明し、前期の発表日程について協議する。											
第2回～第3回 博士後期課程1回生による研究発表： 前年度に提出した修士論文の内容の報告。											
第4回～第7回 修士課程1回生による研究発表： 前年度に提出した卒業論文の内容の報告。											
第8回～第11回 博士後期課程2・3回生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第12回～第14回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第15回 まとめ： 前期の授業の総括。											
【履修要件】											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(演習III)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(演習Ⅲ)(2)

[参考書等]

(参考書)

発表者が、必要に応じて紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系79

科目ナンバリング		U-LET17 33345 SJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(演習III) German Language and Literature(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦 文学研究科 准教授 川島 隆			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ドイツ語学ドイツ文学の諸問題(2)									
[授業の概要・目的]											
受講者の研究発表と、それにもとづく出席者全員による討論を中心にして授業を進める。卒業論文、修士論文、博士論文の中間発表の場であると同時に、受講者が互いの研究テーマを共有し、議論を通じて問題意識を広げ、深めてゆくための場となることを期待している。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語学ドイツ文学研究のさまざまなテーマや方法にかんする知識と理解を深める。 ・研究発表とディスカッションの技法を身につける。 											
[授業計画と内容]											
受講者の人数や研究の進捗状況によって変更することもあるが、大まかな授業計画は次の通り。											
第1回～第3回 修士課程2回生による研究発表： 修士論文の中間報告。											
第4回～第5回 学部4回生による研究発表： 卒業論文の中間報告。											
第6回～第11回 博士後期課程学生による研究発表： 博士論文作成に向けての中間報告。											
第12回～第14回 修士課程1回生による研究発表： 修士論文作成に向けての中間報告。											
第15回 学部3回生による研究発表： 卒業論文作成に向けての中間報告											
[履修要件]											
ドイツ語学ドイツ文学専修の学生は、できるだけ出席すること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
発表者が、ハンドアウトを作成して配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 発表者が、必要に応じて紹介する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
発表者は事前に予告編を作成して受講者に配布し、受講者はそれを読んで討論の準備をしておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系80

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 山口 知廣			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		ミヒヤエル・エンデ『モモ』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ミヒヤエル・エンデ（1929-1995）が1973年に発表した『モモ（Momo）』をドイツ語で精読する。「時間泥棒」「灰色の男たち」といった言葉でもよく知られたこの物語は、円形劇場の廃墟に住み着いた一人の少女モモが、周囲の人たちと交流するところから始まる。児童文学であるこの物語は、時間の過ごし方という深いテーマを持ちながら、平易なドイツ語で書かれており比較的読みやすい。</p> <p>この授業は、時間というテーマが前景化する第二部「灰色の男たち（Die grauen Herren）」のはじめあたりまでを読み進める。第一部は、モモについて、そして彼女と周囲の人たちとの交流についての話である。各章の独立性が高い第一部から読み進めることで、モモと彼女の周りの少し不思議な人たちの物語を味わいながら、ドイツ語の読解能力を向上させることを目標とする。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の基礎的な読解能力を身につける。											
【授業計画と内容】											
第1回 導入（授業の進め方の確認、作品の紹介 等） 第2～14回 『モモ』を読む 第15回 まとめ											
【履修要件】											
ドイツ語初級の授業を履修済みであること。あるいは同程度の語学力を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習の有無、授業への積極的参加、ドイツ語読解力が向上したかどうか）によって評価します。											
【教科書】											
プリントを配布します。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習をして出席してください。予習範囲は授業中に指定します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系81

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 林 英哉			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Elizabeth Zoeller: Anton oder die Zeit des unwerten Lebens (2004)講読									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業ではドイツ児童文学の小説『アントン、あるいは価値のない命の時代』（2004年）をドイツ語から日本語に訳することで、ドイツ語の文学テキストを精読する練習します。『アントン』は12歳前後の子どもを対象とした児童文学のテキストであるため、基礎的な文法事項を再度細かくおさらいしていくのに適したテキストだと考えています。</p> <p>この小説は、ナチス時代に行われた障害者安楽死政策（通称T4作戦）を扱っています。その「価値のない命の時代」には、役に立たないとされた障害者が大勢殺害されました。これは現代日本にとって無縁なことではありません。2016年に発生した相模原障害者施設殺傷事件の犯人は「意思疎通の取れない障害者を生かすのは無駄だ」と主張し、凶行に及びました。『アントン』を読むことで、現代の児童文学でT4作戦を扱う意義とは何か、障害というテーマを文学で扱う意義は何かについても考えるきっかけになればいいと思っています。</p>											
【到達目標】											
ドイツ語の文学的テキストを読むための基礎的な読解力を養います。また、児童文学という文学ジャンルや障害という文学モチーフについての理解を深めます。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入（テキスト、作者、時代背景、児童文学という文学ジャンルなどについて） 第2回から第14回：テキストを輪読し、日本語の訳文を検討する。 第15回：全体のまとめ、フィードバック</p> <p>毎回、次の回の予習範囲を指定するので、その箇所を日本語に訳してきてください。</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級の授業を履修済みであること。あるいは同程度のドイツ語力を有すること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（予習の有無、授業への積極的参加、ドイツ語読解力が向上したかどうか）によって評価します。											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリント等を配布します。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業は輪読形式で行うので、指定された箇所を必ず日本語訳してくるようお願いします。なぜそのように訳したのか、細かい文法事項も可能な限り説明できるようにしておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系82

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 飯島 雄太郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		トーマス・ベルンハルト『石灰工場 (Das Kalkwerk)』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>トーマス・ベルンハルトの長編小説『石灰工場 (Das Kalkwerk)』（1970）をドイツ語で読む。</p> <p>トーマス・ベルンハルトは戦後のオーストリアで活躍した作家である。特異な語りの形式を用いることによって多くの作家に影響を与えた。『石灰工場』もまたこうしたベルンハルトの語りの魅力を味わうことができる中期の傑作である。</p> <p>本授業ではドイツ語力の涵養を図るのはもちろんのこと、ベルンハルトのドイツ語のニュアンスを日本語で表現するにはどうすればよいのか、適宜考察を加えながら読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>1、ドイツ語の基本的な読解能力を身につけること。</p> <p>2、ドイツ語のテキストを日本語に翻訳するコツを身につけること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ドイツ語のテキストを輪読形式で読み進める。</p> <p>第1回 授業の進め方、ベルンハルトの生涯と作品について 第2~14回 『石灰工場』を読む 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
ドイツ語初級程度の語学力を有することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点により、授業への積極的参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
----- ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)へ続く -----											

ドイツ語学ドイツ文学(講読)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

輪読形式で進めますので、必ず予習して出席してください。予習範囲は授業中に指定します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系83

科目ナンバリング		U-LET17 23351 LJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(講読) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 松村 朋彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		プロイスラー『クラバート』を読む									
[授業の概要・目的]											
この授業では、児童文学作家オトフリート・プロイスラーの代表作『クラバート』を読む。この作品は、魔法を使う水車場の親方のもとに弟子入りした少年クラバートの成長物語である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた文学作品の基礎的な読解力を身につける。 ・プロイスラーの文学世界に親しむ。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 はじめに： プロイスラーの生涯と作品について解説する。</p> <p>第2～14回 テキスト講読： 作品を最初から精読する。</p> <p>第15回 まとめ： これまでの授業内容を総括する。</p>											
[履修要件]											
ドイツ語初級程度の語学力があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点により、授業への積極的な参加、および到達目標の達成度にもとづいて評価する。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業は輪読形式で進めるので、必ず下調べしたうえで出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Erzählungen (I)									
【授業の概要・目的】											
In diesem Kurs lesen wir kurze deutsche Erzählungen hauptsächlich des 20. Jahrhunderts (z. B. von Heinrich Böll, Wolfdietrich Schnurre, Bertolt Brecht etc.). Wir sprechen über den Inhalt der Texte sowie über ihre historischen und kulturellen Hintergründe.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75 %) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET17 23362 PJ36									
授業科目名 <英訳>		ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習) German Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 外国人教師 TRAUDEN, Dieter			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	ドイツ語
題目		Deutsche Erzählungen (II)									
【授業の概要・目的】											
In diesem Kurs lesen wir kurze deutsche Erzählungen hauptsächlich des 20. Jahrhunderts (z. B. von Luise Rinser, Siegfried Lenz, Alfred Andersch etc.). Wir sprechen über den Inhalt der Texte sowie über ihre historischen und kulturellen Hintergründe.											
【到達目標】											
Die Studenten sollen lernen, sich im Gespräch unter Verwendung einfacher Satzstrukturen frei zu äußern und ihre Meinung zu sagen.											
【授業計画と内容】											
Während des Unterrichts müssen die Teilnehmer die Inhalte der Texte in ihren eigenen Worten zusammenfassen und sagen, was sie darüber denken. Der Lehrer korrigiert die Studenten und gibt grammatische, stilistische sowie kulturhistorische Hinweise. 1. Woche: Einführung in Inhalte und Methode des Unterrichts. 2.-14. Woche: Gemeinsame Diskussion der ausgewählten Texte (s. o.). 15. Woche: Test 16. Woche: "Feedback" - Zusammenfassung der am häufigsten aufgetretenen Fehler und Erläuterungen zu ihrer Vermeidung											
【履修要件】											
Die Studenten benötigen Vorkenntnisse im deutschen Wortschatz und der deutschen Grammatik im Umfang etwa eines Studienjahres. Es wird erwartet, dass sie die Texte jeweils vor dem Unterricht gut vorbereiten.											
【成績評価の方法・観点】											
Die Bewertung erfolgt auf der Grundlage der Unterrichtsbeteiligung (75%) sowie eines Tests am Ende des Semesters (25 %).											
【教科書】											
Die Anschaffung eines Textbuches ist nicht erforderlich. Alle nötigen Materialien werden den Studenten auf der Panda-Website zur Verfügung gestellt.											
----- ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)へ続く											

ドイツ語学ドイツ文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Die Studenten sollten sich Wörterbücher (auch elektronischer) bedienen und im Zweifelsfall eine Übersicht über die deutsche Grammatik benutzen.

[授業外学修(予習・復習)等]

Es wird empfohlen, dass die Studenten ihre während des Unterrichts gemachten Notizen noch einmal durchsehen und systematisieren.

(その他(オフィスアワー等))

Für Fragen der Studenten steht der Dozent nach dem Unterricht sowie nach Absprache in einer Sprechstunde zur Verfügung.

Kontakt: dtrauden@gmail.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Donne, Songs and Sonnets研究									
【授業の概要・目的】											
初期近代イングランドを代表する詩人の一人であるJohn Donneが書いた詩の内、Songs and Sonnetsと総称される恋愛詩の数篇に解説を加えながら精読し、詩中で提示される諸問題を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期近代の詩の読み方を身につける。 ・ John Donneの詩言語の特徴を理解し、そのリズムを身につける。 ・ 授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション John Donne並びに授業で扱う詩の解説 第2回：The Messageの精読と解釈 第3回：The Baitの精読と解釈 第4回：The Broken Heartの精読と解釈 第5回：A Volodiction Forbidding Moriningの精読と解釈 第6回：The Good Morrow / Songの精読と解釈 第7回：The Sun Risingの精読と解釈 第8回：Love's Usury / The Canonization前半の精読と解釈 第9回：The Canonization後半 / The Triple Foolの精読と解釈 第10回：The Anniversaryの精読と解釈 第11回：Love's Growthの精読と解釈 第12回：Love's Exchangeの精読と解釈 第13回：Love's Alchemyの精読と解釈 第14回：The Fleaの精読と解釈 第15回：全体のまとめ フィードバックについては授業中に指示をする。											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

中間ならびに期末レポートにより評価する(40%, 60%)。題目、体裁等詳細については授業中に指示をする。

定期試験は行わない。

[教科書]

John Donne 『John Donne ' s Poetry (Norton Critical Text)』 (W.W.Norton) ISBN:978-0393926484

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各回に割り当てた詩については、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、レポート作成の準備を行うこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系87

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの伝記文学									
【授業の概要・目的】											
イギリス人は伝記好きな国民と言われる。たしかに書店に行くと、さまざまな人物にかんする伝記がたくさんおいてある。本講義においては、英文学史における重要な伝記作品をいくつか取り上げ、それらを具体的に検討し、文化的背景にも触れつつ、このジャンルにかかわる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
伝記文学に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、伝記文学を批評的に読解するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
Class 1 イントロダクション Class 2 Thomas More (Life of Richard III, Roper's Life of Thomas More) Class 3 Samuel Johnson (Essay on Biography) Class 4 Samuel Johnson (Life of Richard Savage) Class 5 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 6 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 7 Robert Southey (Life of Nelson) Class 8 Walter Scott (Life of Napoleon Buonaparte) Class 9 John G. Lockhart (Life of Walter Scott) Class 10 Elizabeth Gaskell (Life of Charlotte Bronte) Class 11 John Forster (Life of Charles Dickens) Class 12 James A. Froude (Life of Thomas Carlyle) Class 13 Lytton Strachey (Eminent Victorians) Class 14 Virginia Woolf (“ The New Biography ” “ The Art of Biography ”) Class 15 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、学期末レポートによって評価する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習、復習については授業中に説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化的空間としての中西部									
【授業の概要・目的】											
<p>様々な文化が相互嵌入する空間としての中西部を描いた英語テキストを通じて、アメリカ文化の多様性、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。異文化交流の実践の一環として、本学の留学生あるいは外国人教員を招請し、異文化に身を置くことについて、受講生も交えて英語でのパネルディスカッションを行い、異文化間コミュニケーションの理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
<p>注意：順番は入れ替わる可能性があるため、必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること</p> <p>第1回：【序論】中西部の地域的特徴をSherwood AndersonやWilla Catherなどの中西部出身の作家のテキストを通じて概括する</p> <p>第2回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part Iにおける自然とヒト</p> <p>第3回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part IIにおける自然とヒト</p> <p>第4回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（1）</p> <p>第5回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（2）</p> <p>第6回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（1）</p> <p>第7回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（2）</p> <p>第8回：【異文化体験についてのパネルディスカッション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、本学の留学生等、外国から来た人々と英語で意見交換を行う</p> <p>第9回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（1）</p> <p>第10回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（2）</p> <p>第11回：Eminem主演映画『8 Mile』における貧困白人家庭とラップ・ミュージック</p> <p>第12回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（1）</p> <p>第13回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（2）</p> <p>第14回：レポート・ワークショップ</p> <p>第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての中西部を包括的に理解する</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回で取りあげる。発表は担当するテキストに関するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

基本的にテキストはウェブにアップロードする
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前にテキストを必ず読んでから授業に参加すること。内容確認のために毎回小テストを行う予定。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（各回のテーマ）</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

性を探る

第14回：翻訳の限界と可能性（2）：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（60％）と期末の翻訳課題（40％）を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』（Penguin）ISBN: 978-0241954300

【授業外学修（予習・復習）等】

各回、こちらで指定した英文テキスト（短めのもの）を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメールで提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系90

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法・構文文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%)、学期末のレポート(70%)から総合的に評価する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系91

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。</p> <p>第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり（1）：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり（2）：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語（1）：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語（2）：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート（70%）、授業への取り組みの状況（30%）から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系92

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(1)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、古英語(Old English)の入門書として定評のある_Introduction to Old English_を手がかりに古英語文法の修得をめざす。あわせて、平易な原典テキスト(散文・韻文)の読解を行う。											
【到達目標】											
この授業では、											
<ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項(音韻・形態・語彙・統語等)を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになることを目標にする。 											
【授業計画と内容】											
第1回 英語史の復習：ゲルマン語の中の英語											
第2回 古英語の綴りと発音											
第3回 古英語の語彙											
第4回 古英語の文法(1)：名詞類の屈折											
第5回 古英語の文法(2)：動詞の屈折											
第6回 古英語の文法(3)：法											
第7回 古英語の文法(4)：語順											
第8回 古英詩の韻律											
第9回 古英詩の語彙											
第10回 古英詩の統語法											
第11回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (1)											
第12回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (2)											
第13回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (1)											
第14回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (2)											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
「英語史」の概説科目を履修済みか、同時に履修することが望ましい。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『_Introduction to Old English_ 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。
- ・「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系93

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>後期の講義では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の原典テキスト（韻文）の精読を通じて、前期に学んだ基本的な古英語文法に関する知識の定着を図る ・中英語期以降の脚韻詩との比較・対照を通じて、古英語頭韻詩の言語、題材に対する理解を深める <p>ことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項（音韻・形態・語彙・統語等）を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 Beowulf (1)</p> <p>第3回 Beowulf (2)</p> <p>第4回 Beowulf (3)</p> <p>第5回 Beowulf (4)</p> <p>第6回 The Battle of Finnesburh (1)</p> <p>第7回 The Battle of Maldon (1)</p> <p>第8回 The Battle of Maldon (2)</p> <p>第9回 The Battle of Maldon (3)</p> <p>第10回 The Battle of Maldon (4)</p> <p>第11回 The Wanderer</p> <p>第12回 The Wife's Lament</p> <p>第13回 The Husband' Message</p> <p>第14回 Riddles</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>進捗状況に応じて、材料を入れ替える可能性もある。</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるがテキストの精読を重視するので、受講者には入念な事前準備が求められる。

[履修要件]

「英語史」の概説を履修済みであること、または履修中であることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd edition』 (Wiley-Blackwell) ISBN:9780470659847

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ 受講にあたっては入念な下調べが要求される。
- ・ 授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。
- ・ 「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系94

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Adrienne Richの第4詩集『生きるのに必要なもの』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人アドリエンヌ・リッチ（1929-2012）はハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジ在学中の1951年、詩集『世界の変化』A Change of Worldでデビューした。初期作品のスタイルは内容面においても形式面においても抑制的な傾向がみられるが、第3詩集『義理の娘のスナップショット』（Snapshots of a Daughter-in-Law 1963）から、自身の体験を反映したものへと変化をみせる。リッチは60年代から公民権運動や反戦運動、フェミニズム運動に積極的にに関わり、アカデミズムの外からメッセージを発し続けた詩人であり、文学史においては力強い声を持つ詩人と位置づけられている。しかし、第4詩集『生きるのに必要なもの』（1966）には、詩人の揺らぎやためらいが垣間見られ、リッチが独自のスタイルを形成するプロセスを示してくれる。本授業では、本詩集を通じて、彼女の作品の受容と詩人像を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>リッチは文学の枠を超え、フェミニズムの批評家・運動家としても重要な人物である。リッチが提示した「強制的異性愛」や「レズビアン連続体」といった概念、一人称複数“ We ”をめぐる連帯の限界と可能性をめぐる批判は、今日の問題に接続されるだろう。本授業では、リッチの作品を読むことで、読解力だけではなく、第2波フェミニズム運動の基本的事項を習得する。</p> <p>リッチの作品は彼女の思想的な枠組み（もしくは女性というジェンダーやリッチのセクシュアリティ）から論じられる傾向がある。リッチの作品の「詩的さ」というべきものが、このような批評の言説といかに連動し、テキストの意味を産出してきたか考えることで、作品と批評の相互関係についての視座を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.Necessities of Life 2.In the Woods 3.The Corpse-Plant 4.The Trees 5.Like This Together 6.Breakfast in a Bowling Alley in Utica, New York 7.Two Songs 8.The Parting 9.The Stranger 10.After Dark 11.Mourning Picture 12."I Am in Danger--Sir--" 13.Halfway 14.Noon 15.フィードバック 											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系95

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 教授 里内 克巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Emily Dickinsonの詩を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人Emily Dickinson(1830-86)の詩を鑑賞し、作品としての特質や、その背後にある文化的・歴史的背景を理解する。</p> <p>現在最も入手しやすいディキンソン詩の対訳本と、批評家Helen Vendlerによるアンソロジーとを併用し、英詩に親しんでいない受講生でも無理なく入っていける授業を行ないたい。まず上記2冊に共通して取り上げられている詩31編を対象に、日本語による注釈と訳、そして英語による批評的コメントを参照しつつ、受講者が1編ずつ丁寧に解説を試みる作業を授業の軸とする(1回の授業につき3~4編を扱う予定)。余裕があれば、アンソロジー所収の詩から気に入ったものを受講生が選び、発表するという形で更に読み進める。ディキンソンを扱った最近の伝記映画も鑑賞し、詩が書かれたバックグラウンドを把握することも試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>英語で書かれた詩作品を読み、スタイルやレトリックなどの工夫について説明できる。</p> <p>作品が書かれた伝記的・歴史的な背景について説明できる。</p> <p>作品の内容や、それを読んで感じたこと・考えたことを、分かりやすく他の人に伝え、共有することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
(暫定的なスケジュール表) 数字はジョンソン番詩集に付された番号											
第1回 インTRODクシヨN											
第2回 76, 126, 131番											
第3回 165, 214, 216番											
第4回 228, 249, 254番											
第5回 258, 280, 303番											
第6回 324, 328, 333番											
第7回 ディキンソNの生涯(映画鑑賞とディスカシヨN)											
第8回 338, 341, 441番											
第9回 448, 449, 465番											
第10回 501, 585, 712番											
第11回 883, 986, 1052番											
第12回 1068, 1129, 1275, 1540番											
第13回 ディキンソNの生涯(映画鑑賞とディスカシヨN)											
第14回 授業の振り返り											
第15回 フィードバック(学習相談・レポートへのコメントなど)											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点80点＋学期末レポート20点により評価する。
平常点とは、出欠・発表・授業参加の仕方を総合したもので、基本的に減点法で評価を行う。学期末レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。

【教科書】

亀井俊介 編 『対訳ディキンソン詩集 アメリカ詩人選(3)』（岩波文庫）ISBN: 4-00-323101-5
Helen Vendler 『Dickinson: Selected Poems and Commentaries』（Belknap Press）ISBN:0674066383

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業で扱う詩をあらかじめきちんと読み、自分なりに理解したうえで授業に臨むのが大前提となる。1回の授業につき半日程度の準備時間が必要になるので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設けられていない。授業時間外で質問・相談したいことがあれば、電子メールで連絡できる。

satouchi@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系96

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説Glory(1971、ロシア語版は1932年)を精読する。一つ一つのこ とと詳細を丁寧に拾い上げながら読むことによって、ナボコフ自身が本作品に見られると言う「純 粋とメランコリーの絶頂」を確認することを目的とする。また、微細ないくつかの出来事、モチ ーフのつながりに注目しながら読み解く。											
【到達目標】											
比較的難解な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨン											
第2回 1 - 4 章輪読											
第3回 5 - 8 章輪読											
第4回 9 - 12 章輪読											
第5回 13 - 16 章輪読											
第6回 17 - 20 章輪読											
第7回 21 - 24 章輪読											
第8回 25 - 28 章輪読											
第9回 29 - 32 章輪読											
第10回 33 - 36 章輪読											
第11回 37 - 40 章輪読											
第12回 41 - 44 章輪読											
第13回 45 - 48 章輪読											
第14回 残りの輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『Glory』 (Penguin 2006) ISBN:ISBN-10 : 0141188510

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回の授業で3、4章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系97

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Reading Like a Writer									
【授業の概要・目的】											
この講義ではアメリカの小説家Francine Proseによる小説読書・創作論Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them (Harper Collins, 2006)を講読し、小説の精読技法と創作技法の関係性について考察する。「作家のように読む」ことは特別な技術なのか?それによって読者はどのような洞察が得られるのか考えたい。											
【到達目標】											
(1)一般読者向けの小説批評を英語で読み理解できる。 (2)小説の基本的な諸要素の機能を理解し、実際の作品分析に応用できるようになる。 (3)精読プロセスと創作プロセスの関係性について考察を試みる。											
【授業計画と内容】											
第1回 「作家のように読む」とは?精読と創作技法 第2回 One: Close Reading 第3回 Two: Words 第4回 Three: Sentences (1) 第5回 Three: Sentences (2) 第6回 Four: Paragraphs 第7回 Five: Narration 第8回 Six: Character 第9回 Seven: Dialogue (1) 第10回 Seven: Dialogue (2) 第11回 Eight: Details 第12回 Nine: Gesture 第13回 Ten: Learning from Chekhov 第14回 Eleven: Reading for Courage 第15回 期末レポートフィードバック・ふりかえり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の(1)~(3)の達成度について、授業参加20%、発表20%、期末レポート60%で評価する。発表とレポートの詳細については授業で説明する。											
【教科書】											
Francine Prose 『Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them』(Harper Collins, 2006) ISBN:9780060777050											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業で説明する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系98

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(前半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
第1回 題目:イントロダクション 授業の進め方の説明 Charles Dickensについて											
第2回 題目:Dickensの作品群 生涯にわたって書かれた作品群の概説と評価の変遷											
第3回 題目:Book 1 Chapter 1 作品の書き出しと執筆の背景、副題'The Parish Boy's Progress'について											
第4回 題目:Book 1 Chapter 2 作品の時代、作品のIllustrationについて											
第5回 題目:Book 1 Chapter 3~5											
第6回 題目:Book 1 Chapter 6~8											
第7回 題目:Book 1 Chapter 9~11											
第8回 題目:Book 1 Chapter 12~14											
第9回 題目:Book 1 Chapter 15~17											
第10回 題目:Book 1 Chapter 18~20											
第11回 題目:Book 1 Chapter 21~22 Book 1のまとめ											
第12回 題目:Book 2 Chapter 1~3											
第13回 題目:Book 2 Chapter 4~6											
第14回 題目:Book 2 Chapter 7~9											
第15回 題目:Book 2 Chapter 10~11 前期で読んだところまでのまとめ											
----- 英語学英文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%
期末レポート：60%

[教科書]

Charles Dickens 『Oliver Twist』（Penguin, 2003）ISBN:978-0-141-43974-7（Edited by Philip Horne）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系99

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(後半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
第1回 題目:Book 1とBook 2 Chapter 11までの総括 作品のこれまでの読みどころについて、総括的に考察する。 第2回 題目:Dickensの時代 19世紀イギリスの社会背景を講義する。 第3回 題目:Book 2 Chapter 12~14 Book 2のまとめ 第4回 題目:Book 3 Chapter 1~3 第5回 題目:Book 3 Chapter 4~6 第6回 題目:Book 3 Chapter 7~9 第7回 題目:Book 3 Chapter 10~12 第8回 題目:Book 3 Chapter 13~15 第9回 題目:Book 3のまとめ、 Book 1 Chapter 17 "streaky, well-cured bacon"について 第10回 題目:ディケンズと都市 第11回 題目:ディケンズと犯罪 第12回 題目:先行する作品論の検証(1) 第13回 題目:先行する作品論の検証(2) 第14回 題目:先行する作品論の検証(3) 第15回 題目:フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%
期末レポート：60%

[教科書]

Charles Dickens 『Oliver Twist』（Penguin, 2003）ISBN:978-0-141-43974-7（Edited by Philip Horne）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系100

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Elementary Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
This class's primary goal is improvement of skills related to academic writing. At the completion of the class, students who have successfully understood, practiced and mastered these skills will be able to formulate and organize their ideas for an essay, work through successive drafts or versions of the essay, engage in self- and peer-editing, and to revise their writing through these stages.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous one, meaning that regular attendance is necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook and other times being editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by instruction in rhetorical language or grammar related to specific types of essay writing.											
The semester will be almost equally divided into three study units: moving from paragraph to short essay writing, descriptive essays, and finally narrative essays.											
Week 1- Introduction to the class: Goals of Academic Writing, textbook overview, begin Unit 1 with overview, moving from paragraph writing to short essays.											
Week 2 - Concentration on topic sentences, simple and compound sentences, paragraph structure.											
Week 3 - Focus on controlling ideas and use of dependent clauses in sentences, avoiding run-on sentences.											
Week 4 - Developing unity and coherence, use of supporting sentences and patterns of organization.											
Week 5 - Organization of a short essay, thesis statements, body paragraphs and conclusion											
Week 6 - Begin Unit 2, Descriptive Essays - Discussion of essay organization, freewriting exercise, brainstorming ideas and vocabulary appropriate for a descriptive essay.											
Week 7 - Use of idea bubbles (or word webs) to make an outline											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Use of details and similes in descriptive essays, adjective order, writing a first draft.

Week 9 - Peer editing the first draft, editing and re-writing the descriptive essay, writing a second draft.

Week 10 - Descriptive Essay Timed Writing on a theme assigned by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 3, Narrative Essays - Reading and discussing examples of a short narrative essay, freewriting exercise, brainstorming ideas and vocabulary for a narrative essay.

Week 12 - More and varied examples of narrative essays, outlining your own essay, focus on sequence markers and subordinating conjunctions.

Week 13 - Adding details for interest, writing a first draft, peer editing, use of past continuous verbs.

Week 14 - Editing the first draft of the narrative essay, incorporation of peer editing comments and re-writing a second draft.

Week 15 - Narrative essay Timed Writing exercise on a theme assigned by the instructor.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

There are no examinations as this is a writing class.

Evaluation will be decided in the following way:

Attendance 26% (2% per class with two allowed absences)

Homework in the textbook 26%

Completed essays 48%

【教科書】

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay』 (Oxford University Press)
ISBN:ISBN 978-0-19-432347-5 (Second Edition of this textbook, not the first)

Students are required to purchase a textbook for the course although the instructor may provide prints during the first two weeks.

【参考書等】

(参考書)

英語学英文学(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion the following week.

Essays will be evaluated by the instructor including both a grade and comments for improvement in writing.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系101

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.</p>											
【到達目標】											
<p>The class`s primary goal remains, as in the first semester, an improvement of skills related to academic writing.</p> <p>Building on the foundation built during the spring term, students will continue to structure, compose and refine essays from conceptual to finished stages.</p> <p>At the completion of the course, students will have increased the varieties of essays they have written, which will give them not only expertise, but confidence to go on to longer essays. They will be able to more independently formulate longer essays from start to completion, and will have increased their critical thinking.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Each meeting of the class will be a continuation of the previous week`s, making regular attendance necessary in order not to fall behind.</p> <p>There will be weekly homework, which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook, other times editing of students` writing.</p> <p>In some cases, this will be followed by introduction of rhetorical language or grammar presentations related to specific types of essays.</p> <p>The class will be divided into three study units, focusing on three types of essays: Opinion, Compare and Contrast, and Cause and Effect.</p> <p>Week 1 - Introduction for new students - Begin Unit 4, Compare and Contrast Essays. Reading an example and discussion of topic. Freewriting exercise.</p> <p>Week 2 - Brainstorming ideas and vocabulary relevant to a compare and contrast essay, identifying audience and purpose, use of a Venn diagram as an outlining tool, writing an outline.</p> <p>Week 3 - Reading examples of compare and contrast essays, examining the structure, focusing on connectors in sentences. Writing a first draft and peer editing.]</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

Week 4 - Use of comparative adjectives, adverbs, nouns and appropriate use in comparisons, contrasts. Editing the first draft and re-writing (second draft).

Week 5 - Review of key language and grammar points of unit 4. Compare/Contrast Timed Writing exercise on a theme given by the instructor.

Week 6 - Begin Unit 5, Opinion Essays. Reading and discussion of an opinion essay example. Freewriting exercise.

Week 7 - Brainstorming ideas, vocabulary and identifying audience and purpose of the essay. Essay organization/structure and writing the outline. Reading two more short examples.

Week 8 - Using facts to support an opinion, differentiating facts from opinions, recognizing counter-arguments and refutations, writing a first draft and peer editing.

Week 9 - Using quantity expressions effectively in supporting your opinion, connectors showing support and opposition, self-editing the first draft and re-writing.

Week 10 - Review of key language and grammar points of Unit 5. Opinion Essay Timed Writing on a theme given by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 6 - Cause and Effect Essays. Reading an example, discussing a cause and effect situation, brainstorming ideas and vocabulary appropriate for Cause and Effect essays, identifying audience and purpose, freewriting exercise.

Week 12 - Cause and Effect essay organization and an effective essay's organization, skillful use of examples to support ideas, writing an outline for the essay.

Week 13 - Examining the organization of a well-done Cause and Effect essay, using phrasal verbs, writing and peer editing a first draft, review of future tense verbs used in Cause and Effect essays.

Week 14 - Use of conditionals, editing the first draft and re-writing, review of focus language and grammar points of unit 6.

Week 15 - Time Writing on a Cause and Effect theme given by the instructor.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

There are no examinations for this writing class.

Evaluation will be determined as follows:

Attendance 26% (2% per class with allowance of two absences, but extra points for perfect attendance)

Homework in the textbook 26%

Completed Essays 48%

英語学英文学(特殊講義)(3)へ続く

英語学英文学(特殊講義)(3)

[教科書]

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay (Second Edition)』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-432347-5 (Having a textbook is required)
Students should bring the textbook to the first class as well as always bringing a dictionary to be used when writing.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習 ・ 復習) 等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion.

(その他 (オフィスアワー 等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		痛み から読む英文学									
【授業の概要・目的】											
<p>情動論や感情史研究の興隆とともに近年注目されている、人文学からアプローチする主観的な情動体験としての「痛み」を中心に、英文学のテキストを再考する。「痛み」は誰の生にもありふれた、しかし言語化や数値化、共有が困難な事象である。本講義では19世紀から20世紀中盤の時間軸に書かれた、動物/女性/子供の痛みを含む物語作品やエッセイを読み、実際に人間や動物が体験している 生きている痛み を歴史と文化の中から発見しながら、「痛みと文学」の関係性を考察し、言葉の力あるいはその無力さに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>「痛み」という経験・事象は歴史的にどのように生きられ、与えられ、耐えられ、どのように理解・表現されてきたのか。「痛み」にはどのような種類があり、人間や動物が生きる上でどのような意味と役割を有しているのか。こうした問題意識を念頭に、本講義では文学テキストの読解を通じて、様々な諸力とイデオロギーによって隠され、存在を消されてしまうこともある「痛み」を発見できる観察眼を磨くに加えて、その痛みを文化的に、歴史的に考察できるようになることを目的とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 人文学における痛み論の展開 第3回 文学と痛みについて－文献紹介・ディスカッション 第4回 Anna Sewall, <i>Black Beauty: The Autobiography of a Horse</i> 第5回 Margaret Marshall Saunders, <i>Beautiful Joe: A Dog's Own Story</i> 第6回 George Orwell, "Shooting an Elephant" 第7回 Ernest Hemingway, "An African Story" 第8回 Ernest Hemingway, "Indian Camp" 第9回 Samuel Warren, "Cancer" 第10回 Virginia Woolf, "On Being Ill" 第11回 James Joyce, "An Encounter" 第12回 James Joyce, <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> 第13回 James Joyce, <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> 第14回 George Orwell, <i>Such, Such Were the Joys</i> 第15回 まとめ+質疑応答</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

リアクションペーパーと授業参加度（30％）＋レポート（70％）で総合的に評価する。

[教科書]

テキストはPandAにアップする。「痛み」を描いた章や該当部分を事前に読んでおくこと。

[参考書等]

（参考書）

デイヴィッド・B・モリス 『痛みの文化史』（紀伊國屋書店、1998年）

伊東剛史、後藤はる美（編著） 『痛みと感情のイギリス史』（東京外国語大学出版会、2017年）

特集 『痛むカラダ 当事者研究最前線』（現代思想2011年8月号、青土社、2011年）

E.ヘミングウェイ、W.S.モームほか 『病短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2016年）

W.C.ウィリアムズ、F.S. フィッツジェラルドほか 『医療短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2020年）

Elaine Scarry 『The Body in Pain: The Making and Unmaking of the World』（Oxford UP, 1985）

David Biro 『Listening to Pain: Finding Words, Compassion, and Relief』（W. W. Norton, 2011）

Joanna Bourke 『The Story of Pain: From Prayer to Painkillers』（Oxford UP, 2014）

[授業外学修（予習・復習）等]

レポートの課題は「痛みと文学」を予定し、履修者の関心に応じた論を立ててもらうため、あらかじめ身の回りに存在する「痛み」に関心を持ち、文献の収集を行なっておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系103

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 越智 博美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Dos Passos, U.S.A. を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>作品解釈能力と英語読解力を向上すべく、John Dos PassosのU.S.A.三部作および関連文献の講読を行う。Dos Passosは42nd Parallel(1930), 1919(1932), Big Money(1936)の三作を1937年にU.S.A.というタイトルをつけ、最初と最後に文章を足してひとまとめにして出したが、このことによりこの3つの作品はどのような意味を持つことになるのだろうか。また一般に本作は実験的手法の組み合わせだった作品よしても知られているが、最終的にそれをどう考えるとよいだろうか。みなさんとともにこの作品を読みながら考えてみたいと思います。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられた作品を精確に読み、作家独自の視点や表現を味わうとともに、アメリカ小説の語法に関する知識を広げる。 2. 1930年代の小説の大まかな流れを理解しながら作品を位置づける。 3. 小説の背景をなすアメリカ合衆国の歴史をある程度理解しながら作品と社会の交渉の過程を考察する。 4. 最終試験（教室内でのエッセイ作成）では、作品の要諦を説明し、みずからの解釈を論理的に表現する方法を実践的に学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>1日目(1～4回)：作家と作品の背景, 文学史について、42nd Parallelの導入部について 2日目(5～7回)：42nd Parallel, 1919 3日目(8～11回)：1919m The Big Money 4日目(12-15回)：The Big Money, 最終筆記試験, みなさんの見解の発表とフィードバック。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>ディスカッションへの参加 30% 発表時のパフォーマンス 40% 最終筆記試験 30%</p>											
----- 英語学英文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

英語学英文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Dos Passos, John 『U.S.A.』 (The Library of America) ISBN:978-1-883011-14-7

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業までに、不明な単語を調べるなど、できるだけ内容を把握しておいてください。第一回は冒頭のU.S.A.の文章、および最初のNewsreelを読んでいくこととなります。そのあと、最初の物語章、最初のカメラ・アイ、最初の伝記章などはすべて読んでいきます。テキストを手にとっていただけではわかりませんが、15時間の授業で読み通すのは不可能ですから、部分的に取りあげながらということになるかと思えます。そうであっても実際に読んでみる経験そのものがとても大切です。のちほど特に取りあげる場所などを指定しますので、そこを注意して読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

hiromy@ka2.so-net.ne.jpまでメールにてご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系104

科目ナンバリング		U-LET18 23431 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(特殊講義) English Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		英語のwriting systemとその歴史									
[授業の概要・目的]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemに収録された論考を読みながら、英語の綴り字やパンクチュエーション等のwriting system全般について、その歴史や現在の姿を学びます。											
[到達目標]											
英語の綴り字やパンクチュエーションが確立するまでにどのような歴史があったかを学び、これを踏まえて現代英語における様々なヴァリエーションへの理解を深めることを目標とします。											
[授業計画と内容]											
授業計画と内容 1回目 イントロダクション 2回目～15回目 以下の作業の組み合わせによって進めていきます。 ・指定した教科書の講読 ・参考図書、関連する論文の講読 ・テーマごとに1名以上からなるグループによるプレゼンテーション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
プレゼンテーションおよび授業への貢献度(70%)、簡易なレポート(30%)によって評価を行います。											
[教科書]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemは、図書館のものを使用します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://iyeyri.com/ (このURLを定期的にチェックしてください。)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
プレゼンテーションは集中講義期間内に、レポートは授業終了後に提出することになります。プレゼンテーションの準備を短時間で行うことが必要になりますので、期間中はできるだけ集中して授業の準備をする時間を確保するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
必要な場合は、 https://iyeyri.com/contact からご連絡ください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系105

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Suzanne RomaineのLanguage in Society: An Introduction to Sociolinguisticsを講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション 第2回： 英語と方言 第3回： 世界における英語の役割 第4回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第5回： 方言研究の手法と社会言語学 第6回： 英語のスタイル 第7回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第8回： 言語変化が意味するもの 第9回： 言語変化と社会的要因 第10回： 言語接触全般 第11回： ピジン・クレオール・コード切り換え 第12回： 社会言語学と言語理論 第13回： 言語のコミュニティーとネットワーク 第14回： 言語計画 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度(40%)およびレポート(60%)によって評価を行います。

[教科書]

Suzanne Romaine 『Language in Society: An Introduction to Sociolinguistics』(OUP) ISBN:0198731922

[参考書等]

(参考書)

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』(CUP)

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中英語入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Mankindの講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法											
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項											
第3回： Mankindの講読および初期印刷本の特徴											
第4回： Mankindの講読および中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： Mankindの講読および中英語の語順											
第7回： Mankindの講読および中英語の名詞・形容詞											
第8回： Mankindの講読および中英語の代名詞全般											
第9回： Mankindの講読および中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： Mankindの講読および中英語の前置詞											
第12回： Mankindの講読および中英語の副詞											
第13回： Mankindの講読および中英語の助動詞											
第14回： Mankindの講読および中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (Oxford University Press)

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系107

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習 I) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
Tom Stoppard, Leopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回：Leopoldstadt 3-5ページの講読と討論</p> <p>第3回：6-9ページの講読と討論</p> <p>第4回：10-16ページの講読と討論</p> <p>第5回：17-19ページの講読と討論</p> <p>第6回：20-23ページの講読と討論</p> <p>第7回：24-26ページの講読と討論</p> <p>第8回：27-30ページの講読と討論</p> <p>第9回：31-33ページの講読と討論</p> <p>第10回：34-37ページの講読と討論</p> <p>第11回：38-40ページの講読と討論</p> <p>第12回：41-44ページの講読と討論</p> <p>第13回：45-47ページの講読と討論</p> <p>第14回：48-51ページの講読と討論</p> <p>第15回：前期の授業のまとめを行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、第3回に提出するレポートの内容30%、平常点70%(担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加20%)にて評価する。											
----- 英語学英文学(演習 I)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571359059

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
Tom Stoppard, Leopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。 Leopoldstadt 52 - 54ページの講読と討論</p> <p>第2回：55 - 58ページの講読と討論</p> <p>第3回：59 - 61ページの講読と討論</p> <p>第4回：62 - 65ページの講読と討論</p> <p>第5回：66 - 68ページの講読と討論</p> <p>第6回：69 - 72ページの講読と討論</p> <p>第7回：73 - 76ページの講読と討論</p> <p>第8回：77 - 79ページの講読と討論</p> <p>第9回：80 - 83ページの講読と討論</p> <p>第10回：84 - 87ページの講読と討論</p> <p>第11回：88 - 91ページの講読と討論</p> <p>第12回：92 - 95ページの講読と討論</p> <p>第13回：96 - 99ページの講読と討論</p> <p>第14回：100 - 102ページの講読と討論。</p> <p>第15回：103 - 105ページの講読と討論。 あわせて劇全体についてのまとめと討論を行う。</p> <p>定期試験は行わない(平常点による)。</p>											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加50%）にて評価する。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

【教科書】

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』（Faber and Faber）ISBN:978-0571359059

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Hawthorneの短編小説を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：Hawthorneの短編小説を読む</p> <p>到達目標：Nathaniel Hawthorneはアメリカにおけるノヴェルのあり方を定義した作家として名高い。だが、彼の想像力が遺憾なく発揮される場合は、長編よりは短編である。ピューリタニズムの暗部から近代人の抱える孤独に至るまで、アメリカの暗闇に焦点をあてたHawthorneの短編を読むことで、アメリカ文学および文化をなるべく包括的に捉えたい。</p>											
【到達目標】											
Nathaniel Hawthorneの代表的短編小説群を読むことで、アメリカにおける小説のあり方を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: Hawthorneの生涯と小説論について</p> <p>第2回：“The Gentle Boy”を読む</p> <p>第3回：“My Kinsman, Major Molineux”を読む</p> <p>第4回：“Roger Malvin's Burial”を読む</p> <p>第5回：“Young Goodman Brown”を読む</p> <p>第6回：“Wakefield”を読む</p> <p>第7回：“The Maypole of Merry Mount”を読む</p> <p>第8回：“The Minister's Black Veil”を読む</p> <p>第9回：“The Birthmark”を読む</p> <p>第10回：“The Artist of the Beautiful”を読む</p> <p>第11回：“Rappaccini's Daughter”を読む</p> <p>第12回：“Ethan Brand”を読む</p> <p>第13回：Hawthorneに関する英語の論文を読む</p> <p>第14回：レポートワークショップ</p> <p>第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％；予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表はDaisy Millerの文章について考察するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはDaisy Millerについて考察すること。

[教科書]

Hawthorne, Nathaniel 『Young Goodman Brown and Other Tales』 (Oxford World's Classics) ISBN: 019955515X (授業中、常時参照するため、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まないと(毎回およそ20頁から30頁ほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23441 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習Ⅰ) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Joseph Heller, Catch-22を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀アメリカ文学を代表する戦争小説の傑作であり、ブラックユーモア文学の金字塔とも言える、Joseph Heller, Catch-22 (1961)を読む。英語は比較的読みやすいが、ペーパーバックで500ページを超える大部の作品なので、半期で読み切るには、毎週40ページほど読み進むことになる。</p> <p>授業は基本的に発表形式で進める。各回につき数人の担当者をあらかじめ指名し、その回に読み進む範囲について各自の視点から報告をしてもらう。それをもとに全員で議論を行い、作品理解を深める。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。</p>											
【到達目標】											
辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：第1章を読む</p> <p>第3回：第2～4章を読む</p> <p>第4回：第5～7章を読む</p> <p>第5回：第8～11章を読む</p> <p>第6回：第12～14章を読む</p> <p>第7回：第15～17章を読む</p> <p>第8回：第18～21章を読む</p> <p>第9回：第22～25章を読む</p> <p>第10回：第26～28章を読む</p> <p>第11回：第29～32章を読む</p> <p>第12回：第33～36章を読む</p> <p>第13回：第37～40章を読む</p> <p>第14回：第41～42章を読む</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 英語学英文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

Joseph Heller 『Catch-22』（Vintage）ISBN:9780099536017

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する
教室で随時指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系111

科目ナンバリング		U-LET18 43444 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習II) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「批評とは何か」についての論考を精読する									
【授業の概要・目的】											
「批評とは何か」というテーマにかかわる論考をいくつか選んで精読するこの授業の目的は英語テキストの精密な読解能力(すなわち、丹念に辞書を引き一語一語丁寧に考えながら読む力)を養成することにある。また、卒業論文を作成するための基礎的な訓練もあわせて行う。											
【到達目標】											
英文テキストの読解力を発展させ、アカデミックな論文作成の基礎を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODククション 第2回 David Mendelsohn, "A Critic's Manifesto" 第3回 David Mendelsohn, "A Critic's Manifesto" 第4回 David Mendelsohn, "A Critic's Manifesto" 第5回 Edward Mendelson, "What is the Critic's Job?" 第6回 Edward Mendelson, "What is the Critic's Job?" 第7回 Edward Mendelson, "What is the Critic's Job?" 第8回 John Simon, "Critics and Criticism" 第9回 John Simon, "Critics and Criticism" 第10回 John Simon, "Critics and Criticism" 第11回 Rebecca West, "The Duty of Harsh Criticism" 第12回 Rebecca West, "The Duty of Harsh Criticism" 第13回 Rebecca West, "The Duty of Harsh Criticism" 第14回 Rebecca West, "The Duty of Harsh Criticism" 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
後期の英語学英文学演習と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
----- 英語学英文学(演習II)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習II)(2)

[教科書]

テキストは適宜プリントで配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜14:15~15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系112

科目ナンバリング		U-LET18 43444 SJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(演習II) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		「批評とは何か」についての論考を精読する									
【授業の概要・目的】											
「批評とは何か」というテーマにかかわる論考をいくつか選んで精読するこの授業の目的は英語テキストの精密な読解能力(すなわち、丹念に辞書を引き一語一語丁寧に考えながら読む力)を養成することにある。また、卒業論文を作成するための基礎的な訓練もあわせて行う。											
【到達目標】											
英文テキストの読解力を発展させ、アカデミックな論文作成の基礎を理解する。											
【授業計画と内容】											
第1回 Nicholas Dames, "Criticism in the Twilight" 第2回 Nicholas Dames, "Criticism in the Twilight" 第3回 Nicholas Dames, "Criticism in the Twilight" 第4回 Nicholas Dames, "Criticism in the Twilight" 第5回 Adam Kirsh, "Is Everyone Qualified to Be a Critic"? 第6回 Adam Kirsh, "Is Everyone Qualified to Be a Critic"? 第7回 Adam Kirsh, "Is Everyone Qualified to Be a Critic"? 第8回 John Simon, "A Good Critic" 第9回 John Simon, "A Good Critic" 第10回 John Simon, "A Good Critic" 第11回 Randall Jarrell, "The Age of Criticism" 第12回 Randall Jarrell, "The Age of Criticism" 第13回 Randall Jarrell, "The Age of Criticism" 第14回 Randall Jarrell, "The Age of Criticism" 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
前期の英語学英文学演習と今年度中に合わせて履修するのが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
【教科書】											
テキストは適宜プリントで配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 英語学英文学(演習II)(2)へ続く -----											

英語学英文学(演習II)(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは月曜 14 : 15 ~ 15 : 15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系113

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イギリス小説精読									
【授業の概要・目的】											
Charles Dickens, "A Christmas Carol"を精読する。翻訳ではなく、原書の英語を読む面白さを知ってほしい。											
【到達目標】											
一語一語にこだわりながら、辞書を引いて丁寧に読む癖をつけ、英語による文学作品読解の基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 PP. 1-4 第3回 PP. 5-8 第4回 PP. 9-12 第5回 PP. 13-17 第6回 PP. 18-22 第7回 PP. 23-27 第8回 PP. 28-32 第9回 PP. 33-37 第10回 PP. 38-42 第11回 PP. 43-47 第12回 PP. 48-52 第13回 PP. 53-57 第14回 PP. 58-62 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはパブリック・ドメインにあるので、ネットからダウンロードできる。紙媒体を好む人はペーパーバックのテキストを各自購入すること。真剣に勉強したい人にはPenguinまたはOxford World's Classics版を薦める。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜 14:15 ~ 15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Philip Larkin, The Whitsun Weddings 講読 2									
【授業の概要・目的】											
Philip Larkin (1922-85)は、20世紀英国を代表する詩人の一人である。この詩人の最初の詩集 The Whitsun Weddings の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英国詩と詩の言語についての理解を深めることを目指す。この詩集は2019年度後期の講読でも扱っているが、本年度の講読の受講に際しては2019年度の授業を履修している必要はない。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の詩の特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 ・ Philip Larkinの詩の世界を楽しめるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者ならびに作品についての解説と、時代背景の概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩の長さや難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね1篇程度を読み進めることになる。なお、講読する詩の選択には参加者の意向も考慮に入れる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（詩の解釈50%、討論への参加50%）にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

Philip Larkin 『The Whitsun Weddings』 (Faber) ISBN:9780571326297

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は詩全体を理解したうえで暗記を試みること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系115

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アメリカ短篇を読む									
【授業の概要・目的】											
アメリカ(北米)文学を代表する作家たちの短篇小説を読む。半期で4篇ほどの作品を取り上げる予定。授業は精読(輪読)と発表形式を組み合わせる。各作品につき数回の授業を精読にあてたのち、最後の1回で作品全体についての発表とディスカッションを行う。学期末には、授業で読んだいずれかの作品について各自の視点から論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
丁寧に辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：作品 (精読1) 第3回：作品 (精読2) 第4回：作品 (発表、ディスカッション) 第5回：作品 (精読1) 第6回：作品 (精読2) 第7回：作品 (発表、ディスカッション) 第8回：作品 (精読1) 第9回：作品 (精読2) 第10回：作品 (発表、ディスカッション) 第11回：作品 (精読1) 第12回：作品 (精読2) 第13回：作品 (精読3) 第14回：作品 (発表、ディスカッション) 第15回：まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(60%)と期末レポート(40%)で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
青山南 『短編小説のアメリカ 52講』 (平凡社ライブラリー)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		The Ballad of the Sad Caféを読む									
【授業の概要・目的】											
Carson McCullers のThe Ballad of the Sad Caféを講読する。素晴らしいタイトルに引けを取らない内容を有した本作は、米国南部のゴシック小説の伝統やスモールタウンの表象など、アメリカ文学における重要な潮流やモチーフを意識的に取り入れている。本作の精読を通じて、アメリカ文学の重要な側面を包括的に学ぶ。											
【到達目標】											
The Ballad of the Sad Caféの講読を通じて、20世紀の言語芸術とアメリカ南部の歴史を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクションその1--Carson McCullersと南部ゴシック小説について											
第2回：The Ballad of the Sad Café講読1											
第3回：The Ballad of the Sad Café 講読 2											
第4回：The Ballad of the Sad Café 講読 3											
第5回：The Ballad of the Sad Café 講読 4											
第6回：The Ballad of the Sad Café 講読 5											
第7回：The Ballad of the Sad Café 講読 6											
第8回：The Ballad of the Sad Café 講読 7											
第9回：The Ballad of the Sad Café 講読 8											
第10回：The Ballad of the Sad Café 講読 9											
第11回：The Ballad of the Sad Café 講読 10											
第12回：The Ballad of the Sad Café 講読 11											
第13回：The Ballad of the Sad Café 講読 12											
第14回：The Ballad of the Sad Café 講読 13											
第15回：まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品に関するもので、20分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。予習度合いについては、毎授業冒頭にて行われる【あらすじ小テスト】によって確認される。つまり、読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[教科書]

McCullers, Carson 『The Ballad of the Sad Café: And Other Stories』 (Mariner Books) ISBN: 9780618565863 (随時参照するので、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎授業で指定されたテキストの範囲内に関する小テストを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度前期は、Spenser (1552-99)、Samuel Daniel (1562-1619)、Shakespeare (1564-1616)、Donne (1572-1631)、Milton (1608-74)、Wordsworth (1770-1850)、Shelley (1792-1822)、Keats (1795-1821)、Hopkins (1844-89)等による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

[授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23451 LJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(講読) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度後期は、Earl of Surrey (1517-47、Fulke Greville (1554-1628)、Shakespeare (1564-1616)、William Alabaster (1567-1640)、Herbert (1593-1633)、Milton (1608-74)、Wordsworth (1770-1850)、Coleridge (1772-1834)、Hopkins (1844-89)等による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- 英語学英文学(講読)(2)へ続く -----											

英語学英文学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

[授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, written assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.											
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.											
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”											
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.											
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).											
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”											
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples											
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).											
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
Review test (25%)

【教科書】

All readings will posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系120

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film “ Water, the Lifeblood of Kyoto ” (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 “ Dry Landscapes ” ; pp. 133-138 “ Tea Garden ” “ Tea Room ” .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, “ The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan ” (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, “ Machiya Townhouses ” (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film “ Traditional Skills in the Kyoto State Guest House ” (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters from textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

英語学英文学(外国語実習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA 3. Oriental translations 4. Orientalism 5. Imagism 6. Western view of Zen 7. Beat poets 8. 1960s 9. Haiku Society of America 10. British Haiku Society 11. World Haiku 12. Haiku radio 13. Haiku in other Western media 14. Internet haiku (and critiqued anthology reports) 15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports) 											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in our online class.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and posted as pdf files on the class PandA site.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. They must revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher via the class PandA page during or before the 14th week.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET18 23462 PJ36									
授業科目名 <英訳>		英語学英文学(外国語実習) English Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation and links from last semester 2. Japanese and English: linguistic differences 3. pond frog plop! 4. Lineation, translation workshop 5. Break, image contrast (cf. famous poets' work) 6. Seasons in English Haiku I: spring 7. Seasons in English Haiku II: summer 8. Seasons in English Haiku III: autumn 9. Creating an English haiku, composition workshop 10. Seasons in English Haiku IV: winter 11. Seasons in English Haiku V: all/no season 12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku 13. Haiku 'moment' and hints on researching examples 14. Rensaku, rengay and report preparation/submission 15. Haibun and report preparation/submission 											
----- 英語学英文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

英語学英文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in class.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない
Handouts will be provided by the teacher in every class.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		多文化的空間としての中西部									
【授業の概要・目的】											
<p>様々な文化が相互嵌入する空間としての中西部を描いた英語テキストを通じて、アメリカ文化の多様性、異人種間の交流の歴史を学び、そこから他者との相互交流の可能性について考察する。異文化体験について英語で討論することによって、多様な文化のあり方を実践的に理解する。異文化交流の実践の一環として、本学の留学生あるいは外国人教員を招請し、異文化に身を置くことについて、受講生も交えて英語でのパネルディスカッションを行い、異文化間コミュニケーションの理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する 											
【授業計画と内容】											
注意：順番は入れ替わる可能性があるため、必ず初回授業にて配布するシラバスを参照すること											
<p>第1回：【序論】中西部の地域的特徴をSherwood AndersonやWilla Catherなどの中西部出身の作家のテキストを通じて概括する</p> <p>第2回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part Iにおける自然とヒト</p> <p>第3回：Ernest Hemingway, “ Big Two-Hearted River ” Part IIにおける自然とヒト</p> <p>第4回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（1）</p> <p>第5回：Richard Wright, Native Sonの1930年代シカゴにおける都市と人種（2）</p> <p>第6回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（1）</p> <p>第7回：Stuart Dybek, The Coast of Chicagoのシカゴの下町文化における多様性（2）</p> <p>第8回：【異文化体験についてのパネルディスカッション】前半のまとめとして、これまで授業で学んできた知見を活かして、本学の留学生等、外国から来た人々と英語で意見交換を行う</p> <p>第9回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（1）</p> <p>第10回：James Alan McPhersonのElbow Room所収の短編における家庭と人種（2）</p> <p>第11回：Eminem主演映画『8 Mile』における貧困白人家庭とラップ・ミュージック</p> <p>第12回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（1）</p> <p>第13回：Barack Obama, Dreams from My Fatherにおける継承と移動（2）</p> <p>第14回：レポート・ワークショップ</p> <p>第15回：【総論】人種・民族・種族等、様々な社会文化的側面において多様な在り方がせめぎ合う場としての中西部を包括的に理解する</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％：予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回で取りあげる。発表は担当するテキストに関するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートは授業内で取りあげたテキストに関するものとする。

【教科書】

基本的にテキストはウェブにアップロードする
すでにネット上で読むことができるものは、その旨指示をする

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

事前にテキストを必ず読んでから授業に参加すること。内容確認のために毎回小テストを行う予定。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		翻訳実践									
【授業の概要・目的】											
異文化を理解するための根幹的な作業の一つが異なる文化を媒介する言語の翻訳である。本授業では、翻訳を通して英語圏の文化、社会、歴史に関する一般的な知識を習得すること、そして翻訳の実践とその際に生じる諸問題の考察を通じて、文化の多様性への関心と敬意を培い、文化間の交流・架橋の試みに伴う困難や意義を具体的に身をもって学ぶ。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の文化の多様性や、異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解する。 ・多様な文化的背景を持った人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。 ・英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画（各回のテーマ）</p> <p>第1回：イントロダクション～異文化理解と翻訳</p> <p>第2回：翻訳を通じた異文化との出会い～その基礎と心得、現状と課題</p> <p>第3回：コミュニケーションとしての翻訳（1）：異文化間架橋に伴う困難の諸側面を概観する</p> <p>第4回：コミュニケーションとしての翻訳（2）：英語と日本語の差異および背景となる英語圏文化と日本文化の差異のイメージをつかむ</p> <p>第5回：英語的思考と日本語的思考（1）：翻訳技術の必要性の背後にある英語圏と日本の言語文化的差異を理解する</p> <p>第6回：英語的思考と日本語的思考（2）：英語と日本語の言語構造に反映された英語圏と日本の文化的差異を理解する</p> <p>第7回：異文化テキストの同化の仕方（1）：英語と日本語の言語文化間の差異を踏まえた適切な距離の縮め方を探る</p> <p>第8回：異文化テキストの同化の仕方（2）：日本語と英語における代名詞の位置づけの違いとその言語文化的意味合いを考察する</p> <p>第9回：異文化テキストの異質性の活かし方（1）：訳語の統一等によって英語と日本語との根本的なずれ（ひいては異文化間の世界観のずれ）をあえて可視化し、そうした違和を異文化の異質性としてテキストに残すことの意義を考える</p> <p>第10回：異文化テキストの異質性の活かし方（2）：ルビ等の活用法から英語文化を日本語に同化させつつもその異質性を維持尊重するための折衷的手段を検討する</p> <p>第11回：言語と文化の差異を超えて（1）：言葉の意味に加えて音やリズムも翻訳に生かすという難題に取り組んでみることで、言語文化的越境の新たな可能性を探る</p> <p>第12回：言語と文化の差異を超えて（2）：英語の言葉遊びを日本語に置き換える方法を模索することを通じて、言語とユーモアの関係の文化間差異を検討し、その架橋の可能性を探る</p> <p>第13回：翻訳の限界と可能性（1）：感覚的表現、詩的表現等、文化的差異の深層に根差した難解な表現を安易な解釈を避けつつ日本語化してみることで、異文化との邂逅から生じる創造的可能</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

性を探る

第14回：翻訳の限界と可能性(2)：ここまでの実践を踏まえて翻訳を通じた異文化間コミュニケーションの限界と可能性について考察する

第15回：まとめとディスカッション：翻訳にまつわる諸問題について、留学生や外国人教員を交えて受講者全員でディスカッションを行う

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(60%)と期末の翻訳課題(40%)を合わせて評価する。平常点は、学期を通じた授業への貢献度を評価する。期末課題については、到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

David Bellos 『Is That a Fish in Your Ear?: The Amazing Adventure of Translation』(Penguin) ISBN: 978-0241954300

【授業外学修(予習・復習)等】

各回、こちらで指定した英文テキスト(短めのもの)を数名の担当者が翻訳した原稿を全員で検討するという形で授業を進めるので、翻訳担当の受講者には、翻訳原稿および翻訳の際に気になった点をまとめたメモを事前にメールで提出してもらおう。他の受講者も、その回のテキストを熟読して自分なりの翻訳のイメージを形作り、担当者の翻訳についての的確なコメントができるよう準備しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Donne, Songs and Sonnets研究									
【授業の概要・目的】											
初期近代イングランドを代表する詩人の一人であるJohn Donneが書いた詩の内、Songs and Sonnetsと総称される恋愛詩の数篇に解説を加えながら精読し、詩中で提示される諸問題を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・初期近代の詩の読み方を身につける。 ・John Donneの詩言語の特徴を理解し、そのリズムを身につける。 ・授業で扱う詩に描かれた当時の社会と英文学の関係を理解する。 											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション John Donne並びに授業で扱う詩の解説 第2回：The Messageの精読と解釈 第3回：The Baitの精読と解釈 第4回：The Broken Heartの精読と解釈 第5回：A Volediction Forbidding Moriningの精読と解釈 第6回：The Good Morrow / Songの精読と解釈 第7回：The Sun Risingの精読と解釈 第8回：Love's Usury / The Canonization前半の精読と解釈 第9回：The Canonization後半 / The Triple Foolの精読と解釈 第10回：The Anniversaryの精読と解釈 第11回：Love's Growthの精読と解釈 第12回：Love's Exchangeの精読と解釈 第13回：Love's Alchemyの精読と解釈 第14回：The Fleaの精読と解釈 第15回：全体のまとめ フィードバックについては授業中に指示をする。											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

中間ならびに期末レポートにより評価する(40%, 60%)。題目、体裁等詳細については授業中に指示をする。

定期試験は行わない。

[教科書]

John Donne 『John Donne ' s Poetry (Norton Critical Text)』 (W.W.Norton) ISBN:978-0393926484

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

各回に割り当てた詩については、英英辞典などを使って十分に予習をしてから授業に臨むこと。授業後は、授業中の解説を理解したうえで要点を整理し、レポート作成の準備を行うこと。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イギリスの伝記文学									
【授業の概要・目的】											
イギリス人は伝記好きな国民と言われる。たしかに書店に行くと、さまざまな人物にかんする伝記がたくさんおいてある。本講義においては、英文学史における重要な伝記作品をいくつか取り上げ、それらを具体的に検討し、文化的背景にも触れつつ、このジャンルにかかわる諸問題を考察する。											
【到達目標】											
伝記文学に関する基本的な知識を獲得するとともに、それを発展的に生かす能力を養う。また、伝記文学を批評的に読解するとは具体的に何をすることなのか、考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
Class 1 イントロダクション Class 2 Thomas More (Life of Richard III, Roper's Life of Thomas More) Class 3 Samuel Johnson (Essay on Biography) Class 4 Samuel Johnson (Life of Richard Savage) Class 5 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 6 James Boswell (Life of Samuel Johnson) Class 7 Robert Southey (Life of Nelson) Class 8 Walter Scott (Life of Napoleon Buonaparte) Class 9 John G. Lockhart (Life of Walter Scott) Class 10 Elizabeth Gaskell (Life of Charlotte Bronte) Class 11 John Forster (Life of Charles Dickens) Class 12 James A. Froude (Life of Thomas Carlyle) Class 13 Lytton Strachey (Eminent Victorians) Class 14 Virginia Woolf (“ The New Biography ” “ The Art of Biography ”) Class 15 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、学期末レポートによって評価する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

必要に応じてプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習、復習については授業中に説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜14:15~15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知文法・構文文法研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知文法、構文文法の最新の動向を把握すると共に、得られた知見を受講者各自の研究テーマへと発展的に応用させることを目的とする。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
認知言語学の代表的な学術雑誌である Cognitive Linguistics や近刊の論文集を中心とし、重要な英語論文を取り上げる。担当者が論文の概要を発表し、その内容について、全員でディスカッションを行う。											
第1回：ガイダンス 第2回：認知文法(論文1前半) 第3回：認知文法(論文1後半) 第4回：認知文法(論文2前半) 第5回：認知文法(論文2後半) 第6回：構文文法(論文1前半) 第7回：構文文法(論文1後半) 第8回：構文文法(論文2前半) 第9回：構文文法(論文2後半) 第10回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1前半) 第11回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文1後半) 第12回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2前半) 第13回：認知文法・構文文法の応用的研究(論文2後半) 第14回：全体の総活とディスカッション 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(30%)、学期末のレポート(70%)から総合的に評価する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		国際高等教育院 教授 谷口 一美			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		認知意味論研究									
【授業の概要・目的】											
この授業では、認知意味論を中心に取り扱い、メタファーやメトニミー、主観性など言語の意味拡張に関わる様々な現象を考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知言語学の理論的枠組みを理解し、言語学的研究に応用する観点を習得する。 ・ 言語事象に対する観察力を養う。 											
【授業計画と内容】											
授業では受講生の興味関心や履修状況に応じて、以下の認知言語学（特に認知意味論）の主要テーマをいくつか取り上げ、文献を講読する。それぞれ2週前後、授業を行う予定である。											
第1回：イントロダクション 第2回：認知言語学の理論的概要 第3回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化（導入） 第4回：言語学と心理学の関わり(1)：図と地の分化（考察） 第5回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性（導入） 第6回：言語学と心理学の関わり(2)：視線と主観性（考察） 第7回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー（導入） 第8回：カテゴリー化と言語(1)：プロトタイプ・カテゴリー（考察） 第9回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ（導入） 第10回：カテゴリー化と言語(2)：抽象化とスキーマ（考察） 第11回：イメージ・スキーマと言語の意味（導入） 第12回：イメージ・スキーマと言語の意味（考察） 第13回：意味の拡張：メタファーとメトニミー 第14回：文法構文と意味 第15回：フィードバック											
【履修要件】											
言語学全般、あるいは認知言語学の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート(70%)、授業への取り組みの状況(30%)から総合的に評価する。											
【教科書】											
論文のコピーまたはPDFファイルを配布する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された論文を読み、問題点を明らかにした上で授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都府立大学 文学部 教授 出口 菜摘			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Adrienne Richの第4詩集『生きるのに必要なもの』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人アドリエンヌ・リッチ（1929-2012）はハーヴァード大学ラドクリフ・カレッジ在学中の1951年、詩集『世界の変化』A Change of Worldでデビューした。初期作品のスタイルは内容面においても形式面においても抑制的な傾向がみられるが、第3詩集『義理の娘のスナップショット』（Snapshots of a Daughter-in-Law 1963）から、自身の体験を反映したものへと変化をみせる。リッチは60年代から公民権運動や反戦運動、フェミニズム運動に積極的に関わり、アカデミズムの外からメッセージを発し続けた詩人であり、文学史においては力強い声を持つ詩人と位置づけられている。しかし、第4詩集『生きるのに必要なもの』（1966）には、詩人の揺らぎやためらいが垣間見られ、リッチが独自のスタイルを形成するプロセスを示してくれる。本授業では、本詩集を通じて、彼女の作品の受容と詩人像を再考する。</p>											
【到達目標】											
<p>リッチは文学の枠を超え、フェミニズムの批評家・運動家としても重要な人物である。リッチが提示した「強制的異性愛」や「レズビアン連続体」といった概念、一人称複数“ We ”をめぐる連帯の限界と可能性をめぐる批判は、今日の問題に接続されるだろう。本授業では、リッチの作品を読むことで、読解力だけではなく、第2波フェミニズム運動の基本的事項を習得する。</p> <p>リッチの作品は彼女の思想的な枠組み（もしくは女性というジェンダーやリッチのセクシュアリティ）から論じられる傾向がある。リッチの作品の「詩的さ」というべきものが、このような批評の言説といかに連動し、テキストの意味を産出してきたか考えることで、作品と批評の相互関係についての視座を獲得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.Necessities of Life 2.In the Woods 3.The Corpse-Plant 4.The Trees 5.Like This Together 6.Breakfast in a Bowling Alley in Utica, New York 7.Two Songs 8.The Parting 9.The Stranger 10.After Dark 11.Mourning Picture 12."I Am in Danger--Sir--" 13.Halfway 14.Noon 15.フィードバック 											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%(コメントやディスカッション等)と期末レポート50%で判断する。レポートの内容については授業時に指示する。

【教科書】

使用しない
初回授業でプリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

作品を精読したうえで、テーマに関して問題意識を明確にして授業に臨むこと。また、関連する先行研究や関連資料にも目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

教員の連絡先は以下の通り。n_deguchi@kpu.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 言語文化研究科 教授 里内 克巳			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Emily Dickinsonの詩を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>アメリカの詩人Emily Dickinson(1830-86)の詩を鑑賞し、作品としての特質や、その背後にある文化的・歴史的背景を理解する。</p> <p>現在最も入手しやすいディキンソン詩の対訳本と、批評家Helen Vendlerによるアンソロジーとを併用し、英詩に親しんでいない受講生でも無理なく入っていける授業を行ないたい。まず上記2冊に共通して取り上げられている詩31編を対象に、日本語による注釈と訳、そして英語による批評的コメントを参照しつつ、受講者が1編ずつ丁寧に解説を試みる作業を授業の軸とする(1回の授業につき3~4編を扱う予定)。余裕があれば、アンソロジー所収の詩から気に入ったものを受講生が選び、発表するという形で更に読み進める。ディキンソンを扱った最近の伝記映画も鑑賞し、詩が書かれたバックグラウンドを把握することも試みる。</p>											
【到達目標】											
<p>英語で書かれた詩作品を読み、スタイルやレトリックなどの工夫について説明できる。</p> <p>作品が書かれた伝記的・歴史的な背景について説明できる。</p> <p>作品の内容や、それを読んで感じたこと・考えたことを、分かりやすく他の人に伝え、共有することができる。</p>											
【授業計画と内容】											
(暫定的なスケジュール表) 数字はジョンソン番詩集に付された番号											
第1回 インTRODクシヨN											
第2回 76, 126, 131番											
第3回 165, 214, 216番											
第4回 228, 249, 254番											
第5回 258, 280, 303番											
第6回 324, 328, 333番											
第7回 ディキンソンの生涯(映画鑑賞とディスカッション)											
第8回 338, 341, 441番											
第9回 448, 449, 465番											
第10回 501, 585, 712番											
第11回 883, 986, 1052番											
第12回 1068, 1129, 1275, 1540番											
第13回 ディキンソンの生涯(映画鑑賞とディスカッション)											
第14回 授業の振り返り											
第15回 フィードバック(学習相談・レポートへのコメントなど)											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点80点＋学期末レポート20点により評価する。

平常点とは、出欠・発表・授業参加の仕方を総合したもので、基本的に減点法で評価を行う。学期末レポートについては、授業が半分まで進んだ12月に詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライティング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。

【教科書】

亀井俊介 編 『対訳ディキンソン詩集 アメリカ詩人選(3)』（岩波文庫）ISBN: 4-00-323101-5
Helen Vendler 『Dickinson: Selected Poems and Commentaries』（Belknap Press）ISBN:0674066383

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業で扱う詩をあらかじめきちんと読み、自分なりに理解したうえで授業に臨むのが大前提となる。1回の授業につき半日程度の準備時間が必要になるので、毎週の授業外での学習計画をよく考えて立てる必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは設けられていない。授業時間外で質問・相談したいことがあれば、電子メールで連絡できる。

satouchi@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系131

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		佛教大学 文学部英米学科 准教授 メドロック 麻弥			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Vladimir Nabokov研究									
【授業の概要・目的】											
Vladimir Nabokov (1899-1977)の小説Glory(1971、ロシア語版は1932年)を精読する。一つ一つのことばと詳細を丁寧に拾い上げながら読むことによって、ナボコフ自身が本作品に見られると言う「純粹とメランコリーの絶頂」を確認することを目的とする。また、微細ないくつかの出来事、モチーフのつながりに注目しながら読み解く。											
【到達目標】											
比較的難解な散文を読み解く想像力と論理的思考力を習得する Nabokovの世界観を説明することができる 文学作品の緻密な読み方を習得する											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 1 - 4 章輪読											
第3回 5 - 8 章輪読											
第4回 9 - 12 章輪読											
第5回 13 - 16 章輪読											
第6回 17 - 20 章輪読											
第7回 21 - 24 章輪読											
第8回 25 - 28 章輪読											
第9回 29 - 32 章輪読											
第10回 33 - 36 章輪読											
第11回 37 - 40 章輪読											
第12回 41 - 44 章輪読											
第13回 45 - 48 章輪読											
第14回 残りの輪読											
第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点70点+学期末レポート30点として評価する。
平常点としては、予習の状況、授業への貢献を評価する。
レポートでは、作品の基本的な理解度や、精読を通して得られた問題点について論理的に分析しているか、といった点を評価する。

[教科書]

Vladimir Nabokov 『Glory』 (Penguin 2006) ISBN:ISBN-10 : 0141188510

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

一回の授業で3、4章ぶんの輪読をします。自分なりの日本語訳ができるように、毎回予習して授業にのぞんでください。日本語訳だけでなく、問題点、気になる点などもまとめてきてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーはありません。質問、連絡等は電子メールで受け付けます。
maya-m@bukkyo-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 吉田 恭子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		Reading Like a Writer									
【授業の概要・目的】											
この講義ではアメリカの小説家Francine Proseによる小説読書・創作論Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them (Harper Collins, 2006)を講読し、小説の精読技法と創作技法の関係性について考察する。「作家のように読む」ことは特別な技術なのか?それによって読者はどのような洞察が得られるのか考えたい。											
【到達目標】											
(1)一般読者向けの小説批評を英語で読み理解できる。 (2)小説の基本的な諸要素の機能を理解し、実際の作品分析に応用できるようになる。 (3)精読プロセスと創作プロセスの関係性について考察を試みる。											
【授業計画と内容】											
第1回 「作家のように読む」とは?精読と創作技法 第2回 One: Close Reading 第3回 Two: Words 第4回 Three: Sentences (1) 第5回 Three: Sentences (2) 第6回 Four: Paragraphs 第7回 Five: Narration 第8回 Six: Character 第9回 Seven: Dialogue (1) 第10回 Seven: Dialogue (2) 第11回 Eight: Details 第12回 Nine: Gesture 第13回 Ten: Learning from Chekhov 第14回 Eleven: Reading for Courage 第15回 期末レポートフィードバック・ふりかえり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の(1)~(3)の達成度について、授業参加20%、発表20%、期末レポート60%で評価する。発表とレポートの詳細については授業で説明する。											
【教科書】											
Francine Prose 『Reading Like a Writer: A Guide for People Who Love Books and for Those Who Want to Write Them』 (Harper Collins, 2006) ISBN:9780060777050											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業で説明する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(1)									
【授業の概要・目的】											
この講義では、古英語(Old English)の入門書として定評のある_Introduction to Old English_を手がかりに古英語文法の修得をめざす。あわせて、平易な原典テキスト(散文・韻文)の読解を行う。											
【到達目標】											
この授業では、											
<ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項(音韻・形態・語彙・統語等)を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになることを目標にする。 											
【授業計画と内容】											
第1回 英語史の復習：ゲルマン語の中の英語											
第2回 古英語の綴りと発音											
第3回 古英語の語彙											
第4回 古英語の文法(1)：名詞類の屈折											
第5回 古英語の文法(2)：動詞の屈折											
第6回 古英語の文法(3)：法											
第7回 古英語の文法(4)：語順											
第8回 古英詩の韻律											
第9回 古英詩の語彙											
第10回 古英詩の統語法											
第11回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (1)											
第12回 原典テキスト講読：The Story of Caeligdmon (2)											
第13回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (1)											
第14回 原典テキスト講読：The Dream of the Rood (2)											
第15回 まとめ											
【履修要件】											
「英語史」の概説科目を履修済みか、同時に履修することが望ましい。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『_Introduction to Old English_ 3rd ed.』 (Wiley-Blackwell) ISBN:978-0-470-65984-7

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

・授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。

・「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系134

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		三重大学 教育学部 教授 西村 秀夫			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古英語入門(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>後期の講義では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の原典テキスト（韻文）の精読を通じて、前期に学んだ基本的な古英語文法に関する知識の定着を図る ・中英語期以降の脚韻詩との比較・対照を通じて、古英語頭韻詩の言語、題材に対する理解を深める <p>ことを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>この授業では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古英語の文法にかかわる基本的な事項（音韻・形態・語彙・統語等）を学ぶだけでなく、インド ・ヨーロッパ語としての英語、ゲルマン語の一つとしての英語という視点から英語の諸特徴を考察すること ・現代英語との関連を常に意識し、現代英語に対する理解を深めること ・語形変化表とグロッサリーと想像力を駆使しながら、原典テキストを読み解けるようになること <p>を目標にする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 Beowulf (1)</p> <p>第3回 Beowulf (2)</p> <p>第4回 Beowulf (3)</p> <p>第5回 Beowulf (4)</p> <p>第6回 The Battle of Finnesburh (1)</p> <p>第7回 The Battle of Maldon (1)</p> <p>第8回 The Battle of Maldon (2)</p> <p>第9回 The Battle of Maldon (3)</p> <p>第10回 The Battle of Maldon (4)</p> <p>第11回 The Wanderer</p> <p>第12回 The Wife's Lament</p> <p>第13回 The Husband' Message</p> <p>第14回 Riddles</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>進捗状況に応じて、材料を入れ替える可能性もある。</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

「特殊講義」ではあるがテキストの精読を重視するので、受講者には入念な事前準備が求められる。

[履修要件]

「英語史」の概説を履修済みであること、または履修中であることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点およびレポートを同等の重みで評価する。評価方法も含めて、授業の進め方を第1回目に説明するので、受講を考えている人は必ず出席すること。

[教科書]

Peter S. Baker 『Introduction to Old English 3rd edition』 (Wiley-Blackwell) ISBN:9780470659847

[参考書等]

(参考書)

第1回目の授業で参考文献のリストを配布する。

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・ 受講にあたっては入念な下調べが要求される。
- ・ 授業で取り上げられた項目について英語史の概説書・研究書を参照し、理解を深めることが求められる。
- ・ 「英語」とは言っても新しい外国語を学ぶのと同じなので、むやみに欠席すると授業について行けなくなることに必至。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(前半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
第1回 題目:イントロダクション 授業の進め方の説明 Charles Dickensについて											
第2回 題目:Dickensの作品群 生涯にわたって書かれた作品群の概説と評価の変遷											
第3回 題目:Book 1 Chapter 1 作品の書き出しと執筆の背景、副題'The Parish Boy's Progress'について											
第4回 題目:Book 1 Chapter 2 作品の時代、作品のIllustrationについて											
第5回 題目:Book 1 Chapter 3~5											
第6回 題目:Book 1 Chapter 6~8											
第7回 題目:Book 1 Chapter 9~11											
第8回 題目:Book 1 Chapter 12~14											
第9回 題目:Book 1 Chapter 15~17											
第10回 題目:Book 1 Chapter 18~20											
第11回 題目:Book 1 Chapter 21~22 Book 1のまとめ											
第12回 題目:Book 2 Chapter 1~3											
第13回 題目:Book 2 Chapter 4~6											
第14回 題目:Book 2 Chapter 7~9											
第15回 題目:Book 2 Chapter 10~11 前期で読んだところまでのまとめ											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。

【成績評価の方法・観点】

平常点（各回のコメントペーパー）：40%

期末レポート：60%

【教科書】

Charles Dickens 『Oliver Twist』（Penguin, 2003）ISBN:978-0-141-43974-7（Edited by Philip Horne）

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいってください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 木島 菜菜子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『オリバー・ツイスト』を読む(後半)									
【授業の概要・目的】											
『オリバー・ツイスト』は、ディケンズの作品の中でも、映画化や新訳の出版などで日本でもよく知られている作品である。本講義では、作品執筆の背景などを考慮にいれながらテクストを丁寧に読み解き、作品の読みどころについて考えることを目的とする。											
【到達目標】											
文学作品の読解は、文法的または表面的なものだけでは不十分で、社会状況、文学伝統、作者の韜晦などを考慮にいれながら行わなければならない。本講義の到達目標は、『オリバー・ツイスト』を例にこのような読みを試みることで、基本的かつ応用のきく作品読解の力を養うことである。											
【授業計画と内容】											
第1回 題目:Book 1とBook 2 Chapter 11までの総括 作品のこれまでの読みどころについて、総括的に考察する。 第2回 題目:Dickensの時代 19世紀イギリスの社会背景を講義する。 第3回 題目:Book 2 Chapter 12~14 Book 2のまとめ 第4回 題目:Book 3 Chapter 1~3 第5回 題目:Book 3 Chapter 4~6 第6回 題目:Book 3 Chapter 7~9 第7回 題目:Book 3 Chapter 10~12 第8回 題目:Book 3 Chapter 13~15 第9回 題目:Book 3のまとめ、 Book 1 Chapter 17 "streaky, well-cured bacon"について 第10回 題目:ディケンズと都市 第11回 題目:ディケンズと犯罪 第12回 題目:先行する作品論の検証(1) 第13回 題目:先行する作品論の検証(2) 第14回 題目:先行する作品論の検証(3) 第15回 題目:フィードバック											
【履修要件】											
特になし。英語で小説を読むことが好きな学生の受講を希望する。											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（各回のコメントペーパー）：40%
期末レポート：60%

[教科書]

Charles Dickens 『Oliver Twist』 (Penguin, 2003) ISBN:978-0-141-43974-7 (Edited by Philip Horne)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ授業で進む範囲に目を通しておいてください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は原則として日本語でおこなう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系137

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Elementary Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
This course is designed to assist students who wish to refine their English writing skills, and particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.											
【到達目標】											
This class's primary goal is improvement of skills related to academic writing. At the completion of the class, students who have successfully understood, practiced and mastered these skills will be able to formulate and organize their ideas for an essay, work through successive drafts or versions of the essay, engage in self- and peer-editing, and to revise their writing through these stages.											
【授業計画と内容】											
Each meeting of the class will be a continuation of the previous one, meaning that regular attendance is necessary in order not to fall behind.											
There will be weekly homework which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook and other times being editing of students' writing.											
In some cases, this will be followed by instruction in rhetorical language or grammar related to specific types of essay writing.											
The semester will be almost equally divided into three study units: moving from paragraph to short essay writing, descriptive essays, and finally narrative essays.											
Week 1 - Introduction to the class, goals of Academic Writing, textbook overview, introduction to the first unit, moving from paragraph to short essay.											
Week 2 - Focus on topic sentences, simple and compound sentences, paragraph structure.											
Week 3 - Focus on controlling ideas, use of dependent clauses, avoiding run-on sentences.											
Week 4 - Developing unity and coherence, supporting sentences and patterns of organization.											
Week 5 - Organization of a short essay, thesis statements, body paragraphs and conclusions.											
Week 6 - Begin Unit 2 - Descriptive Essays - focus on essay organization, freewriting exercise, brainstorming ideas and vocabulary for a descriptive essay.											
Week 7 - Use of idea bubbles (or word webs) to make an outline before beginning to write an essay.											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 8 - Use of details and similes in descriptive essays, adjective order, writing a first draft.

Week 9 - Peer editing the first draft, editing and re-writing the second draft.

Week 10 - Descriptive Essay Timed Writing exercise on a theme assigned by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 3 - Narrative Essays - Reading and discussing examples of a short narrative essay, freewriting, brainstorming ideas and vocabulary for a narrative essay.

Week 12 - More examples of short narrative essays, outlining your own essay, focus on sequence markers, subordinating conjunctions.

Week 13 - Adding details, writing a first draft, incorporation of peer editing, use of past continuous verbs.

Week 14 - Editing the first draft, incorporation of peer editing comments, re-writing the second draft.

Week 15 - Narrative Essay Timed Writing exercise on a theme given by the instructor.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

There are no examinations as this is a writing class.

Evaluation will be decided in the following way:

Attendance 26%(2% per class with two absences allowed. Bonus points awarded for perfect attendance)

Homework in the textbook 26%

Completed essays 48%

【教科書】

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay (Second Edition)』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-432347-5 (Having a textbook is required)

Students should bring the textbook to the first class as we will begin it from that first session.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修 (予習・復習) 等】

Weekly homework will be assigned and checked for completion the following week.

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Karin L. Swanson			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Advanced Academic Writing in the Humanities									
【授業の概要・目的】											
<p>This course is designed to assist students who wish to further refine their English writing skills, and particularly those skills needed to compose advanced-level academic papers and to create polished essays such as those characteristic of literary criticism.</p>											
【到達目標】											
<p>The class's primary goal remains, as in the first semester, an improvement of skills related to academic writing.</p> <p>Building on the foundation built during the spring term, students will continue to structure, compose and refine essays from conceptual to finished stages.</p> <p>At the completion of the course, students will have increased the varieties of essays they have written, which will give them not only expertise, but confidence to go on to longer essays. They will be able to more independently formulate longer essays from start to completion, and will have increased their critical thinking.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Each meeting of the class will be a continuation of the previous week's, making regular attendance necessary in order not to fall behind.</p> <p>There will be weekly homework, which will be checked at the beginning of the class, sometimes being from the textbook, other times editing of students' writing.</p> <p>In some cases, this will be followed by introduction of rhetorical language or grammar presentations related to specific types of essays.</p> <p>The class will be divided into three study units, focusing on three types of essays: Opinion, Compare and Contrast, and Cause and Effect.</p> <p>Week 1 - Introduction to new students, begin Unit 4, Compare and Contrast Essays, reading an example and discussion of the topic, freewriting exercise.</p> <p>Week 2 - Brainstorming ideas and relevant vocabulary for a Compare and Contrast essay, identifying audience and purpose, use of a Venn diagram as an outlining tool, writing an outline.</p> <p>Week 3 - Reading examples of compare and contrast essays, examining the structure, focusing on connectors in sentences, writing a first draft and peer editing.</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

Week 4 - Use of comparative adjectives, adverbs and nouns and their use, editing the first draft and re-writing a second draft.

Week 5 - Review of key language and grammar points of unit 4, compare and contrast timed writing exercise on a theme given by the instructor.

Week 6 - Begin Unit 5 - Opinion Essays - Reading and discussion of an opinion essay example, freewriting exercise.

Week 7 - Brainstorming ideas, vocabulary and identifying audience and purpose of the essay, organization, structure and writing the outline, reading two more short examples.

Week 8 - Using facts to support an opinion, differentiating facts from opinions, recognizing counter-arguments and refutations, writing a first draft and peer editing.

Week 9 - Using quantity expressions effectively in supporting your opinion, connectors showing support and opposition, self-editing the first draft and re-writing.

Week 10 - Review of key language and grammar points of Unit 5, opinion essay timed writing exercise on a theme given by the instructor.

Week 11 - Begin Unit 6 - Cause and Effect Essays - Reading an example, discussing a cause and effect situation, brainstorming ideas and appropriate vocabulary identifying an audience and purpose of the essay, freewriting exercise.

Week 12 - Cause and Effect essay organization, an effective example, skillful use of examples to support ideas and writing an outline for the essay.

Week 13 - Examining the organization of a well-done cause and effect essay, using phrasal verbs, writing and peer editing a first draft, review of future tense verbs used in cause and effect essays.

Week 14 - Use of conditionals, editing the first draft and re-writing, review of focus language and grammar points of unit 6.

Week 15 - Timed writing on a cause and effect theme given by the instructor.

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

There are no examinations for this writing class.

Evaluation will be determined as follows:

Attendance 26% (2% per class with two absences allowed; bonus points awarded for perfect attendance)

Homework in the textbook 26%

Completed Essays 48%

アメリカ文学(特殊講義)(3)へ続く

アメリカ文学(特殊講義)(3)

[教科書]

A. Savage & P. Mayer 『Effective Academic Writing 2: The Short Essay (Second Edition)』 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-432347-5 (Having a textbook is required)
Students should bring the textbook to the first class as well as always bringing a dictionary to be used when writing.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Weekly homework will be assigned and checked for completion.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系139

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 越智 博美			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		John Dos Passos, U.S.A. を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>作品解釈能力と英語読解力を向上すべく、John Dos PassosのU.S.A.三部作および関連文献の講読を行う。Dos Passosは42nd Parallel(1930), 1919(1932), Big Money(1936)の三作を1937年にU.S.A.というタイトルをつけ、最初と最後に文章を足してひとまとめにして出したが、このことによりこの3つの作品はどのような意味を持つことになるのだろうか。また一般に本作は実験的手法の組み合わせだった作品よしても知られているが、最終的にそれをどう考えるとよいだろうか。みなさんとともにこの作品を読みながら考えてみたいと思います。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられた作品を精確に読み、作家独自の視点や表現を味わうとともに、アメリカ小説の語法に関する知識を広げる。 2. 1930年代の小説の大まかな流れを理解しながら作品を位置づける。 3. 小説の背景をなすアメリカ合衆国の歴史をある程度理解しながら作品と社会の交渉の過程を考察する。 4. 最終試験（教室内でのエッセイ作成）では、作品の要諦を説明し、みずからの解釈を論理的に表現する方法を実践的に学ぶ。 											
【授業計画と内容】											
<p>1日目(1～4回)：作家と作品の背景, 文学史について、42nd Parallelの導入部について 2日目(5～7回)：42nd Parallel, 1919 3日目(8～11回)：1919m The Big Money 4日目(12-15回)：The Big Money, 最終筆記試験, みなさんの見解の発表とフィードバック。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>ディスカッションへの参加 30% 発表時のパフォーマンス 40% 最終筆記試験 30%</p>											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[教科書]

Dos Passos, John 『U.S.A.』 (The Library of America) ISBN:978-1-883011-14-7

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業までに、不明な単語を調べるなど、できるだけ内容を把握しておいてください。第一回は冒頭のU.S.A.の文章、および最初のNewsreelを読んでいくこととなります。そのあと、最初の物語章、最初のカメラ・アイ、最初の伝記章などはすべて読んでいきます。テキストを手にとっていただけではわかりませんが、15時間の授業で読み通すのは不可能ですから、部分的に取りあげながらということになるかと思えます。そうであっても実際に読んでみる経験そのものがとても大切です。のちほど特に取りあげる場所などを指定しますので、そこを注意して読んでみてください。

(その他(オフィスアワー等))

hiromy@ka2.so-net.ne.jpまでメールにてご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23531 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 南谷 奉良			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		痛み から読む英文学									
【授業の概要・目的】											
<p>情動論や感情史研究の興隆とともに近年注目されている、人文学からアプローチする主観的な情動体験としての「痛み」を中心に、英文学のテキストを再考する。「痛み」は誰の生にもありふれた、しかし言語化や数値化、共有が困難な事象である。本講義では19世紀から20世紀中盤の時間軸に書かれた、動物/女性/子供の痛みを含む物語作品やエッセイを読み、実際に人間や動物が体験している 生きている痛み を歴史と文化の中から発見しながら、「痛みと文学」の関係性を考察し、言葉の力あるいはその無力さに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>「痛み」という経験・事象は歴史的にどのように生きられ、与えられ、耐えられ、どのように理解・表現されてきたのか。「痛み」にはどのような種類があり、人間や動物が生きる上でどのような意味と役割を有しているのか。こうした問題意識を念頭に、本講義では文学テキストの読解を通じて、様々な諸力とイデオロギーによって隠され、存在を消されてしまうこともある「痛み」を発見できる観察眼を磨くに加えて、その痛みを文化的に、歴史的に考察できるようになることを目的とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 人文学における痛み論の展開 第3回 文学と痛みについて－文献紹介・ディスカッション 第4回 Anna Sewell, Black Beauty: The Autobiography of a Horse 第5回 Margaret Marshall Saunders, Beautiful Joe: A Dog's Own Story 第6回 George Orwell, "Shooting an Elephant" 第7回 Ernest Hemingway, "An African Story" 第8回 Ernest Hemingway, "Indian Camp" 第9回 Samuel Warren, "Cancer" 第10回 Virginia Woolf, "On Being Ill" 第11回 James Joyce, "An Encounter" 第12回 James Joyce, A Portrait of the Artist as a Young Man 第13回 James Joyce, A Portrait of the Artist as a Young Man 第14回 George Orwell, Such, Such Were the Joys 第15回 まとめ+質疑応答</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

リアクションペーパーと授業参加度（30％）＋レポート（70％）で総合的に評価する。

[教科書]

テキストはPandAにアップする。「痛み」を描いた章や該当部分を事前に読んでおくこと。

[参考書等]

（参考書）

デイヴィッド・B・モリス 『痛みの文化史』（紀伊國屋書店、1998年）

伊東剛史、後藤はる美（編著） 『痛みと感情のイギリス史』（東京外国語大学出版会、2017年）

特集 『痛むカラダ 当事者研究最前線』（現代思想2011年8月号、青土社、2011年）

E.ヘミングウェイ、W.S.モームほか 『病短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2016年）

W.C.ウィリアムズ、F.S. フィッツジェラルドほか 『医療短編小説集』（石塚久郎監訳、平凡社、2020年）

Elaine Scarry 『The Body in Pain: The Making and Unmaking of the World』（Oxford UP, 1985）

David Biro 『Listening to Pain: Finding Words, Compassion, and Relief』（W. W. Norton, 2011）

Joanna Bourke 『The Story of Pain: From Prayer to Painkillers』（Oxford UP, 2014）

[授業外学修（予習・復習）等]

レポートの課題は「痛みと文学」を予定し、履修者の関心に応じた論を立ててもらうため、あらかじめ身の回りに存在する「痛み」に関心を持ち、文献の収集を行なっておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系141

科目ナンバリング	U-LET19 23531 LJ36										
授業科目名 <英訳>	アメリカ文学(特殊講義) American Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 教授 家入 葉子					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	英語のwriting systemとその歴史										
[授業の概要・目的]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemに収録された論考を読みながら、英語の綴り字やパンクチュエーション等のwriting system全般について、その歴史や現在の姿を学びます。											
[到達目標]											
英語の綴り字やパンクチュエーションが確立するまでにどのような歴史があったかを学び、これを踏まえて現代英語における様々なヴァリエーションへの理解を深めることを目標とします。											
[授業計画と内容]											
授業計画と内容 1回目 イントロダクション 2回目～15回目 以下の作業の組み合わせによって進めていきます。 ・指定した教科書の講読 ・参考図書、関連する論文の講読 ・テーマごとに1名以上からなるグループによるプレゼンテーション											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
プレゼンテーションおよび授業への貢献度(70%)、簡易なレポート(30%)によって評価を行います。											
[教科書]											
Vivian Cook & Des Ryan (編) のThe Routledge Handbook of the English Writing Systemは、図書館のものを使用します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://iyeyri.com/ (このURLを定期的にチェックしてください。)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
プレゼンテーションは集中講義期間内に、レポートは授業終了後に提出することになります。プレゼンテーションの準備を短時間で行うことが必要になりますので、期間中はできるだけ集中して授業の準備をする時間を確保するようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
必要な場合は、 https://iyeyri.com/contact からご連絡ください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Hawthorneの短編小説を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：Hawthorneの短編小説を読む</p> <p>到達目標：Nathaniel Hawthorneはアメリカにおけるノヴェルのあり方を定義した作家として名高い。だが、彼の想像力が遺憾なく発揮される場合は、長編よりは短編である。ピューリタニズムの暗部から近代人の抱える孤独に至るまで、アメリカの暗闇に焦点をあてたHawthorneの短編を読むことで、アメリカ文学および文化をなるべく包括的に捉えたい。</p>											
【到達目標】											
Nathaniel Hawthorneの代表的短編小説群を読むことで、アメリカにおける小説のあり方を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：Introduction: Hawthorneの生涯と小説論について</p> <p>第2回：“The Gentle Boy”を読む</p> <p>第3回：“My Kinsman, Major Molineux”を読む</p> <p>第4回：“Roger Malvin's Burial”を読む</p> <p>第5回：“Young Goodman Brown”を読む</p> <p>第6回：“Wakefield”を読む</p> <p>第7回：“The Maypole of Merry Mount”を読む</p> <p>第8回：“The Minister's Black Veil”を読む</p> <p>第9回：“The Birthmark”を読む</p> <p>第10回：“The Artist of the Beautiful”を読む</p> <p>第11回：“Rappaccini's Daughter”を読む</p> <p>第12回：“Ethan Brand”を読む</p> <p>第13回：Hawthorneに関する英語の論文を読む</p> <p>第14回：レポートワークショップ</p> <p>第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回のコメントシートの記入（20％）・発表（40％；予定回数は2回）・期末レポート（40％）にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表はDaisy Millerの文章について考察するもので、20分から30分ほどの長さとする（残り時間は参加者全員によるディスカッション）。期末レポートはDaisy Millerについて考察すること。

[教科書]

Hawthorne, Nathaniel 『Young Goodman Brown and Other Tales』 (Oxford World's Classics) ISBN: 019955515X (授業中、常時参照するため、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

本授業はディスカッション主体の授業である。扱う作品を読まないと(毎回およそ20頁から30頁ほどの分量)、何も言えずに終わってしまうので、必ず読んでくること。発表やレポートの形式については初回授業で説明する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Joseph Heller, Catch-22を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>20世紀アメリカ文学を代表する戦争小説の傑作であり、ブラックユーモア文学の金字塔とも言える、Joseph Heller, Catch-22 (1961)を読む。英語は比較的読みやすいが、ペーパーバックで500ページを超える大部の作品なので、半期で読み切るには、毎週40ページほど読み進むことになる。</p> <p>授業は基本的に発表形式を進める。各回につき数人の担当者をあらかじめ指名し、その回に読み進む範囲について各自の視点から報告をしてもらう。それをもとに全員で議論を行い、作品理解を深める。学期末には、テーマを絞って作品を論じるレポートを提出してもらう。</p>											
【到達目標】											
辞書等を活用しつつ文学作品を妥協なく読み解く姿勢を養うこと、英語読解の精度を高めることを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：第1章を読む</p> <p>第3回：第2～4章を読む</p> <p>第4回：第5～7章を読む</p> <p>第5回：第8～11章を読む</p> <p>第6回：第12～14章を読む</p> <p>第7回：第15～17章を読む</p> <p>第8回：第18～21章を読む</p> <p>第9回：第22～25章を読む</p> <p>第10回：第26～28章を読む</p> <p>第11回：第29～32章を読む</p> <p>第12回：第33～36章を読む</p> <p>第13回：第37～40章を読む</p> <p>第14回：第41～42章を読む</p> <p>第15回：フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

到達目標の達成度に基づき、平常点（60％）と期末レポート（40％）で評価する。

[教科書]

Joseph Heller 『Catch-22』（Vintage）ISBN:9780099536017

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する
教室で随時指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の授業で読み進む範囲の綿密な予習は全員必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系144

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		社会言語学入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、そのテーマについて授業中に議論を行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Suzanne RomaineのLanguage in Society: An Introduction to Sociolinguisticsを講読し、言語を社会という視点から観察する力を養うとともに、両者のかかわりについての理解を深めることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション 第2回： 英語と方言 第3回： 世界における英語の役割 第4回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論 第5回： 方言研究の手法と社会言語学 第6回： 英語のスタイル 第7回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論 第8回： 言語変化が意味するもの 第9回： 言語変化と社会的要因 第10回： 言語接触全般 第11回： ピジン・クレオール・コード切り換え 第12回： 社会言語学と言語理論 第13回： 言語のコミュニティーとネットワーク 第14回： 言語計画 第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への貢献度（40％）およびレポート（60％）によって評価を行います。

[教科書]

Suzanne Romaine 『Language in Society: An Introduction to Sociolinguistics』（OUP）ISBN:0198731922

[参考書等]

（参考書）

Sali Tagliamonte 『Analysing Sociolinguistic Variation』（CUP）

（関連URL）

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書の予習（全員）及び、論文の講読（担当者）をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

（その他（オフィスアワー等））

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 家入 葉子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中英語入門									
【授業の概要・目的】											
教科書を講読するほか、関連の論文を紹介する口頭発表を行います。また、中英語テキストを題材に英語の文法に関する小規模な文献調査を各自が行い、学期末にはレポートを作成します。											
【到達目標】											
Mankindの講読を通じて中英語についての理解を深めます。また、中英語と現代英語の違いに着目し、言語を変化の視点から観察できる能力を身につけることを目標とします。											
【授業計画と内容】											
第1回： イントロダクション、データベース利用の方法											
第2回： 中英語の発音および基本的な文法事項											
第3回： Mankindの講読および初期印刷本の特徴											
第4回： Mankindの講読および中英語の綴り字											
第5回： 文法についてのプロジェクトの構想発表と議論											
第6回： Mankindの講読および中英語の語順											
第7回： Mankindの講読および中英語の名詞・形容詞											
第8回： Mankindの講読および中英語の代名詞全般											
第9回： Mankindの講読および中英語の語彙											
第10回： 文法についてのプロジェクトの中間発表と議論											
第11回： Mankindの講読および中英語の前置詞											
第12回： Mankindの講読および中英語の副詞											
第13回： Mankindの講読および中英語の助動詞											
第14回： Mankindの講読および中英語の動詞											
第15回： 文法についてのプロジェクトの報告と議論、および総括											
授業は上記のように回ごとに異なるテーマを取り上げる予定ですが、進行状況により、予定が多少変更になることがあります。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への貢献度（40%）およびレポート（60%）によって評価を行います。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

Norman Davis 『Chaucer Glossary』 (Oxford University Press)

(関連URL)

<https://iyeiri.com/>(このURLを定期的にチェックしてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の予習(全員)及び、論文の講読(担当者)をお願いします。レポートは授業終了後に提出することになりますが、その作成方法については、授業中に繰返し議論します。

(その他(オフィスアワー等))

必要な場合は、<https://iyeiri.com/contact>からご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系146

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習A									
【授業の概要・目的】											
Tom Stoppard, Leopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。あわせて第3回に提出するレポートについて説明をする。</p> <p>第2回：Leopoldstadt 3-5ページの講読と討論</p> <p>第3回：6-9ページの講読と討論</p> <p>第4回：10-16ページの講読と討論</p> <p>第5回：17-19ページの講読と討論</p> <p>第6回：20-23ページの講読と討論</p> <p>第7回：24-26ページの講読と討論</p> <p>第8回：27-30ページの講読と討論</p> <p>第9回：31-33ページの講読と討論</p> <p>第10回：34-37ページの講読と討論</p> <p>第11回：38-40ページの講読と討論</p> <p>第12回：41-44ページの講読と討論</p> <p>第13回：45-47ページの講読と討論</p> <p>第14回：48-51ページの講読と討論</p> <p>第15回：前期の授業のまとめを行う。</p> <p>定期試験は行わない(レポートならびに平常点による)。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、第3回に提出するレポートの内容30%、平常点70%(担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加20%)にて評価する。											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

上記レポートの提出が単位取得の条件となる。提出しない者には単位は与えられないので注意すること。レポートの詳細については第1回に指示をする。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

[教科書]

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』 (Faber and Faber) ISBN:978-0571359059

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23541 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習Ⅰ) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		21世紀英国演劇演習B									
【授業の概要・目的】											
Tom Stoppard, Leopoldstadtの精読を通じて、英語による演劇について基本的な知識を得ると共に、現代の戯曲を自力で読めるようになる。あわせて、劇の舞台となっている時代についての知識を得る。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 英語の戯曲を読むことが出来るようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション 作者ならびに作品についての解説ならびに、今後の演習の進め方についての説明。 Leopoldstadt 52 - 54ページの講読と討論</p> <p>第2回：55 - 58ページの講読と討論</p> <p>第3回：59 - 61ページの講読と討論</p> <p>第4回：62 - 65ページの講読と討論</p> <p>第5回：66 - 68ページの講読と討論</p> <p>第6回：69 - 72ページの講読と討論</p> <p>第7回：73 - 76ページの講読と討論</p> <p>第8回：77 - 79ページの講読と討論</p> <p>第9回：80 - 83ページの講読と討論</p> <p>第10回：84 - 87ページの講読と討論</p> <p>第11回：88 - 91ページの講読と討論</p> <p>第12回：92 - 95ページの講読と討論</p> <p>第13回：96 - 99ページの講読と討論</p> <p>第14回：100 - 102ページの講読と討論。</p> <p>第15回：103 - 105ページの講読と討論。 あわせて劇全体についてのまとめと討論を行う。</p> <p>定期試験は行わない(平常点による)。</p>											
----- アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(演習Ⅰ)(2)

【履修要件】

原則として前期の演習Aの受講者を対象とするが、後期からの受講も認める。後期からの受講希望者は初回に担当者に申し出て指示を受けること。

【成績評価の方法・観点】

到達目標の達成度に基づき、平常点（担当箇所の解釈50%ならびに討論への参加50%）にて評価する。

正当な理由のない欠席を2度した場合、以後の出席は認めない。遅刻は欠席とみなす。

【教科書】

Tom Stoppard 『Leopoldstadt』（Faber and Faber）ISBN:978-0571359059

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・辞書を丹念に引きながら、テキストの解釈をした上で授業に臨む。
- ・気に入った台詞を暗誦してみる

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系148

科目ナンバリング		U-LET19 43544 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習II) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカの短篇小説を読む									
[授業の概要・目的]											
アメリカの現代作家Joyce Carol Oatesが編んだアメリカ短篇小説のアンソロジーを読む。20世紀前半までのアメリカ文学の全体的なパースペクティブを獲得するのが授業の主な目的である。なお、卒業論文作成のための指導も同時に行う。											
[到達目標]											
文学テキストを緻密に読み解く力を養うこと。20世紀前半までのアメリカ文学の全体像を掴み直すこと。卒業論文の作成を着実に進めること。											
[授業計画と内容]											
授業においては、Joyce Carol Oatesが編集したアンソロジーをテキストとして、毎週1篇の短篇小説を読む。授業の形式としては、あらかじめ発表当番を決めておき、その当番の報告という形を取る。スケジュールは以下の通り。 第1回 イン트로ダクション 第2～14回 短篇講読 第15回 フィードバック これと並行して、卒業論文作成のための指導を適宜行う。											
[履修要件]											
アメリカ文学専修4回生のみ受講可能。											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標に基づき、平常点100%で評価する。											
[教科書]											
Joyce Carol Oates (ed.) 『The Oxford Book of American Short Stories, 2nd Ed.』 (Oxford UP) ISBN:978-0199744398											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で扱う作品について綿密な予習をしたうえで授業に臨むこと。同時に、卒業論文の作成に向けて計画的に努力すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
卒業論文ドラフトについての面接指導の曜日・時間については、受講生と相談の上決定する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系149

科目ナンバリング		U-LET19 43544 SJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(演習II) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカの短篇小説を読む									
[授業の概要・目的]											
前期の演習IIに引き続いて、アメリカの現代作家Joyce Carol Oatesが編んだアメリカ短篇小説のアンソロジーを読む。20世紀後半におけるアメリカ文学の全体的なパースペクティブを獲得するのが授業の主な目的である。なお、卒業論文作成のための指導も同時に行う。											
[到達目標]											
文学テキストを緻密に読み解く力を養うこと。20世紀後半のアメリカ文学の全体像を掴み直すこと。卒業論文の作成を着実に進めること。											
[授業計画と内容]											
授業においては、Joyce Carol Oatesが編集したアンソロジーをテキストとして、毎週1篇の短篇小説を読む。スケジュールは以下の通り。 第1回 イントロダクション 第2～14回 短篇講読 第15回 フィードバック これと並行して、卒業論文作成のための指導を適宜行う。											
[履修要件]											
アメリカ文学専修4回生のみ受講可能。											
[成績評価の方法・観点]											
上記の到達目標に基づき、平常点100%で評価する。											
[教科書]											
Joyce Carol Oates (ed.) 『The Oxford Book of American Short Stories, 2nd Ed.』 (Oxford UP) ISBN:978-0199744398											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
各回の授業で扱う作品について綿密な予習をしたうえで授業に臨むこと。同時に、卒業論文の作成に向けて計画的に努力すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
卒業論文ドラフトについての面接指導の曜日・時間については、受講生と相談の上決定する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系150

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 森 慎一郎			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		アメリカ短篇を読む									
【授業の概要・目的】											
アメリカ(北米)文学を代表する作家たちの短篇小説を読む。半期で4篇ほどの作品を取り上げる予定。授業は精読(輪読)と発表形式を組み合わせる。各作品につき数回の授業を精読にあてたのち、最後の1回で作品全体についての発表とディスカッションを行う。学期末には、授業で読んだいずれかの作品について各自の視点から論じるレポートを提出してもらう。											
【到達目標】											
丁寧な辞書を引きながら一語一句にこだわって文学作品を読む姿勢を身につけ、英語小説読解の基礎力を養うことを目標とする。加えて、小説を通じて英語圏の文化への理解を深め、文学的な英語表現の機微に親しむことも本授業の目標となる。											
【授業計画と内容】											
授業計画 第1回: イントロダクション 第2回: 作品 (精読1) 第3回: 作品 (精読2) 第4回: 作品 (発表、ディスカッション) 第5回: 作品 (精読1) 第6回: 作品 (精読2) 第7回: 作品 (発表、ディスカッション) 第8回: 作品 (精読1) 第9回: 作品 (精読2) 第10回: 作品 (発表、ディスカッション) 第11回: 作品 (精読1) 第12回: 作品 (精読2) 第13回: 作品 (精読3) 第14回: 作品 (発表、ディスカッション) 第15回: まとめとフィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点(60%)と期末レポート(40%)で評価する。											
【教科書】											
プリントを配布する。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)

青山南 『短編小説のアメリカ 52講』 (平凡社ライブラリー)

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の授業で読むテキストの綿密な予習は必須。丁寧に辞書を引き、気になる箇所については徹底的に考えたうえで授業に臨むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 小林 久美子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		The Ballad of the Sad Caféを読む									
【授業の概要・目的】											
Carson McCullers のThe Ballad of the Sad Caféを講読する。素晴らしいタイトルに引けを取らない内容を有した本作は、米国南部のゴシック小説の伝統やスモールタウンの表象など、アメリカ文学における重要な潮流やモチーフを意識的に取り入れている。本作の精読を通じて、アメリカ文学の重要な側面を包括的に学ぶ。											
【到達目標】											
The Ballad of the Sad Caféの講読を通じて、20世紀の言語芸術とアメリカ南部の歴史を学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクションその1--Carson McCullersと南部ゴシック小説について											
第2回：The Ballad of the Sad Café講読1											
第3回：The Ballad of the Sad Café 講読 2											
第4回：The Ballad of the Sad Café 講読 3											
第5回：The Ballad of the Sad Café 講読 4											
第6回：The Ballad of the Sad Café 講読 5											
第7回：The Ballad of the Sad Café 講読 6											
第8回：The Ballad of the Sad Café 講読 7											
第9回：The Ballad of the Sad Café 講読 8											
第10回：The Ballad of the Sad Café 講読 9											
第11回：The Ballad of the Sad Café 講読 10											
第12回：The Ballad of the Sad Café 講読 11											
第13回：The Ballad of the Sad Café 講読 12											
第14回：The Ballad of the Sad Café 講読 13											
第15回：まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
毎回のコメントシートの記入(20%)・発表(40%：予定回数は2回)・期末レポート(40%)にて評価する。優れたコメントは次回の授業で取りあげる。発表は担当作品に関するもので、20分から30分ほどの長さとする。残りの時間は参加者全員によるディスカッションに充てられる。予習度合いについては、毎授業冒頭にて行われる【あらすじ小テスト】によって確認される。つまり、読まずに授業に参加した場合、欠席扱いとなるので注意すること。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

McCullers, Carson 『The Ballad of the Sad Café: And Other Stories』 (Mariner Books) ISBN: 9780618565863 (随時参照するので、必ずこの版を入手すること)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修 (予習・復習) 等]

毎授業で指定されたテキストの範囲内に関する小テストを行うので、予習は必須である。発表とレポートの形式については授業内で詳細を説明する。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系152

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 佐々木 徹			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イギリス小説精読									
【授業の概要・目的】											
Charles Dickens, "A Christmas Carol"を精読する。翻訳ではなく、原書の英語を読む面白さを知ってほしい。											
【到達目標】											
一語一語にこだわりながら、辞書を引いて丁寧に読む癖をつけ、英語による文学作品読解の基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2回 PP. 1-4 第3回 PP. 5-8 第4回 PP. 9-12 第5回 PP. 13-17 第6回 PP. 18-22 第7回 PP. 23-27 第8回 PP. 28-32 第9回 PP. 33-37 第10回 PP. 38-42 第11回 PP. 43-47 第12回 PP. 48-52 第13回 PP. 53-57 第14回 PP. 58-62 第15回 フィードバック (研究室で授業関連の質問に答える)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点により評価する。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

テキストはパブリック・ドメインにあるので、ネットからダウンロードできる。紙媒体を好む人はペーパーバックのテキストを各自購入すること。真剣に勉強したい人にはPenguinまたはOxford World's Classics版を薦める。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の目的はあくまでも精読であるから、毎回の授業のためには徹底的に辞書を引く、入念な予習が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは月曜14:15~15:15。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系153

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 廣田 篤彦			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		Philip Larkin, The Whitsun Weddings 講読 2									
【授業の概要・目的】											
Philip Larkin (1922-85)は、20世紀英国を代表する詩人の一人である。この詩人の最初の詩集 The Whitsun Weddings の精読を通じて、英語の詩の読み方の基本を身につけるとともに英国詩と詩の言語についての理解を深めることを目指す。この詩集は2019年度後期の講読でも扱っているが、本年度の講読の受講に際しては2019年度の授業を履修している必要はない。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語の詩の特徴を理解し、自力で読めるようになる。 ・ 辞書を丹念に引きながら語の細かい意味の違いに注意を払う能力を養う。 ・ Philip Larkinの詩の世界を楽しめるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 作者ならびに作品についての解説と、時代背景の概説を行う。あわせて、今後の授業の進め方について説明する。</p> <p>第2-15回 詩の精読と内容についての討論。</p> <p>詩の長さや難易度の違いによって、また、担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことは出来ないが、毎回おおむね1篇程度を読み進めることになる。なお、講読する詩の選択には参加者の意向も考慮に入れる。</p> <p>フィードバックについては授業中に指示をする。</p>											
【履修要件】											
2-4回生を対象とした講読の授業											
【成績評価の方法・観点】											
到達目標の達成度に基づき、平常点（詩の解釈50%、討論への参加50%）にて評価する。正当な理由なく2回欠席した場合は、以後の出席を認めない。遅刻は欠席とみなす。											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[教科書]

Philip Larkin 『The Whitsun Weddings』 (Faber) ISBN:9780571326297

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予め辞書(特に英英辞典)を丹念に参照して、一語一語についてその意味を検討した上で授業に臨むこと。授業後は詩全体を理解したうえで暗記を試みることを。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系154

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度前期は、Spenser (1552-99)、Samuel Daniel (1562-1619)、Shakespeare (1564-1616)、Donne (1572-1631)、Milton (1608-74)、Wordsworth (1770-1850)、Shelley (1792-1822)、Keats (1795-1821)、Hopkins (1844-89)等による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

[授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23551 LJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(講読) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 桂山 康司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		英詩入門(異文化理解を手掛かりに)									
【授業の概要・目的】											
<p>テーマ：英詩の諸相(異文化理解を深める)</p> <p>具体的に、テキストに収められた作品、一つ一つを丹念に精読しながら英詩の表現の特質の変化を、社会背景や文化全般と関連づけて、考察すると同時に、そのプロセスを通じて異文化コミュニケーションに対する理解を深める。</p>											
【到達目標】											
<p>英詩など英文による名作を味読することを通じて、英詩など英文の特質全般(特に、リズムのもつ意味)についての基礎知識を身につけると同時に、英語という言語やその背景にある文化の多様性について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：導入。本年度後期は、Earl of Surrey (1517-47)、Fulke Greville (1554-1628)、Shakespeare (1564-1616)、William Alabaster (1567-1640)、Herbert (1593-1633)、Milton (1608-74)、Wordsworth (1770-1850)、Coleridge (1772-1834)、Hopkins (1844-89)等による多様なsonnet作品を読む。</p> <p>第2～13回：各回、以下に挙げるものから一つテーマを選び、導入的解説を行うと同時に、それを感得するのにふさわしい詩作品を1～2編紹介し味読する。取り上げるテーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化間能力(intercultural competence) ・英語特有の言語特性に由来する強勢を基盤としたリズムの特質 ・Academic Englishの特徴となる語彙が多く外来語でラテン語起源であること ・英文の構成上の特徴と論述方法の言語間における相違 ・単語の語源的由来が多文化に及ぶことが文章の味わいに与えている効果 ・言語間におけるリズムの特質の相違(特に、強勢に基づくリズムと音節数に基づくリズムの相違) ・rhymeの技法とその表現法の由来と影響 ・頭韻による技法の歴史的変遷と現代英語における位置付け ・散文と韻文との相違 ・ことわざ的表現様式の音韻的、意味論的特質 ・多様な文化や時代思潮(例えば、フランス革命の衝撃)が近代英語に及ぼした影響 ・英語史上における異文化交流の実例 ・言語表現の特質と、歴史・文化・社会の在りようとの深い結びつき <p>第14回：まとめ。加えて、場合によっては、理解度確認のための筆記試験の実施。</p> <p>第15回：フィードバックの実施。</p>											
----- アメリカ文学(講読)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

評価は、授業への参加が前提となる。筆記試験の成績（60点）に、発表を含む平常点評価（40点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に適宜プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

岡村真紀子他(編)『ソネット選集：対訳と注釈 全3巻』（英宝社）ISBN:9784269060387、9784269060395、9784269060401

小泉博一他(編)『イギリス詩を学ぶ人のために』（世界思想社）ISBN:4790707997

京都大学英語学術語彙研究グループ他『京大・学術語彙データベース基本英単語1110』（研究社）ISBN:9784327452216

[授業外学修（予習・復習）等]

とりわけ、緻密な予習が肝要であることは言うまでもない。最も重要なことは、自らの読みを、理解が不十分であるということも含めて、前もってしっかり確認、意識して授業に臨むことである。

（その他（オフィスアワー等））

最初の授業において、日本人にとっては外国語である英語によって書かれたもの（英詩を含む）を読む上で必要な基礎的事実について、異文化理解を深める観点から、解説をする予定なので、受講を希望するものは必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part I									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
1. Preserving History: Universities and Museums Kyoto University Museum Reading: Kyoto Museums Guidebook (Kyoto City Board of Education, 1992), pp. 239-240.											
2. Shinto Shrines: Yoshida Jinja Reading: John Breen and Mark Teeuwen, A New History of Shinto (Wiley&Blackwell, 2010), pp. 1-23.											
3. (a) Shinto Spring Festivals: Aoi Matsuri; (b) Discussion on Shinto in Contemporary Japan Reading: Kansai Cool, pp. 43-48; Kyoto Lives, p. 24 “ Inui Mitsutaka, Shrine Priest. ”											
4. Introduction to Buddhism: Commemorating the Life and Passing of the Buddha Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Three “ City of Buddhism ” pp. 37-59.											
5. Mt. Hiei, “ Mother Mountain of Japanese Buddhism, ” and its Circumambulating Monks Reading: Kyoto Lives, p. 64 “ Kate Connell--Mt. Hiei, Guardian Mountain. ” Assigned Viewing: “ The Monks Risking Death On An Extraordinary Journey, ” Journeyman Pictures (http://www.youtube.com/watch?v=S06oMxdt40A).											
6. Group/Individual Presentations on Sects of Buddhism and Kyoto Temples Readings: Kyoto: A Cultural History, Chapter Five “ City of Zen ” pp. 76-95; Kyoto Lives, pp. 70-71 “ Matsuyama Daiko, Deputy Chief Priest, Taizo ’ in Temple. ”											
7. Discussion on Sects of Buddhism and Kyoto Temples											
8. Zen Temples and Visual Arts: Daitokuji ’ s annual airing of its hanging-scroll paintings; Taizoin ’ s sliding screen painting project Reading: Gregory P. A. Levine, Daitokuji: The Visual Cultures of a Zen Monastery, pp. 83-87. Assigned Viewing: “ Taizoin Hojo; Fusuma-e Painting Project ” (https://www.youtube.com/watch?v=x7JEA658doc).											
9. Pure Land Faith and Monthly Markets: Chionji Reading: “ Chionji ” (handout)											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

10. "Micro Temples": discussion on temple activities and economy in contemporary Japan
Readings: Kansai Cool, pp. 189-193; Kyoto Lives, pp. 34-35 “ Kajita Shinsho, the Path to Honen-in. ”

11. Group/Individual Presentations on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter One “ City of Kanmu ” pp. 1-19.

12. Discussion on Heian-Period Historical and Literary Figures
Reading: Kyoto: A Cultural History, Chapter Two “ City of Genji ” pp. 20-36; Kyoto Lives, p. 78 “ Setouchi Jakucho--The Tale of Genji. ”

13. Summer Festivals: Gion Matsuri history and traditions
Reading: World Heritage document on “ Yamahoko, the float ceremony of the Kyoto Gion festival. ”

14. Summer Festivals: Gion Matsuri visual arts

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)
Written assignments (25%)
Class presentations (30%)
Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

Students will be assigned weekly readings (selected chapters of the textbooks and handouts) on various aspects of the cultural heritage and history of Kyoto, which will then be discussed in class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系157

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 LUDVIK, Catherine			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火1	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Kyoto's Cultural Heritage, in English Part II									
【授業の概要・目的】											
This course aims at cultivating students' general ability for reading, speaking, listening, and writing.											
【到達目標】											
Through class discussions, assignments, and presentations, this course will enhance the ability of the students to express in English their views on Kyoto's cultural heritage and its preservation.											
【授業計画と内容】											
<p>1. Kyoto's Water Culture: function and impact of water in the lives, culture, and religion of Kyoto people Reading: Kansai Cool, pp. 39-42. Assigned Viewing: Documentary Film " Water, the Lifeblood of Kyoto " (http://fod.infobase.com/p_ViewPlaylist.aspx?AssignmentID=83NZ6P).</p> <p>2. Kyoto Gardens: history, features, and aesthetics Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 91-95 " Dry Landscapes "; pp. 133-138 " Tea Garden " " Tea Room " .</p> <p>3. Kyoto Machiya Townhouses: architectural features, functions Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 164-165; Jurgenhake, Birgit, " The qualities of the Machiya: An Architectural Research of a Traditional House in Japan " (2011, http://repository.tudelft.nl/islandora/object/uuid:a9f98f2a-6be7-4693-92ad-26507e69666e?collection=research)</p> <p>4. Kyoto Machiya Townhouses: contemporary preservation measures Readings: World Monuments Fund, " Machiya Townhouses " (https://www.wmf.org/project/machiya-townhouses); Kyoto Machiya Revitalization Project (http://kyoto-machisen.jp/wmf-machiya-project/).</p> <p>5. Individual/Group Presentations on Kyoto Architecture</p> <p>6. Discussion on Kyoto Architecture</p> <p>7. Kyoto Imperial Palace: architectural features and gardens Reading: Judith Clancy, Exploring Kyoto: On Foot in the Ancient Capital (Stone Bridge Press, 2008), pp. 29-36.</p> <p>8. Kyoto State Guesthouse and traditional artisanry In-class Viewing: Documentary Film " Traditional Skills in the Kyoto State Guest House " (Kyoto Convention Bureau, 1990).</p> <p>9. Imperial Convents and Cultural Preservation: Hokyoji and Dolls</p>											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

Readings: Kansai Cool, pp. 77-81; Amamonzeki: A Hidden Heritage, Treasures of the Japanese Imperial Convents (The Sankei Shinbun, 2009), pp. 120-123; Hokyoji restoration handout.

10. Autumn Festivals: Festival of the Ages (Jidai Matsuri) and Kurama Fire Festival (Hi Matsuri)

Reading: Kyoto Lives, pp. 10-12 “ Festival of the Ages ” by John Dougill; additional handouts.

11. Kyoto Cuisine: types, features

Reading: Kyoto: A Cultural History, pp. 223-225; Donald Richie, “ A Taste of Japan, Introduction ” (Kodansha, 1993), pp. 8-12.

12. Kyoto Cuisine: aesthetics

Readings: Kansai Cool, “ The Still Point: Authenticity Within an Evolving Cuisine, ” pp. 93-105.

Assignment: Cuisine worksheet.

13. Individual/Group Presentations Based on Kyoto Lives Interviews

14. Discussion Based on Kyoto Lives Interviews

15. Course Review

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and participation in discussions (20%)

Written assignments (25%)

Class presentations (30%)

Review test (25%)

【教科書】

All readings will be posted on Panda.

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修（予習・復習）等】

Readings and discussion questions will be assigned for each class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

アメリカ文学(外国語実習)(3)へ続く

アメリカ文学(外国語実習)(3)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - 100 Years of Assimilation									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. The second wave, in the 1950's, were those written by the 'Beat' poets in the U.S.A. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the history of the genre using reading texts and examples. (In the second semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku!) Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at improving the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. Students will anthologise and critique their selection of the best American and British haiku during the first semester and present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Origins in Japan and literary ground in UK and USA 3. Oriental translations 4. Orientalism 5. Imagism 6. Western view of Zen 7. Beat poets 8. 1960s 9. Haiku Society of America 10. British Haiku Society 11. World Haiku 12. Haiku radio 13. Haiku in other Western media 14. Internet haiku (and critiqued anthology reports) 15. Future of world haiku (and critiqued anthology reports) 											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in our online class.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない

Teaching texts for each lecture (with poem examples) will be provided by the teacher and posted as pdf files on the class PandA site.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Handbook』 ISBN:0070287864

Kacian, J., Rowland, P. & Burns, A. 『Haiku in English: the First Hundred Years』 ISBN:9780393239478

Gill, Stephen Henry 『From the Cottage of Visions - Genjuan Haibun』 ISBN:9784990082291

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarize themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher via the class PandA page by or before the 14th class.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET19 23562 PJ36									
授業科目名 <英訳>		アメリカ文学(外国語実習) American Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 Stephen Gill			
配当 学年	2回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	実習	使用 言語	英語
題目		Haiku in English Literature - Characteristics									
【授業の概要・目的】											
<p>The first haiku in English were composed more than 100 years ago by poets working mainly in London and categorised as 'Orientalist' or 'Imagist'. Since the 1970's, haiku-style poetry in English has been widely published and broadcast, and some of it is very good. This semester, we will study the differences between Japanese and English haiku, analysing some of the special features of the English haiku form. We will recognize some qualities of the English language that are ideally suited to writing haiku! Lectures and discussions will be supplemented with audio, video and handouts. This course aims at cultivating the student's general proficiency at reading, speaking, listening and writing through discussion and analysis. In class, students should take occasional notes of things they consider interesting or important. Tests, if indicated, will require students to revise. Sometimes students will be encouraged to discuss and draw conclusions in small groups. During the semester, students will choose one characteristic of English haiku (e.g. punctuation, lineation, Western season words) for their special attention and, illustrating their ideas with their own researched haiku examples, present this as a report during the final two classes.</p>											
【到達目標】											
<p>Our goals include improving English ability through listening, reading, speaking and writing. In our discussions and analysis, some cultural and linguistic comparison will necessarily be made between the English-speaking world and the Japanese world, to which students should actively contribute. Also, we will hope to improve ability to read 'between the lines'. A further goal might be to reappraise the idea that 'Small is beautiful; less is more', which Japan has helped to instil in world literature. This course may also help develop seasonal consciousness.</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation and links from last semester 2. Japanese and English: linguistic differences 3. pond frog plop! 4. Lineation, translation workshop 5. Break, image contrast (cf. famous poets' work) 6. Seasons in English Haiku I: spring 7. Seasons in English Haiku II: summer 8. Seasons in English Haiku III: autumn 9. Creating an English haiku, composition workshop 10. Seasons in English Haiku IV: winter 11. Seasons in English Haiku V: all/no season 12. Humour and influence of senryu on US/UK haiku 13. Haiku 'moment' and hints on researching examples 14. Rensaku, rengay and report preparation/submission 15. Haibun and report preparation/submission 											
----- アメリカ文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

アメリカ文学(外国語実習)(2)

【履修要件】

Active participation in class.

【成績評価の方法・観点】

attendance/class contribution 50%,
tests 10%,
report (anthology/critique or analysis/examples) 40%

【教科書】

使用しない

Handouts will be provided by the teacher in every class.

【参考書等】

(参考書)

Higginson, William J. 『The Haiku Seasons』 ISBN:9781933330655

Higginson, William J. 『Haiku World』 ISBN:4770020902

Gill, Stephen Henry 『Enhaiklopedia』 ISBN:4990082222

(関連URL)

<https://hailhaiku.wordpress.com/>(The 'Icebox' is edited by the teacher and contains a list of links to all the most important English haiku sites around the world)

【授業外学修(予習・復習)等】

Occasionally, students may be expected to familiarise themselves with a short text in advance of the class. They should revise for any tests. Towards the end of the semester, they must also research and write a report to submit to the teacher during the last two classes.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系160

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コルネイユの政治悲劇を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>古代に起源を持つジャンルである悲劇は、フランスにおいては16世紀の人文主義者たちによって復活し、コルネイユ (Pierre Corneille, 1606-1684) に代表される17世紀の劇作家によって近代劇として完成される。特に古代ローマの歴史に題材をもとめたコルネイユが1640年以降に発表した一連の「ローマ悲劇」によって17世紀悲劇の大きな流れ 政治的論理と私的論理との葛藤、権力をめぐる抗争劇 が決定されたといえる。</p> <p>この授業ではコルネイユの「ローマ悲劇」の特質について、同時代のフランスの政治状況との関係をも視野に入れて考察する。</p>											
【到達目標】											
フランス17世紀悲劇の特質とその成立の背景を理解する。フランス17世紀の政治的状況と演劇作品との関連性や影響関係を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>以下のようなプランで授業を進める予定である。</p> <p>第1週 イン트로ダクション フランス17世紀の社会と演劇 第2週 コルネイユとリシュリュー 第3週 悲劇の題材としての「ローマ史」 第4～第8週 コルネイユの「ローマ悲劇」 第9～第13週 「フロンドの乱」と悲劇 - 『ニコメード』を中心に 第14週 まとめ コルネイユの「ローマ悲劇」の特質 第15週 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業での発表 (20%) および期末レポート (80%)											
【教科書】											
プリント等を配布する											
【参考書等】											
(参考書)											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱うテキストは十分に予習しておくこと。また、授業中で読むことのできなかつた部分は各自で読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系161

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les liaisons dangereuses (1782) : roman épistolaire et libertinage									
【授業の概要・目的】											
<p>Nous étudierons au cours de ce semestre un grand classique de la littérature française du XVIIIe siècle, Les Liaisons dangereuses. Quand ce roman épistolaire paraît en 1782 sous les seules initiales de Choderlos de Laclos, le succès et le scandale sont immédiats. Le roman met en scène la rivalité de deux grands libertins, le vicomte de Valmont et la marquise de Merteuil, et repose sur une construction narrative très élaborée. La fragmentation de la correspondance fait disparaître toute narration linéaire, la forme polyphonique mêle les voix des différents correspondants.</p> <p>Il s'agit d'un roman complexe, ambigu, dont l'interprétation demeure ouverte : s'agit-il d'une apologie du libertinage ? d'une défense du sentiment ? d'un plaidoyer féministe ? d'une réflexion pessimiste sur la guerre des sexes ? d'une méditation sur la décadence des idéaux hérités des Lumières ?</p> <p>Nous chercherons à répondre à ces questions en nous intéressant aux problèmes esthétiques, idéologiques et sociologiques que cette oeuvre pose. Nous aurons également l'occasion de nous interroger sur les adaptations cinématographiques du roman : Les Liaisons dangereuses 1960 de Roger Vadim (avec Jeanne Moreau et Gérard Philippe), 1959 ; Dangerous Liaisons de Stephen Frears (avec Glenn Close et John Malkovitch, 1988), ou encore Valmont de Milos Forman (1989).</p>											
【到達目標】											
<p>Ce cours permettra aux étudiants de se familiariser avec un texte majeur, tout en enrichissant leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIIe siècle. Il leur donnera également l'occasion de s'initier à différentes méthodes d'analyse et de critique littéraires.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Après une introduction générale visant à cerner les grands enjeux du roman et à les contextualiser historiquement (séances 1-6), nous procéderons à des commentaires de texte et à une réflexion sur les adaptations cinématographiques de l'oeuvre (séances 7-14).</p> <p>La semaine 15 sera dédiée à un moment d'échange (feedback)</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

【履修要件】

Ce cours est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française du XVIIIe siècle. Le cours sera dispensé intégralement en français.

【成績評価の方法・観点】

Les connaissances seront évaluées par le biais du contrôle continu (devoirs à la maison à rendre au milieu et à la fin du semestre). La note finale tiendra également compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation au cours du semestre

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Les étudiants sont invités à lire les extraits de l'exemplier qui sont commentés en classe.

(その他(オフィスアワー等))

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系162

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	フランス語
題目		Les fictions du regard étranger au XVIIIe siècle									
【授業の概要・目的】											
<p>Les voyages, réels ou imaginaires, constituent une dimension essentielle du XVIIIe siècle. La découverte des cultures étrangères donne aux écrivains l'occasion de réfléchir à leur propre société, et d'interroger le caractère relatif des points de vue, des normes ou des habitudes. Ce cours s'intéressera à un dispositif récurrent dans la littérature française du XVIIIe siècle : la fiction du regard étranger, qui permet de démystifier le champ politique, social ou religieux tout en échappant à la censure. Nous nous intéresserons plus particulièrement à deux romans épistolaires importants : Les Lettres persanes de Montesquieu (1721) et les Lettres d'une péruvienne de Mme de Graffigny (1747).</p>											
【到達目標】											
<p>Ce cours permettra aux étudiants d'enrichir leur connaissance de la littérature, de la pensée et de la culture françaises du XVIIIe siècle, tout en se familiarisant avec différentes méthodes d'analyse littéraire.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Après une introduction générale visant à cerner notre objet d'étude et à le contextualiser historiquement (séances 1-4), nous commenterons plus en détail les oeuvres de Montesquieu et de Graffigny (5-14). La semaine 15 sera dédiée à un moment d'échange (feedback)</p>											
【履修要件】											
<p>Ce cours est ouvert à tous les étudiants désireux d'approfondir leur connaissance de la culture française du XVIIIe siècle. Le cours sera dispensé intégralement en français.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Les connaissances seront évaluées par le biais du contrôle continu (devoirs à la maison à rendre au milieu et à la fin du semestre). La note finale tiendra également compte de l'assiduité des étudiants et de leur participation au cours du semestre.</p>											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

Il est recommandé de lire les Lettres persanes (en version originale ou en traduction).

[授業外学修（予習・復習）等]

Les étudiants sont invités à lire à la maison les extraits de l'exemplier qui seront commentés en classe.

（その他（オフィスアワー等））

Les étudiants sont invités à prendre directement contact avec l'enseignante pour fixer un rendez-vous.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET21 33631 LJ36											
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)					担当者所属・ 職名・氏名		未定				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語	
題目												
[授業の概要・目的]												
[到達目標]												
[授業計画と内容]												
[履修要件]												
特になし												
[成績評価の方法・観点]												
[教科書]												
[参考書等]												
(参考書)												
[授業外学修(予習・復習)等]												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

西洋文化学系164

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プルースト『ゲルマンのほう』を読む									
[授業の概要・目的]											
<p>マルセル・プルーストの小説『失われた時を求めて』第3篇『ゲルマンのほう』第一部（1920年刊行）における、主人公によるフランス陸軍駐屯地ドンシエール滞在のエピソードを取り上げる。この場面では、物語の進展に並行して、知覚、睡眠、貴族、友愛、共食、風景、戦術などの多様な主題に関する考察が深められている。授業では、この場面をその生成過程に注目しながら精読することで、文学作品と社会・歴史との関係を考察する。</p>											
[到達目標]											
<p>文学作品を、草稿資料にさかのぼったうえで、複数の歴史的文脈にしたがって読み解くことにより、文学研究に必要な批判能力を身につける。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業は以下のプランに即して進められる。 第1回～第2回 『ゲルマンのほう』の概要、ドンシエールの場面の生成過程を解説。 第3回～第14回 ドンシエールの場면을講読形式でフランス語原典により精読し、適宜プルーストの初期作品や書簡、草稿資料と照合しながら解説を加える。 第15回 総括。</p>											
[履修要件]											
フランス語文献を読む能力が必要とされる。											
[成績評価の方法・観点]											
<p>レポート（一回、100点満点、60点以上で合格） 到達目標の達成度に基づき評価するが、独自の見解が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
[教科書]											
授業中にプリント等を配布する。											
[参考書等]											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に別途指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 森本 淳生			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ステファヌ・マラルメ「詩と散文」I(2021)									
【授業の概要・目的】											
<p>今年度より、ステファヌ・マラルメの詩と散文を、今後数年間かけて一篇ずつ精読していきます。</p> <p>マラルメはフランス象徴主義の代表的な存在で、抒情的主体の表現を基本とするロマン主義の後を受けて、むしろ詩における発話主体の消滅や言語の非人称性にきわめて自覚的であった詩人でした。と同時に、『ディヴァガシオン』に収められた散文(「批評詩」)は、演劇やバレエ、見世物から穴掘りの労働者にいたるまで、同時代の社会事象に着目し、それを散文的な詩篇にまで高めたものとして知られています。詩・散文とも19世紀にとどまらず、20世紀に入ってから、ヴァレリーからサルトル、ブランショを経てデリダ、ランシエール、メイヤスト、現在にいたるまで大きな影響を与え続けています。</p> <p>詩篇についてはBertrand MarchalのLectures de Mallarméを参考書として精読します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・フランス語文法の諸項目に習熟し、それを実際の読解において使いこなせるようになる。 ・複雑な構文、豊富な語彙をもつテキストをある程度のスピードと正確さで読みこなせるようになる。 ・文章の細部の読解と全体的な理解とを有機的に結びつけ、立体的に読むことができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
第1回 インTRODクシヨN：授業の概要と進め方 第2回 Salut：詩とマルシャルの註解を読む(以下同様) 第3回 Apparition 第4回 Les Fenêtres 第5回 Las de l'amer repos... 第6回 Dom du poème 第7回 Ses purs ongles... 第8回 Une dentelle s'abolit... 第9回 中間まとめ 第10-14回 Crise de vers 第15回 まとめ											
【履修要件】											
フランス語文法の概要を習得し一定の読解力を持っていること。											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 50%、期末試験 50%

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

担当者以外も必ず予習をして授業に臨んでください。「読み合わせ」の機会は外国語の読解力を獲得するうえできわめて重要です。予習をするなかで自分なりに問題点を洗い出し、「ひとりでも読んで・調べて分かること」「ひとりでは分からないこと」を自覚できるようになることは、狭義の文学研究でも広く役に立つはずで

(その他(オフィスアワー等))

KULASISの「オフィスアワー機能」を参照。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33631 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(特殊講義) French Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 伊藤 玄吾 准教授			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		フランス16世紀文学入門									
【授業の概要・目的】											
<p>フランスの16世紀は、中世から近代へと至る過程にあって、言語的・文学的にも宗教的・思想的にも極めて大きな変革を経験した時代である。著作家たちは、この時代特有の雑多にして豊潤、そして極めて柔軟なフランス語を縦横に駆使して、多彩で豊かな作品を数多く生み出した。本講義ではそうした作品群の中から代表的なテキストを抜粋し、原典を丁寧に読み解く練習を行うとともに、それらのテキストの含む言語史的・文学史的・宗教史的・思想史的問題を論じたい。世紀前半からは、国王フランソワ1世の姉マルグリット・ド・ナヴァールの作品およびその周辺の福音主義的傾向を持つ著作家たちの作品を、中期からはリヨンの詩人たちおよびプレイヤード派の詩人たちの作品を、そして世紀後半からは日記や風刺作品、そしてバロック的な作風を持つデュ・バルタスの『聖週間』を扱う予定である。フランス文学史における16世紀文学の重要性を理解することはもちろん、より広いヨーロッパの同時代文学の文脈においてこれらの作品の持つ意義も考えたい。</p>											
【到達目標】											
<p>16世紀の代表的なフランス語作品についての知見を深め、その文学史的意義を理解するとともに、それを同時代の他のヨーロッパ文学と比較して考察することができるようになる。 現代フランス語とは異なる16世紀のフランス語の語彙と文法（とりわけ統語法）に関する基礎知識を習得するとともに、テキストをより正確に読み解く上で有用な各種参考文献の活用の仕方を学び、16世紀前期から末期までの異なる時期の、異なるジャンルの文献の読解に取り組むために必要な能力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション：フランス16世紀文学を学ぶために 第2回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 1 第3回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 2 第4回 マルグリット・ド・ナヴァールとその周辺 3 第5回 リヨンの詩人たち（セーヴ、ラベ他）1 第6回 リヨンの詩人たち（セーヴ、ラベ他）2 第7回 プレイヤード派の詩人たち 1 第8回 プレイヤード派の詩人たち 2 第9回 プレイヤード派の詩人たち 3 第10回 16世紀の日記（ピエール・ド・レトワール『アンリ三世治下の日記』） 第11回 風刺と文学『サチール・メニッペ』1 第12回 風刺と文学『サチール・メニッペ』2 第13回 デュ・バルタス『聖週間』とバロック的世界 第14回 デュ・バルタス『聖週間』とバロック的世界 第15回 これまでの授業の統括</p>											
----- フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(特殊講義) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点(40%)と学期末のレポート(60%)で、成績を評価する。
授業で学ぶテキスト読解上の基本事項を踏まえているか、またその上で自分なりの解釈を説得的に示しているかを評価する。

【教科書】

教材プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

学習対象のテキストについて予習し、あらかじめ各自が解釈についての見解を準備すること

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	U-LET21 33645 SJ36										
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	未定				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目											
[授業の概要・目的]											
[到達目標]											
[授業計画と内容]											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
[教科書]											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系168

科目ナンバリング	U-LET21 33645 SJ36										
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目	Expression, culture and society in French										
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to help students increase their conversation ability while introducing them to French contemporary society and culture.</p> <p>Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>Various documents will be used, such as articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course will address cultural, social and political issues. Each lecture will focus on a different topic.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - gain confidence and experience in public speaking - improve their argumentative skills - engage in critical thinking and debate with others - explore intercultural issues - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes, through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and one feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts or opinions, but also listening carefully to others and asking questions. The students will be evaluated through continuous assessment : this includes oral participation, interaction with the others, but also a short presentation in front of the class.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33645 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	フランス語
題目		Expression, culture and society in French									
【授業の概要・目的】											
<p>This course aims to help students increase their conversation ability while introducing them to French contemporary society and culture.</p> <p>Particular emphasis will be placed on interactional skills and class time will be spent engaging in debates and other speaking exercises.</p> <p>Various documents will be used, such as articles, radio or tv programs, documentaries, songs, etc. The course will address cultural, social and political issues. Each lecture will focus on a different topic.</p>											
【到達目標】											
<p>This course is designed to help students:</p> <ul style="list-style-type: none"> - gain confidence and experience in public speaking - improve their argumentative skills - engage in critical thinking and debate with others - explore intercultural issues - develop a deeper understanding of French contemporary society and culture 											
【授業計画と内容】											
<p>After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and exercises of the course, we will debate on various themes, through written and visual documents (weeks 2-14). This class requires active oral participation.</p> <p>Total : 14 classes and 1 feedback (week 15)</p>											
【履修要件】											
<p>The course is open to all students as soon as they can speak and understand enough French to read the documents and participate in a discussion.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>Attendance and participation are essential for this course. Students are expected to fully and actively participate by expressing their own thoughts or opinions, but also listening carefully to others and asking questions. The students will be evaluated through continuous assessment : this includes oral participation, interaction with the others, but also a short presentation in front of the class.</p>											
----- フランス語学フランス文学(演習)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are invited to read the documents before the class.

(その他(オフィスアワー等))

Please discuss any appointment with the teacher.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習I) French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、テキスト解釈法 explication de texte やコメンタリー執筆 commentaire composéを通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法やコメンタリー執筆の手順を身につけることによってフランス文学研究の基本的な技法を身につけることをめざす。											
【授業計画と内容】											
第1回	イントロダクション	テキスト解釈法 explication de texte の方法									
第2回	イントロダクション	コメンタリー執筆 commentaire composé の手順									
第3回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(1)									
第4回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(2)									
第5回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(3)									
第6回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(4)									
第7回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(5)									
第8回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(6)									
第9回	テキスト解釈法の実際	基礎的な読解力の養成(7)									
第10回	中間レポートのフィードバック										
第11回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(1)									
第12回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(2)									
第13回	コメンタリー執筆の実際	分析結果の文章化(3)									
第14回	口頭発表										
第15回	フィードバック										
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(授業での発表と課題の提出)が重視される(60%)。そのほかに、中間レポート、学期末レポート、口頭発表が課される(40%)。											
----- フランス語学フランス文学(演習I)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

平常点が重視されるので、次回授業分の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修科目である。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 33648 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習I) French Language and Literature				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Introduction à l'analyse des textes littéraires									
【授業の概要・目的】											
フランス語読解力の養成を主眼としつつ、批評的文章の和訳・要約を通じてフランス文学の研究方法の入門指導をする。 フランス語学フランス文学専修の3回生にとっては必修の授業。											
【到達目標】											
文学的テキストの分析手法を身につけること、中級程度のフランス語で書かれたフランス文学に関する研究文献を読めるようになること。											
【授業計画と内容】											
批評的文章や研究書・研究論文の読解への入門を行う。文学研究において重要となる概念や理論、あるいは文学史に関する論文を読解の対象とし、和訳や要約のプロセスを通して内容の理解を目指すとともに、アカデミックな文体のフランス語の読み方を学ぶ。卒業論文準備の過程でフランス語の研究文献を参照する際に、内容を正確に理解するための訓練ともなる。授業は以下のプランに沿って進める。											
第1回 イン트로ダクション											
第2回 文学批評テキストの抜粋を和訳(1)											
第3回 文学批評テキストの抜粋を和訳(2)											
第4回 文学批評テキストの抜粋を和訳(3)											
第5回 文学批評テキストの抜粋を和訳(4)											
第6回 文学批評テキストの抜粋を和訳(5)											
第7回 文学批評テキストの抜粋を要約(1)											
第8回 文学批評テキストの抜粋を要約(2)											
第9回 文学批評テキストの抜粋を要約(3)											
第10回 文学批評テキストの抜粋を要約(4)											
第11回 受講者による発表(1)											
第12回 受講者による発表(2)											
第13回 受講者による発表(3)											
第14回 受講者による発表(4)											
第15回 受講者による発表(5)											
【履修要件】											
中級程度のフランス語の語学力が必要。											
----- フランス語学フランス文学(演習I)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学（演習I）(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点評価

【教科書】

授業中にプリント等を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

平常点が重視されるので、次回授業分の訳読の予習を全員がすることが求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系172

科目ナンバリング		U-LET21 43647 SJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習II) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也 文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		卒業論文演習									
[授業の概要・目的]											
研究論文を読み、様々な文学批評の方法について理解を深めると同時に、卒業論文の準備として文献調査の方法や論文作成の方法を習得する。											
[到達目標]											
フランス語学フランス文学についての卒業論文を作成するための基本的方法を理解し、文献調査や論文執筆に必要な基礎力を養う。											
[授業計画と内容]											
文学理論や批評のテキストの抜粋を読むことで、抽象的なテキストの読解力を高め、同時に様々な文学批評の方法について理解を深めるとともに、文献調査の方法などを学ぶ。 第1回 授業の趣旨説明 第2回～第5回 文献調査の方法、学术论文などの講読 第6回～第10回 口頭発表 各人が卒業論文の計画を発表し、全教員と受講者で討議を行う 第11回～第15回 課題研究 発表で指摘された問題点の改善、さらなる文献調査などを行う											
[履修要件]											
本年度に卒業論文を提出する予定であること。 フランス語学フランス文学専修の4回生にとっては必修科目。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価。											
[教科書]											
プリントを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系173

科目ナンバリング		U-LET21 43647 SJ36										
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(演習II) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也	文学研究科 教授 増田 眞	文学研究科 准教授 村上 祐二		
配当 学年	4回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語	
題目		卒業論文演習										
【授業の概要・目的】												
卒業論文の中間発表を定期的に行う。その都度進捗状況に応じてテーマ、論点、参考文献などについてアドバイスを受け、自らもさらに考え直しながら、論文の完成を目指す。												
【到達目標】												
各自が自分のテーマを明確化し論点を整理した上で、実際の執筆にあたり、論文を完成する。												
【授業計画と内容】												
卒業論文執筆のための個人指導と定期的な進捗状況の発表にあてる 第1－第5週 口頭発表 各人が卒業論文の計画を発表し、全教員と受講者で討議を行う 第6－第10週 課題研究 発表で指摘された問題点の改善、さらなる文献調査などを行う 第11－第15週 執筆とブラッシュアップ 個人指導と並行して、各人がさらに詳しい発表を行い、論文完成を目指す フィードバック 卒業論文の試問を行う												
【履修要件】												
本年度に卒業論文を提出する予定であること。 卒業論文演習 を履修していること。												
【成績評価の方法・観点】												
平常点により評価する												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学修(予習・復習)等】												
授業中に指示する。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

西洋文化学系174

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 永盛 克也			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		フランス文学の古典を読む									
[授業の概要・目的]											
詩集『悪の華』で知られるフランス19世紀の詩人ボードレール (Charles Baudelaire, 1821-1867) の散文詩集『パリの憂鬱』 Le Spleen de Paris (1869) の抜粋を精読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 音読も重視しつつ、訳読を進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習と授業への積極的な参加が求められる。											
[成績評価の方法・観点]											
授業での発表 (90%) と期末課題 (10%)											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修 (予習・復習) 等]											
テキストの音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと。 (その他 (オフィスアワー等)) 授業内での積極的な質問を歓迎する。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系175

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村上 祐二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		プルースト「心情の间歇 (Les intermittences du cœur)」を読む									
[授業の概要・目的]											
フランス近代文学を代表する小説家マルセル・プルースト(1871-1922)の小説『失われた時を求めて (À la recherche du temps perdu)』(1913-1927) 第四篇『ソドムとゴモラ』第二部(1922年刊行)第一章の末尾に置かれた「心情の间歇」(Les intermittences du cœur)をフランス語原典で読む。「心情の间歇」は、前年度に取り上げた『ゲルマンのほう』における祖母の死の場面と対をなす場面であり、無意志的記憶と夢により蘇った祖母の姿が描かれる。必要に応じてプルーストの他の作品も併読する。											
[到達目標]											
フランス語文法の正確な知識を身につける。 正しい音読の仕方を身につける。 文学作品の読解の方法を身につける。											
[授業計画と内容]											
該当場面をフランス語原文で、音読も重視しつつ丁寧に読み進める。文法的な説明の他、文体の分析も行う。授業は以下のプランに沿って進める。											
第1回 イントロダクション(作者と作品の紹介。授業の進め方の説明) 第2回~第14回 「心情の间歇」(Marcel Proust, Sodome et Gomorrhe II, in À la recherche du temps perdu, Paris, Gallimard, "Bibliothèque de la Pléiade", t. III, 1988, p. 148-178)をフランス語原典で精読 第15回 総括											
[履修要件]											
受講者には丁寧な予習が求められる。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点評価											
[教科書]											
プリントを配布する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
単語の音読、構文の把握、未習の語彙・表現を辞書で調べておくこと (その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 松原 冬二			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		マルセル・シュオップ『モネルの書』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀末の作家マルセル・シュオップ (Marcel Schwob) の短篇集『モネルの書 Le Livre de Monelle』(1894年)より、「第一部：モネルの言葉」および「第三部：モネル」を講読する。1890年代初めに文壇にデビューしたシュオップは、その後15年ほどの短い作家人生の中で、新聞や雑誌に短篇作品のみを発表した、生粋の短篇作家である。短い形式のなかに該博な言語学的知識と豊かな古典的教養を凝縮させた彼の作品は、20世紀に入って多くの賛美者を生み、とりわけ本講義で取り上げる『モネルの書』は、「アナーキズムの聖書」としてアンドレ・ブルトンをはじめ、レリス、ペレ、エリュアール、エルンスト、アルトー、マンディアルグなど、シュルレアリスムを中心とする前衛的な作家・芸術家に多大な影響をもたらした。娼婦であり少女であるヒロインのモネルが、その数々の預言的な言説によって、現世のあらゆる相対的な価値を破壊しながら、語り手を永遠の子供の王国へと導いてゆくこうした黙示録風の物語が、本書に謎めいた魅力を添え、頹廢期の世紀末が生んだ奇書として、現在に至るまで多くの愛読者を生み出し続けている。本講義では、短篇小説・散文詩・コント・寓話・箴言・哲学と、あらゆる文学ジャンルにまたがる(あるいはいかなる文学ジャンルにも収まらない)この特異な作品を精読しながら、シュオップ美学の本質を読み解くとともに、その読解をとおして20世紀アヴァンギャルドの志向するアンチ文学へとつらなるこの作品の可能性や先見性について考える。</p>											
【到達目標】											
フランス語の読解能力を高める。また、新聞や雑誌の読者層を意識した比較的短いセンテンスの連続するシュオップ特有の文体を読み解くことで、フランス語の構造を深く理解する力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 作者と作品の紹介、および文学史的な位置づけと背景の解説。授業の進め方の説明。</p> <p>第2回～第14回 『モネルの書』の「第一部：モネルの言葉」および「第三部：モネル」を講読する。</p> <p>10ページほどの序文にあたる「第一部」の全文と、「第三部」より抜粋するいくつかの断章について、それぞれ担当者を決め、毎回指定された箇所の訳文を担当者が発表する。それを基に、読解に必要な文法および内容上の解説を教員が行い、テキストの解釈について議論する。</p> <p>第15回 まとめ 講読によって進めてきた全体の内容を振りかえり、この作品がもつテーマと解釈の可能性についてまとめ、シュオップ自身の美学と短篇作品の文体的な特徴について概括する。</p>											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

訳読に基づいた平常点で評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：担当者は訳文を準備すること。担当者以外も次回に進む部分を訳読し、授業に臨むこと。
復習：授業で進んだ部分の構文や表現を理解し、次回以降に生かすこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系177

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 多賀 茂			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		現代思想を原語で読む									
【授業の概要・目的】											
文体・用語法等の特徴に注目しながら思想家の文章を講読することによって、その思想の理解を一層深める。											
【到達目標】											
将来の研究のための十分な基礎となるレベルまで、フランス語の読解能力を高めることをめざす。											
【授業計画と内容】											
Lecture de quelques textes de quelques philosophes contemporains											
1. 全体の解説 2~3. ジル・ドゥルーズのテキスト 4~5. ジャック・ラカンのテキスト 6~7. ミシェル・フーコーのテキスト 8~9. ロラン・バルトのテキスト 10~11. ジャック・デリダのテキスト 12~14. その他の思想家のテキスト 15. まとめ											
【履修要件】											
フランス語の初級文法以上の知識を持っていること											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の授業での発表にもとづく平常点（70パーセント）と最終日に行う小テスト（30パーセント）を合わせて評価する。 評価の対象：将来の研究のための十分な基礎となるレベルまで、フランス語の読解能力を高めたかを、評価する。 評価方針：学生の理解力、表現力の両面から評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する											
----- フランス語学フランス文学(講読)(2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

予習：次回に進む部分を自ら訳しておくこと
復習：自分が間違ったところを、しっかり理解しておくこと

(その他(オフィスアワー等))

授業中に指示する

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET21 23651 LJ36									
授業科目名 <英訳>		フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 中筋 朋			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		19世紀パントマイム台本を読む									
【授業の概要・目的】											
フランス語での文献講読をおこなう。今年度前期は、19世紀のパントマイムの台本を読む。世紀前半の作品と後半の作品を読み比べることで、「白いピエロから黒いピエロへ」とも言われる19世紀フランスにおけるピエロのイメージの変容についての理解を深める。											
【到達目標】											
研究のために必要なフランス語の読解能力および文学作品の分析能力を高めることを目指す。											
【授業計画と内容】											
『舞台の上のピエロー19世紀フランスのパントマイム台本のアンソロジー』を輪読する。このアンソロジーには、ノディエ、ゴーティエ、フロベール、ユイスマンス、ポール・マルグリット、ラフォルグやヴェルレーヌらのパントマイム台本が掲載されている。授業では、このうちいくつかをとりあげて読解を進めていく。また同時に、19世紀のパントマイムについての解説になっている作品のイントロダクションについては、院生に概要を発表してもらう。 また、作品を読み終えた段階で、各自に作品解釈の発表をおこなってもらう。授業の最後には、19世紀前半の作品と後半の作品の比較について議論をおこなう。											
1. オリエンテーション 2. 院生による「イントロダクション」読解 3. 台本読解 4. 「作品解釈」発表と検討 5. 読み終えた台本の比較 6. まとめ											
各段階について、数回授業をおこなう。 第1回 イントロダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。途中、読解した作品の分析発表を順に担当してもらい、それについての議論をしながら読解を深めていく。											
【履修要件】											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（担当部分の訳および発表内容）によって評価する。											
【教科書】											
プリント配布											
----- フランス語学フランス文学(講読) (2)へ続く -----											

フランス語学フランス文学(講読) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

その回に読む部分について、翻訳をしてくること。
発表の担当のときには、発表の準備をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系179

科目ナンバリング	U-LET21 23651 LJ36										
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学(講読) French Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 中筋 朋				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	ローラン・ジェニーの『内面性の終焉』を読む										
[授業の概要・目的]											
フランス語での文献講読をおこなう。今年度後期は、ローラン・ジェニーの『内面性の終焉』を扱う。象徴主義からシュルレアリスムに至る系譜を論じた本書の読解を通じて、19世紀から20世紀にかけて「自己」の観念がいかに変化したかを考える。											
[到達目標]											
研究のために必要なフランス語の読解能力および分析能力を高めることを目指す。											
[授業計画と内容]											
<p>ローラン・ジェニーの『内面性の終焉』の輪読をおこなう。序章と第1章 象徴主義と思考の表現の部分を読んでいく。基本的に逐語訳をしながら読解を進めていくが、院生による要約発表で進める箇所もある。</p> <p>途中出てくる作品については、担当者を決めて発表してもらうが、特に重要な部分については、全員で出てくる作品を講読する場合もある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 作者と作品の紹介。授業の進め方の説明。 第2回～第15回 論旨の展開に注意しながら訳読を進める。本文中で扱われている具体例についても解説し、必要に応じて具体例の講読もおこないながら、ゆっくり読解を進めて行く。</p>											
[履修要件]											
フランス語の初級文法の学習を終えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（担当部分の訳および発表内容）によって評価する。											
[教科書]											
プリント配布											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
その回を読む部分を翻訳してくること。 発表を担当するときには、発表の準備をすること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系180

科目ナンバリング	U-LET21 23662 PJ36										
授業科目名 <英訳>	フランス語学フランス文学（外国語実習） French Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Raphaelle BRIN				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	実習	使用 言語	フランス語
題目	Initiation to linguistic and stylistic analyses.										
[授業の概要・目的]											
This course offers an introduction to the study of literary stylistics. Students will learn how to identify, analyze and interpret specific linguistic features in French literary texts while reinforcing their grammatical and lexical skills.											
[到達目標]											
This class is designed to help students:											
<ul style="list-style-type: none"> - use the linguistic structures which are the most appropriate to express what they intend to say - identify and analyze specific formal features in French literary texts 											
[授業計画と内容]											
After an introductory lecture (week 1) presenting the goals and the exercises of the class, we will work on various excerpts from French literary classics, and practice exercises on grammatical structures, lexical fields, stylistical, linguistical and rhetorical features (weeks 2-29). Total : 29 classes and 1 feedback (week 30)											
[履修要件]											
This course is meant for third year students who are specializing in French Literature, but every student who wants or must use French language in their research can find an interest in it.											
[成績評価の方法・観点]											
The students will be evaluated through continuous assessment : written essays, but also participation (class attendance, classroom behavior, personal work)											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
It is necessary to read the texts before the class.											
(その他（オフィスアワー等）)											
Please discuss any appointment with the teacher.											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学外国語学部 准教授 菊池 正和			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ルイジ・ピランデッロ長編小説精読									
【授業の概要・目的】											
<p>近現代イタリア文学に関する基礎的素養を身につけ、文学作品の読解・研究能力を高める目的で、今年度はルイジ・ピランデッロの『撮影技師セラフィーノ・グッビオの手記』の精読を行う。また、作品研究のために関連資料や評論の講読も並行して行う予定である。授業方法としては、毎週輪読形式で精読を進めていく。出席者は教員が配布するテキストを毎週予習したうえで授業に臨み、意見・質問を出すこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>現代の小説を正確に速く読解できるようになる。 当時の社会状況を補助線に作家の問題意識を正確に把握し、文体論と合わせて作家研究の手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の概要の説明 第2回 本講義の視座と問題意識 ヴァルター・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』について 第3回～第8回 長編小説 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” の精読（第1手記、第2手記）と内容分析 第9回 ピランデッロの複製技術芸術論 “Se il film parlante abolira' il teatro” 講読 第10回～第15回 長編小説 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” の精読（第3手記、第4手記）と内容分析</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の文法の学習は終えておくこと。 また、イタリアの近現代史の知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への参加状況（60%）と期末レポート（40%）を基に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>プリント等を配布する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

Luigi Pirandello 『Quaderni di Serafino Gubbio operatore』 (Mondadori, 2012) ISBN:978-88-04-48761-6

[授業外学修(予習・復習)等]

テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。

また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系182

科目ナンバリング	U-LET22 33731 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi										
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテ やトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。前期の授 業では、タッソの対話篇“ Il Beltramo overo de la cortesia ”を精読しながら、当時の宮廷における価 値観・道徳観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“ Il Beltramo overo de la cortesia ”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習が重要です。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確 認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系183

科目ナンバリング	U-LET22 33731 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	Torquato TassoのDialoghi										
[授業の概要・目的]											
16世紀のイタリアを代表する詩人トルクァート・タッソは、愛や美や徳や友情、あるいはアルテ やトスカーナ詩やインプレーザといったさまざまなトピックを対話形式で論じています。後期の授 業では、タッソの対話篇“ Il Gianluca overo de le maschere ”を精読しながら、当時の宮廷における価 値観・道徳観とタッソの散文の特徴を検証します。											
[到達目標]											
ルネサンス期のイタリア語散文を正確に読解する力を身につける。 16世紀のイタリア文化について理解を深める。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めていきます。											
初回：イントロダクション。											
第2回～14回：“Il Gianluca overo de le maschere”の読解と考察											
第15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、予習が重要です。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確 認します。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana. Giacomo Leopardi e il <pensiero poetante>									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di storia della letteratura italiana di quest ' anno sarà inaugurato da un modulo monografico su Giacomo Leopardi. Dopo una breve introduzione al contesto storico-culturale ottocentesco, il seminario prenderà in esame la biografia e l ' opera dell ' autore. Leggeremo e commenteremo alcuni dei più importanti "Canti", con una particolare attenzione alle fonti, antiche e moderne, della poesia leopardiana. Esamineremo inoltre passi particolarmente significativi delle "Operette morali" e dello "Zibaldone". Sarà così possibile indagare il rapporto tra poesia e filosofia, studiando uno dei grandi classici della letteratura italiana e quello che, con una felice definizione critica, è stato descritto come un <pensiero poetante>.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e le opere di uno dei maggiori poeti italiani, Giacomo Leopardi, e sapranno contestualizzarle nell ' ambito della letteratura dell ' Ottocento. Leggeranno e studieranno i "Canti", mettendo a confronto i diversi commenti editi. Conosceranno gli elementi centrali del pensiero leopardiano e della sua speculazione filosofica. Dimostreranno queste competenze con una loro presentazione orale durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Primo semestre. Storia della letteratura italiana. Giacomo Leopardi e il <pensiero poetante>.</p> <p>1: Introduzione e contesto storico-culturale.</p> <p>2-15: Giacomo Leopardi: i "Canti", le "Operette morali" e lo "Zibaldone". Analisi dei testi e presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l ' esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>G. Leopardi, "Poesie e Prose", a cura di R. Damiani e M. A. Rigoni, Milano, Mondadori, 2003. G. Leopardi, "Zibaldone di pensieri", a cura di R. Damiani, Milano, Mondadori, 2014. "Lessico leopardiano", a cura di N. Bellucci, F. D ' Intino, S. Gensini, Roma, Sapienza Università Editrice, 2014-2020 (consultabile online).</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

L. Blasucci, "Leopardi e i segnali dell ' infinito", Bologna, Il Mulino, 2001.
A. Prete, "Il pensiero poetante: saggio su Leopardi", Milano, Feltrinelli, 2006.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L ' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Istituzionale di Storia della Letteratura Italiana. Dante 2021: sulla fortuna moderna e contemporanea della "Commedia" in Italia.									
【授業の概要・目的】											
Per celebrare l' anniversario dei 700 anni dalla morte di Dante Alighieri, il secondo semestre del corso di quest' anno verterà sulla secolare fortuna del ' divino poema '. Dopo un' introduzione generale alla "Commedia", il seminario prenderà in esame alcuni dei più significativi episodi della sua ricezione, in Italia, dal Settecento a oggi. Considerando l' opera critica e letteraria di grandi autori quali Vittorio Alfieri, Ugo Foscolo, Giovanni Pascoli, Primo Levi, Pier Paolo Pasolini e analizzando numerose riprese, imitazioni, riscritture, traduzioni, sarà possibile comprendere la straordinaria potenzialità comunicativa di un testo che, classico tra i classici, " non ha mai finito di dire quel che ha da dire " .											
【到達目標】											
Gli studenti leggeranno e commenteranno alcuni dei passi più memorabili della "Commedia"; ne studieranno quindi la lunga fortuna, focalizzandosi sul modo in cui il testo è stato letto e interpretato in diversi periodi storici. Sceglieranno ed esporranno alla classe, con una loro presentazione, un particolare episodio di ricezione della "Commedia". Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.											
【授業計画と内容】											
Secondo semestre. Storia della letteratura italiana. Dante 2021: sulla fortuna moderna e contemporanea della "Commedia" in Italia.											
1: Introduzione: Dante Alighieri e la "Commedia".											
2-15: Fortuna della "Commedia". Analisi di alcuni importanti episodi di ricezione del capolavoro dantesco. Presentazioni orali preparate dagli studenti.											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.											
【教科書】											
D. Alighieri, "La Commedia", a cura di A.M. Chiavacci Leonardi, 3 voll., Milano, Mondadori, 2016. "Enciclopedia dantesca", Roma, Istituto della Enciclopedia italiana, 1970 (consultabile online).											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目		Corso Monografico di Letteratura Italiana. Poeti italiani del Novecento									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso prenderà in esame le opere di alcuni dei più importanti poeti italiani del Novecento. Dopo una contestualizzazione storica e un' introduzione sui caratteri distintivi e i modelli della poesia del XX secolo, si procederà a una lettura dei testi tratti dalla antologia mondadoriana di riferimento: "Poeti italiani del Novecento". Di ciascun autore verrà fornito un essenziale profilo biografico, preliminare all' analisi dell' opera. Verranno dunque commentati alcuni dei componimenti più significativi, con un' attenzione rivolta tanto al riconoscimento dei riferimenti culturali e delle fonti, quanto agli usi lessicali, alle figure retoriche e metriche. Ascoltando alcune delle voci più intense della letteratura italiana contemporanea, sarà possibile comprendere a fondo una stagione cruciale come quella novecentesca e acquisire gli strumenti per una autonoma lettura e analisi tematico-stilistica dei testi poetici.</p> <p>Seguirà, nel secondo semestre, un approfondimento su Eugenio Montale.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti impareranno a conoscere la poesia italiana del Novecento e il suo contesto storico-culturale. Leggeranno e commenteranno le opere di alcuni degli autori fondamentali di questa stagione letteraria, tra cui Guido Gozzano, Umberto Saba, Giuseppe Ungaretti, Salvatore Quasimodo, Mario Luzi, Giorgio Caproni, Vittorio Sereni, Pier Paolo Pasolini. Acquisiranno una buona capacità di analisi del testo poetico, padroneggiando le più importanti figure metriche e retoriche. Dimostreranno queste competenze in una presentazione orale, nella quale illustreranno alla classe una poesia a loro scelta, tra quelle raccolte nell' antologia mondadoriana. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
【授業計画と内容】											
Primo semestre: Corso Monografico di Letteratura Italiana. Poeti italiani del Novecento											
1: Introduzione e contesto storico-culturale.											
2-15: Poeti italiani del Novecento. Lettura e commento dei testi. Presentazioni orali preparate dagli studenti.											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

"Poeti italiani del Novecento", a cura di P.V. Mengaldo, Milano, Mondadori,2012.

P.G. Beltrami, "Gli strumenti della poesia. Guida alla metrica italiana", Bologna, Il Mulino, 2012.

G. Mazzoni, "Sulla poesia moderna", Bologna, Il Mulino, 2015.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	イタリア語
題目	Corso Monografico di Letteratura Italiana. L'opera poetica di Eugenio Montale, il "recto" e il "verso".										
[授業の概要・目的]											
<p>Dopo la ricognizione sulla poesia italiana del Novecento avviata nel primo semestre, il corso si concentrerà ora su uno dei massimi esponenti di questa stagione letteraria: il premio Nobel Eugenio Montale. Le conoscenze apprese si riveleranno indispensabili per indagare l'ampia parabola poetica montaliana, da "Ossi di seppia" ad "Altri versi". Riferendosi alla propria opera, il poeta ligure dichiarò in un'intervista di avere scritto un unico libro, di cui aveva offerto prima il "recto" ("Ossi di seppia", "Le occasioni", "La bufera e altro"), quindi il "verso" ("Satura", "Diario del '71 e del '72", "Quaderno di quattro anni", "Altri versi"). Nella sua varietà tematico-stilistica, l'opera poetica montaliana rappresenta un caso di studio particolarmente interessante e stimolante per concludere il corso annuale sulla poesia italiana del Novecento.</p>											
[到達目標]											
<p>Gli studenti analizzeranno la biografia e l'opera di uno degli autori fondamentali del Novecento italiano. Esamineranno una selezione di testi tratti dalle sette raccolte poetiche montaliane, analizzandone opportunamente temi e stile, con particolare attenzione al lessico. Familiarizzeranno con l'edizione critica dell'"Opera in versi", esempio straordinario nel panorama della filologia del Novecento, di collaborazione tra l'autore vivente e i suoi editori. Dimostreranno le competenze acquisite con una loro presentazione durante il corso. Maggiori dettagli su questa presentazione verranno forniti a lezione.</p>											
[授業計画と内容]											
<p>Secondo semestre: Corso Monografico di Letteratura Italiana. L'opera poetica di Eugenio Montale, il "recto" e il "verso".</p> <p>1: Introduzione e profilo biografico di Eugenio Montale.</p> <p>2-15: L'"Opera in versi". Lettura e commento dei testi. Presentazioni orali preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
[履修要件]											
È richiesto un ottimo livello di italiano.											
[成績評価の方法・観点]											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
[教科書]											
授業中に指示する											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

Montale, "L'opera in versi", a cura di R. Bettarini e G. Contini, Torino, Einaudi, 1980.

E. Montale, "Tutte le poesie", a cura di G. Zampa, Milano, Mondadori, 2017.

L. Blasucci, "Gli oggetti di Montale", Bologna, Il Mulino, 2002.

P.V. Mengaldo, "L'opera in versi di Eugenio Montale", in "La tradizione del Novecento", IV serie, Torino, Bollati-Boringhieri, 2000, pp. 66-113.

La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno sempre distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate delle letture da svolgere a casa. La modalità seminariale presuppone un coinvolgimento attivo degli studenti

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33731 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(特殊講義) Italian Language and Literature (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学外国語学部 准教授 菊池 正和			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ルイジ・ピランデッロ長編小説精読									
【授業の概要・目的】											
<p>近現代イタリア文学に関する基礎的素養を身につけ、文学作品の読解・研究能力を高める目的で、今年度はルイジ・ピランデッロの『撮影技師セラフィーノ・グッビオの手記』の精読を行う。また、作品研究のために関連資料や評論の講読も並行して行う予定である。授業方法としては、毎週輪読形式で精読を進めていく。出席者は教員が配布するテキストを毎週予習したうえで授業に臨み、意見・質問を出すこととする。</p>											
【到達目標】											
<p>現代の小説を正確に速く読解できるようになる。 当時の社会状況を補助線に作家の問題意識を正確に把握し、文体論と合わせて作家研究の手法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の概要の説明 第2回～第11回 長編小説 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” の精読（第5手記～第7手記）と内容分析 第12回～第15回 “Quaderni di Serafino Gubbio operatore” に関する研究論文の精読</p>											
【履修要件】											
<p>イタリア語の文法の学習は終わっておくこと。 また、イタリアの近現代史の知識があることが望ましい。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>授業への参加状況（60%）と期末レポート（40%）を基に評価する。</p>											
【教科書】											
<p>プリント等を配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） Luigi Pirandello 『Quaderni di Serafino Gubbio operatore』（Mondadori, 2012）ISBN:978-88-04-48761-6</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストの精読をベースにした授業なので予習が不可欠である。単語の意味を調べ終えた後にどれだけ内容理解に時間をとれるかが学習の鍵となる。

また、授業後は履修した箇所を音読すること。イタリア語を正確に発音しながら内容が頭に入ってくるまで繰り返し読むこと。

（その他（オフィスアワー等））

質問等は授業前後、あるいは下記のメールアドレスで随時受け付ける。

m_kikuch@lang.osaka-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33740 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	木1,2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及びイタリア語
題目		イタリア文学研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>研究論文執筆のための準備と訓練を目的とする演習です。「勉強」と「研究」の相違を明確に認識することから始めて、問題の設定と論証のプロセス、それらの表現方法、また文献目録の作り方や註や引用の仕方まで、実際の作業に即して論文作成の理解を深めます。</p>											
【到達目標】											
<p>卒業論文提出年次に当たる参加者にとっては、これを完成させることが目標となります。そうでない場合は、発表を聞いて疑問点を見出し質問することによって発表者の研究を支援することが求められます。こうした経験を通じて自らの研究においても「何を」「どのように追求し」「どのように発表」すればよいのかを学ぶことになるはずで、3回生の場合は、この作業を通じて自身の卒業論文のテーマを絞り込むことが授業の目標になります。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>初回 ガイダンス：研究発表の手順について説明を行い、おおよそのスケジュールを確認します。</p> <p>2-3回 前年度の修士論文・卒業論文提出者の報告。</p> <p>4-14回 大学院生及び卒業論文提出予定者の研究報告。 卒業論文の計画段階から各自の研究テーマについて順次発表をします。他の参加者にも自由に意見を述べてもらいつつ具体的に検討を行います。発表の合間に、註・参考文献・引用方法など学術論文作成に必要となる形式・体裁について説明します。また必要に応じて学術雑誌に掲載された論文を講読しながら、論文執筆の技術と注意事項を確認する予定です。3回生の参加者には、卒業論文のテーマにかんするレポートを作成してもらいます。</p> <p>15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点：授業への参加状況、授業内での発言などに基づく。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表前日までに研究室メンバー宛てに研究の要旨をメールで配布することが求められます。

(その他(オフィスアワー等))

原則的には隔週開講の授業ですが、学生の希望があればこれに限定されることなく時間の許す限り開講します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系190

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
イタリアの抒情詩の源泉であるフランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系191

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ペトラルカの抒情詩									
[授業の概要・目的]											
前期につづいて、フランチェスコ・ペトラルカの詩集を精読します。個々の作品の内容だけではなく形式的な特色にも注意を向けながら、トスカーナ語抒情詩の伝統について理解を深めることが授業の目的となります。											
[到達目標]											
詩文を正確に読解する力を身につける。 韻文の形式美について理解を深める。 古典文学の魅力を体感する。											
[授業計画と内容]											
以下の予定で授業を進めます。											
初回：イントロダクション											
第2回～第14回：『カンツォニエーレ』の読解と考察。 脚韻や詩行内のアクセントの位置といった形式的特徴を音読によって確認したうえで作品の内容を精査していきます。必要に応じてヴァチカン収蔵写本の表記を確かめながらテキストの校訂作業についても検証します。											
第15回：フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法を学んでいること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
原典の精読に基づく授業なので、十分な予習が求められます。毎回簡単な小テストを行って予習の精度を確認します。原文を音読してイタリア語の韻文のリズムに親しみましょう。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		15世紀フィレンツェの思想と文化、およびその影響									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリアでの文学だけでなく、15世紀、16世紀の思想的背景となったマルシリオ・フィチーノを中心とする思想について学ぶ。当時の思想を概観することによって、例えば、世界観に慣れ親しむことによって、文学の理解のみならず、美術史や科学史の理解を深めることを目的とする。また、フィチーノを中心に15世紀の文献を読むことによって、古典を読むイタリア語力を養う。本授業は大学院と共通であるが、学部生は、文献の集め方、文献による研究の進め方についても学ぶものである。</p>											
【到達目標】											
<p>まず何よりもイタリア語の古典に慣れ親しむ。さらには15世紀当時の思想を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げるようになる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>通常授業14回、定期試験、フィードバック1回 第1回 全般的なイントロダクション 第2回 15世紀の思想背景についてのイントロダクション 第3回 マルシリオ・フィチーノについてのイントロダクション 第4回～第11回 主にフィチーノのイタリア語文献を読みながら、適宜、評論なども訳読しつつ、ディスカッションをする。 第12回～第14回 受講者の希望にしたがって、フィチーノの影響を受けた詩など（例えば、ミケランジェロの詩集）違うジャンルのもも題材に扱う。 期末試験 第15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>定期試験（80％）を中心に、平常点（20％）授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33741 SJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(演習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸大学 国際教育総合センター 教授 河合 成雄			
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		マルシリオ・フィッチーノの『愛について』とその文学的影響									
【授業の概要・目的】											
マルシリオ・フィッチーノ(1433-1499)は、16世紀の文学に大きな影響を与えている。その著作の中でも『愛について』と『生について』は16世紀に版を重ね、全ヨーロッパでのベストセラーであった。授業ではとりわけ著者自身がイタリア語で書いた『愛について』から抜粋して読むことにより、文学史、だけでなく、科学史、美術史、哲学史等での重要性を明らかにし、フィッチーノ以後の文学を理解する視野を広げることを目的とする。											
【到達目標】											
まずは何よりも古典の基礎的な読解力を身に着ける。さらには15世紀当時の思想を学習することによって、主に文学への考察の幅を広げるようにできるようになる。他方、毎回、読んだことをディスカッションすることによって、イタリア語の読解力だけでなく、学んだ知識を基礎的な文献に即して発表する力を養う。											
【授業計画と内容】											
通常授業14回、定期試験、フィードバック1回											
第1回 全般的なイントロダクション											
第2回 「愛」の思想的背景についてイントロダクション											
第3回 マルシリオ・フィッチーノについてのイントロダクション、とりわけ『愛について』を中心に											
第4回～第12回 主にフィッチーノの『愛について(El libro dell'amore)』を読みながら、適宜、評論なども訳読をする。											
第13回～第14回 授業のテーマにそって、受講者各自が選んだテキストの紹介をし、さらには、ディスカッションをする。											
期末試験											
15回 フィードバック 受講者の解答に対してコメントをして、論理の発展をはかる。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
定期試験(80%)を中心に、平常点(20%)授業での訳読・発言などを加味して評価する。3名以下の場合は、平常点を重視することにする。その場合は、授業時において、評価方法について改めて告知する。											
----- イタリア語学イタリア文学(演習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する
入手が難しいテキストも多いので授業時にプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に精読・訳出する部分については、その都度指定するので、必ず読んでくること。

(その他(オフィスアワー等))

簡単な質問は授業の前後で受けます。大きな質問、および相談はその都度、遠隔(zoom使用)で受けます(要予約)。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系194

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(前期)									
[授業の概要・目的]											
<p>20世紀のイタリアを概観したSimona Colariziの“Storia del Novecento italiano”の第2章：La grande guerra (1914-1918)の冒頭から精読します。</p> <p>本書の文章は明晰なイタリア語散文であり、これを精読することによって伊語テキストの読解力を効率よく培うことができるでしょう。この読解力の養成が授業の目的となります。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・平易なイタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア現代史の基礎知識を習得すること。 											
[授業計画と内容]											
初回(イントロダクション)											
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながら読み進めます。文法の知識にしたがって正確に読解することを重視します。重要な専門用語や固有名詞については適宜説明を入れる予定です。											
15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストをもとに評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなくテキストの内容を把握することに努めてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア史講読(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>ルイーダ・サルヴァトレッリのイタリア史の概説書“Sommaro della storia d'Italia”から、第8章<Guelfi e Ghibellini, nobili e popolani>を精読します。</p> <p>イタリア人による歴史書は、日本人によって執筆されたものとは史観・価値観が異なるうえ、イタリア人の読者を想定したものであるためにこれを読むにあたって必要となる知識もまた異なります。このような原書の講読は、イタリア文化そのものにダイレクトに触れる機会を与えてくれるはずです。</p> <p>また著者サルヴァトレッリの文章はオーソドックスなイタリア語散文であり、これを精読することで伊語テキストの読解力を効率よく身につけることができます。この読解力の養成が授業の主要な目的となります。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語文献を自力で読解できるようになること。 ・イタリア史の基礎知識を習得すること。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の予定で授業を進めていきます。</p> <p>初回(イントロダクション)</p> <p>2回~14回(講読)</p> <p>文法の知識にしたがって正確にイタリア語を読み進めます。重要な文法事項についてはその都度確認をします。また専門用語や固有名詞については適宜補足説明をします。</p> <p>15回(フィードバック)</p>											
【履修要件】											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
小テストをもとに評価します。											
----- イタリア語学イタリア文学(講読)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(講読)(2)

[教科書]

プリント配布。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介します。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなく書かれている内容を自分なりに理解するよう心がけてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系196

科目ナンバリング		U-LET22 23751 LJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 村瀬 有司			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		イタリア語講読(前期)									
[授業の概要・目的]											
比較的平易な小説、エッセイ、新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。											
[到達目標]											
平易なイタリア語の文章を自力で読解できるようになること。											
[授業計画と内容]											
初回(ガイダンス)											
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらイタリア語の文章を精読します。											
15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストに基づいて評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなく、文章の内容を把握するよう努めてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系197

科目ナンバリング	U-LET22 23751 LJ36										
授業科目名 <英訳>	イタリア語学イタリア文学(講読) Italian Language and Literature (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	文学研究科 准教授 村瀬 有司				
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	イタリア語講読(後期)										
[授業の概要・目的]											
小説、エッセイ、新聞記事を精読します。イタリア語の読解力を養成することが授業の目的となります。											
[到達目標]											
イタリア語文献を辞書を引いて自力で読解できるようになること。											
[授業計画と内容]											
初回(ガイダンス)											
2回~14回 必要に応じて文法事項を確認しながらテキストを精読します。											
15回 フィードバック											
[履修要件]											
イタリア語文法の基礎知識を備えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
小テストに基づいて評価します。											
[教科書]											
プリント配布。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
予習がすべての授業です。単語の意味を調べるだけでなく文章の内容を理解するよう心がけてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		U-LET22 33764 PJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: "Se una notte di inverno un viaggiatore"									
【授業の概要・目的】											
<p>Il corso di Esercitazioni di lingua italiana di quest'anno prenderà le mosse dalla lettura del celebre romanzo di Italo Calvino "Se una notte d'inverno un viaggiatore". Si tratta di un testo particolarmente indicato per perfezionare la conoscenza della lingua italiana, "un romanzo sul piacere di leggere romanzi", come lo definì il suo autore. Il protagonista è infatti un Lettore alle prese con un insolito libro: dieci "incipit" e nessuna conclusione. Seguendo le sue avventure, gli studenti avranno modo di esercitarsi su diversi tipi di testo, guidati dalla perizia narrativa di Calvino e dal suo raffinato gioco letterario.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Se una notte d'inverno un viaggiatore". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l'italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell'italiano.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Esercitazioni di lingua italiana. Primo semestre: "Se una notte di inverno un viaggiatore"</p> <p>1. Introduzione 2-15. Lettura e commento del romanzo "Se una notte di inverno un viaggiatore". Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l'esame. È consentita una sola assenza.</p>											
【教科書】											
<p>I. Calvino, "Romanzi e racconti", Milano, Mondadori, 2013.</p> <p>La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.</p>											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		U-LET22 33764 PJ36									
授業科目名 <英訳>		イタリア語学イタリア文学(外国語実習) Italian Language and Literature (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	3回生以上	単位数	1	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	実習	使用 言語	イタリア語
題目		Esercitazioni di lingua italiana: "Il castello dei destini incrociati"									
【授業の概要・目的】											
Dopo la lettura di "Se una notte d' inverno un viaggiatore", il corso prosegue, nel secondo semestre, affrontando un altro romanzo di Calvino: "Il castello dei destini incrociati". Anche in questo caso, l' affascinante meccanismo narrativo ideato dall' autore si rivelerà particolarmente indicato per le nostre esercitazioni di lingua italiana. Seguendo la logica combinatoria dei tarocchi, quasi giocando a carte, lo studente imparerà a leggere e a comporre, in italiano, differenti tipologie di testo.											
【到達目標】											
Gli studenti leggeranno e commenteranno un classico della letteratura italiana: "Il castello dei destini incrociati". Acquisiranno una maggiore dimestichezza con l' italiano scritto: impareranno a orientarsi attraverso tipologie testuali e generi letterari diversi. A questa lettura verranno associati specifici esercizi di scrittura, per consentire di mettere in pratica le competenze acquisite e perfezionare così la conoscenza del lessico, della morfologia e della sintassi dell' italiano.											
【授業計画と内容】											
Esercitazioni di lingua italiana. Secondo semestre: "Il castello dei destini incrociati"											
1. Introduzione											
2-15. Lettura e commento del "Il castello dei destini incrociati". Esercitazioni e presentazioni preparate dagli studenti.											
Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.											
【履修要件】											
Corso destinato a studenti di italiano elementare o intermedio.											
【成績評価の方法・観点】											
La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.											
【教科書】											
I. Calvino, "Romanzi e racconti", Milano, Mondadori, 2013.											
La bibliografia qui indicata costituisce un primo riferimento generale. I testi da leggere e studiare verranno distribuiti in forma di dispensa durante il corso, insieme ad altre indicazioni bibliografiche di approfondimento.											
----- イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)へ続く -----											

イタリア語学イタリア文学(外国語実習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

(その他(オフィスアワー等))

L'orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系200

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）I Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>イタリア語文法の基礎を学習し、読み書きに必要な知識の習得を目指す。 授業の進め方としては、文法解説の後で練習問題を解いてもらい、知識の定着を図るというオーソ ドックスなものを想定している。 イタリア語やロマンス諸語に興味のある初学者を対象とする。</p>											
【到達目標】											
<p>現在・過去・未来の各時制と代名詞の使い方を学習し、簡単な読み書きとコミュニケーションがで けるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1週：オリエンテーションと発音 第2週：Lezione 1 [名詞、冠詞] 第3週：Lezione 2 [動詞 essere と avere] 第4週：Lezione 3 [形容詞] 第5週：Lezione 4 [直説法現在・規則動詞] 第6週：Lezione 5 [直説法現在・不規則動詞] 第7週：Lezione 6 [人称代名詞] 第8週：Lezione 7 [再起動詞] 第9週：テストと解説 第10週：Lezione 8 [命令法] 第11週：Lezione 9 [直説法近過去] 第12週：Lezione 10 [直説法半過去・大過去] 第13週：Lezione 11 [直説法未来・先立未来] 第14週：Lezione 12 [受動態] 第15週：テストと解説</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>各課の締めくくりで行う小テスト（30%） 前期中2回行うまとめのテスト(70%)</p>											
【教科書】											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5											
----- イタリア語（初級4時間コース）I(2)へ続く -----											

イタリア語（初級4時間コース）I(2)

[参考書等]

（参考書）

『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020

『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859

[授業外学修（予習・復習）等]

各授業の前に60分前後の予習が求められる。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系201

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		イタリア語（初級4時間コース）II Italian(4H)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 菅野 類			
配当 学年	2回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2,木3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		イタリア語（初級II）									
[授業の概要・目的]											
イタリア語文法の基礎を学習済みの学生を対象に、イタリア語で書かれたテキストを読むために必要な知識や技術を習得する。											
[到達目標]											
条件法や接続法といった動詞の性質を理解し、現代イタリアの短編小説やWeb上の情報を自立的に読めるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1週：Lezione 13 [比較級・最上級] 第2週：Lezione 14 [関係詞] 第3週：Lezione 15 [ジェルンディオ・ciとneの解説] 第4週：Lezione 16 [条件法] 第5週：Lezione 17 [接続法] 第6週：Lezione 17 [接続法・仮定文] 第7週：テスト 第8 - 14週：遠過去および講読 第15週：テスト・フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各課終了ごとの小テスト(30%) 後期に2回行われるまとめのテスト(70%)											
[教科書]											
杉本 裕之 『基礎イタリア語講座 - CD付き改訂版 - 』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55311-5 講読用のテキストは適宜こちらが用意する。											
[参考書等]											
（参考書） 『伊和中辞典』（小学館）ISBN:4095154020 『プリーモ伊和辞典』（白水社）ISBN:4560000859											
[授業外学修（予習・復習）等]											
各授業前に60分前後の予習が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

西洋文化学系202

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un viaggio virtuale alla scoperta dell' Italia, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varietà di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura e il cinema, tra tradizione e innovazione. Città dopo città, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti più affascinanti della cultura italiana, familiarizzeranno con il lessico della vita quotidiana, dei viaggi e del tempo libero. In questo modo acquisiranno una più sicura padronanza della lingua italiana, in particolare nella sua produzione orale, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarità con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)</p> <p>1: “ Prima di partire ” : introduzione</p> <p>2-13: “ Viaggio in Italia ” : le tappe del viaggio includono alcune delle più belle città della Penisola e la conversazione su temi centrali della cultura italiana: l' arte e i musei, la poesia e la letteratura, la cucina, la moda, il teatro, la musica e il cinema. Nella definizione dell' itinerario di viaggio verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti. Una lezione sarà dedicata alla proiezione e al commento un importante film italiano.</p> <p>14-15: “ Racconta il tuo viaggio ” : presentazioni orali preparate dagli studenti su un aspetto della cultura italiana che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

イタリア語（会話）(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

（その他（オフィスアワー等））

L' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系203

科目ナンバリング		U-LET49 29663 LJ48									
授業科目名 <英訳>		イタリア語（会話） Spoken Italian				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 Ida Duretto			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	イタリア語
題目		Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)									
【授業の概要・目的】											
<p>Attraverso un viaggio virtuale alla scoperta dell' Italia, il corso si propone di fornire gli strumenti per la conversazione su un' ampia varietà di argomenti, che includono l' arte e la musica, la letteratura e il cinema, tra tradizione e innovazione. Città dopo città, gli studenti impareranno a conoscere gli aspetti più affascinanti della cultura italiana, familiarizzeranno con il lessico della vita quotidiana, dei viaggi e del tempo libero. In questo modo acquisiranno una più sicura padronanza della lingua italiana, ampliando il loro vocabolario, migliorando la pronuncia, e rafforzando le competenze grammaticali e sintattiche.</p>											
【到達目標】											
<p>Gli studenti perfezioneranno la propria competenza della lingua italiana. Impareranno a gestire al meglio le funzioni comunicative fondamentali e acquisiranno familiarità con la conversazione su argomenti essenziali della vita quotidiana; dimostreranno buona conoscenza delle strutture grammaticali e del vocabolario di base in periodiche esercitazioni. Saranno in grado di guardare e discutere un film in lingua, di progettare una presentazione orale e di eseguirla di fronte alla classe.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Corso di conversazione in italiano (livello intermedio)</p> <p>1: “ Prima di partire ” : introduzione</p> <p>2-13: “ Viaggio in Italia ” : le tappe del viaggio includono alcune delle più belle città della Penisola e la conversazione su temi centrali della cultura italiana: l' arte e i musei, la poesia e la letteratura, la cucina, la moda, il teatro, la musica e il cinema. Nella definizione dell' itinerario di viaggio verranno tenuti in particolare considerazione gli interessi degli studenti. Una lezione sarà dedicata alla proiezione e al commento di un importante film italiano.</p> <p>14-15: “ Racconta il tuo viaggio ” : presentazioni orali preparate dagli studenti su un aspetto della cultura italiana che ha suscitato il loro interesse.</p> <p>Maggiori dettagli sul programma saranno forniti durante la prima lezione.</p>											
【履修要件】											
<p>Questo corso è rivolto agli studenti di italiano elementare e intermedio di tutte le facoltà.</p>											
----- イタリア語（会話）(2)へ続く -----											

イタリア語（会話）(2)

[成績評価の方法・観点]

La valutazione sarà basata sulla partecipazione attiva alle lezioni, sulle esercitazioni e sulla presentazione svolta in classe. Frequentare le lezioni è fondamentale per superare l' esame. È consentita una sola assenza.

[教科書]

Handouts

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

Dopo ogni lezione verranno assegnate letture ed esercitazioni da svolgere a casa. Il seminario presuppone una partecipazione attiva degli studenti.

（その他（オフィスアワー等））

L' orario di ricevimento verrà comunicato durante la prima lezione.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系204

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）I Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級I）									
【授業の概要・目的】											
<p>スペイン語の発音および基礎文法（直説法まで）を教科書に沿って学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単なテキストや会話文の読解からなる。初級文法のうち直説法を一通り学習するので進度が速く、そのため予習と復習は必須である。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の発音のルールを理解し正しく発音できるようになる。 ・スペイン語の基本的な構造を理解し、直説法を用いた平易な文章を読解しまた作文できるようになる。 ・初級Ⅱ（接続法、命令法、初級文法発展）の学習に繋げる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のとおり教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>第1回：オリエンテーション、スペイン語の歴史と地理について略説、第0課導入 第2回：第0課 [アルファベット、母音と子音、アクセント] 第3回：第1課 [名詞、冠詞] 第4回：第2課 [主語人称代名詞、動詞 直説法現在形、否定文] 第5回：第3課 [動詞 ser, estar, hay、形容詞] 第6回：第4課 [所有詞、指示詞、疑問文と疑問詞] 第7回：第5課 [動詞 直説法現在形（2）、目的格人称代名詞] 第8回：第6課 [動詞 直説法現在形（3）、時刻表現、過去分詞、現在完了形] 第9回：第7課 [gustar構文、前置詞各人称代名詞、再帰動詞] 第10回：第8課 [動詞 直説法点過去] 第11回：第9課 [動詞 直説法線過去、不定語・否定語、現在分詞] 第12回：過去時制とアスペクトについて確認（教科書外の練習問題等を使用） 第13回：第10課 [動詞 直説法未来、関係詞（1）] 第14回：まとめと総括 期末試験 第15回：フィードバック</p>											
----- ス페인語（初級）I (2)へ続く -----											

スペイン語（初級）I (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

小テスト 20%（語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施）
期末試験 80%（直説法の活用・用法を理解しているか判定する）

【教科書】

長谷川信弥 他 『これでわかる！スペイン語の初級』（朝日出版社,2016）ISBN:978-4-255-55078-7
必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。

【参考書等】

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

【授業外学修（予習・復習）等】

進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系205

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（初級）II Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（初級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>「初級I」に続きスペイン語の初級文法を教科書に沿いながら接続法、命令法、条件法まで学習する。</p> <p>授業は文法事項の解説と例文訳読、練習問題、簡単なテキストや会話文の読解からなる。</p>											
【到達目標】											
<p>CEFRのA 1程度のレベルを修得する。</p> <p>辞書を用いて時間をかけて調べれば、日常生活にかかわるごく簡単なテキストなら意味を把握することができる。母語話者の補助があれば、挨拶など日常生活に最低限必要なコミュニケーションをとることができる。トイレ・出口といった市民生活に不可欠な街頭指示なら理解できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のとおり教科書に沿って進めるが、受講者の理解度を確認しながら進度を調節したり、必要であれば補助的にプリント教材を挿入する。</p> <p>第1回：オリエンテーション、第0課～10課の振り返り、接続法への導入 第2～3回：第11課 [動詞 接続法現在] 第4～5回：第12課 [動詞 命令形、感嘆文、動詞 直説法過去完了] 第6回：第13課 [比較表現、関係詞(2)] 第7～8回：第14課 [動詞 直説法過去未来、接続法過去] 第9～10回：文法発展 [動詞 - 直説法過去未来完了、条件文] 第11～14週：文法発展 [テキスト講読または中級文法] 期末試験 第15週：フィードバック</p> <p>第11週以降は履修生の関心領域なども踏まえて教科書外の教材を配布する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期開講の「初級I」の学修者であること、もしくは同等（教科書第10課まで修了）のスペイン語知識を有していること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>小テスト 20%（語彙や動詞活用の定着を図るため随時実施する）</p>											
----- スペイン語（初級）II (2)へ続く -----											

スペイン語（初級）Ⅱ(2)

期末試験 80%（接続法を中心とした文法を理解しているか判定する）

[教科書]

長谷川信弥 他 『これでわかる！スペイン語の初級』（朝日出版社,2016）ISBN:978-4-255-55078-7
（初級Ⅰと同じ教科書である。）

[参考書等]

（参考書）

辞書 『現代スペイン語辞典』（白水社）

辞書 『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』（小学館）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2（中級まで対応した文法解説書）

上記のものでなくとも初修時に使用していた辞書、参考書があれば引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

進度に沿って教科書各課および配布される教材の復習（既習事項の定着）と予習（語彙調査、例文等の下訳、練習問題の解答、等）をした上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級I）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級I）									
【授業の概要・目的】											
教科書に沿ってスペイン語文法の根幹である各法・時制の動詞活用とその用法を再確認する。動詞活用や作文などやや多めの練習問題に取り組み、理解力だけでなく記述力も養成する。また各課で会話文を通し自然で日常的な表現に触れ、スペインの地理や歴史を紹介した平易なテキストを講読し読解力も高める。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の記事を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。 ・中級II（接続法、条件法など文法発展）の学習に繋げる。 											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
<p>第1回 オリエンテーション、発音と初級文法（主に直説法現在）の復習</p> <p>第2～3回 第1課 直説法の過去時制・講読「スペイン人の日常生活」</p> <p>第4～5回 第2課 直説法の未来時制・講読「地理と社会」</p> <p>第6～8回 第3課 再帰動詞・関係詞・講読「祭り」</p> <p>第9～11回 第4課 再帰受身・無人称文・無意志表現・講読「歴史的文化財」</p> <p>第12～14回 第5課 接続法（その1）規則変化・名詞節・講読「スペインの歴史」</p> <p>期末試験</p> <p>第15回 フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> ・各課とも「文法解説」「会話文」「練習問題」「テキスト講読」のサイクルで進める。 ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。 ・必要に応じて補助的にプリント教材を挿入する。 											
【履修要件】											
スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。											
----- スペイン語（中級I）（語学）(2)へ続く -----											

スペイン語（中級I）（語学）(2)

[成績評価の方法・観点]

小テスト 20% [語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施]
期末試験 80% [直説法および接続法の用法を理解しているかを判定]

[教科書]

パロマ・トレナド 他 『プラサ・マヨールIIソフト版～ステップアップ・スペイン語～』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55026-8

[参考書等]

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものを引き続き活用すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

西洋文化学系207

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		スペイン語（中級II）（語学） Spanish				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小西 咲子			
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		スペイン語（中級II）									
【授業の概要・目的】											
<p>「スペイン語文中級I」を発展させ、教科書に沿って接続法および条件法の用法を再確認する。動詞活用や作文など多めの練習問題に取り組み、理解力だけでなく記述力も養成する。また各課で会話文を通し自然で日常的な表現に触れ、スペインの地理や歴史を紹介した平易なテキストを講読し読解力も高める。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・CEFRのA2からB1程度のレベルを修得する。 ・辞書を用いて時間をかけて語彙を調べれば一般紙の論説文や簡単な文芸作品を読解することができる。 ・定型文を発展させて自らで文章を作ることができる。 ・スペイン語に関する知識と併せてスペインの文化に関する理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
以下のとおり教科書に沿って進める。											
<p>第1回 オリエンテーション、第5課 接続法（その1）の復習 第2～4回 第6課 接続法（その2）形容詞節・現在完了・講読「絵画と美術」 第5～7回 第7課 接続法（その3）副詞節・独立文・講読「セルバンテスとドン・キホーテ」 第8～10回 第8課 接続法の過去・過去完了・講読「20世紀のスペイン」 第11～13回 第9課 条件文・講読「スペイン語」 第14回 文法補足〔比較表現・命令文など〕 期末試験 第15回 フィードバック</p>											
<ul style="list-style-type: none"> ・各課とも「文法解説」「会話文」「練習問題」「テキスト講読」のサイクルで進める。 ・受講者の理解度を確認しながら進度を調節することもある。 ・必要に応じて補助的にプリント教材を挿入する。 											
【履修要件】											
<p>スペイン語の初級文法（少なくとも接続法現在まで）が修得済みであること。</p> <p>スペイン語（中級I）を修了していることが望ましいが、未修の場合は同科目のシラバスを参照し、教科書の第6課までの内容を理解し、文法事項を復習しておくこと。</p>											
----- スペイン語（中級II）（語学）(2)へ続く -----											

スペイン語（中級Ⅱ）（語学）(2)

【成績評価の方法・観点】

小テスト 20% [語彙や動詞活用等、既習事項の定着を図るため随時実施]
期末試験 80% [接続法や条件法の用法を理解しているかを判定]

【教科書】

パロマ・トレナド 他 『プラサ・マヨールⅡソフト版～ステップアップ・スペイン語～』（朝日出版社）ISBN:978-4-255-55026-8（スペイン語（中級Ⅱ）と同じ教科書である。）

【参考書等】

（参考書）

上田博人 『スペイン語文法ハンドブック』（研究社）ISBN:978-4-327-39420-2
辞書は初修時に使っていたものがあれば引き続き活用すること。

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回の授業前の準備は必須である。進度に沿って各課の復習（既習事項の定着）、予習（語彙調べ、練習問題の解答、テキストの下訳）のうえ授業に参加すること。

（その他（オフィスアワー等））

教員メール [konishi.sakiko.45s](mailto:konishi.sakiko.45s@st.kyoto-u.ac.jp) アットマーク st.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。